

Jリーグホームタウン活動調査 2023年版



目次

2 特集～2023年～ すべての人が暮らしやすいまちへ ～DEIの推進について～

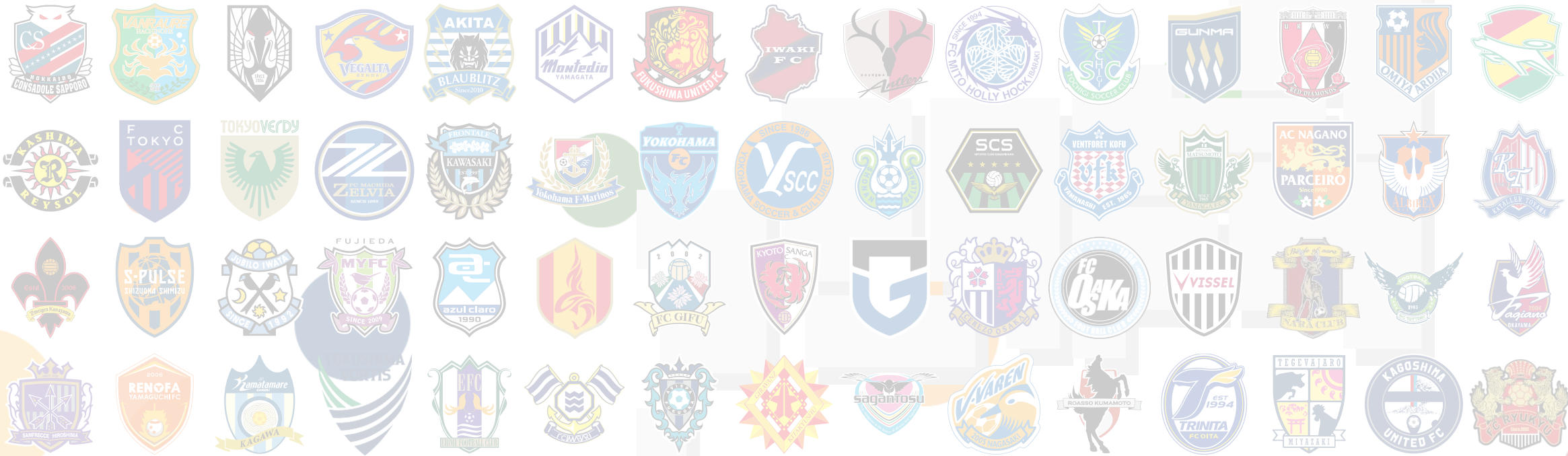
- 3 調査について
- 4 はじめに
- 5 各クラブの代表的な取り組み
 - ①障害を持つ方に対する取り組み
 - ②在留外国人に対する取り組み
 - ③様々な方が一緒に活動する取り組み
 - ④経済的・社会的困難にあるこどもを支援する取り組み、
ひとり親家庭を支援する取り組み
 - ⑤高齢者に対する取り組み

15 Jリーグホームタウン活動調査 2023年

- 16 調査概要
- 18 60クラブ全体集計
- 19 60クラブ活動目的(クラブ別)
- 20 SDGsへの取り組み詳細(60クラブ全体)
- 21 ホームタウン活動 クラブ別紹介

特集 ～2023年～

すべての人が暮らしやすいまちへ ～DEIの推進について～



調査について

調査方法

- 全60クラブへのアンケートを実施

対象期間

- 2023年1月～12月

アンケート内容

■ JクラブのDEI推進

- 実施しているDEI推進にあたる活動のジャンル
- 最も世の中に知ってほしい取り組み



はじめに

Jクラブは、地域社会と一体となったクラブづくりをする義務を負っています。
2018年からJリーグはシャレン!Jリーグ社会連携をスタートし、
地域の課題をテーマに、自治体や企業、NPO法人など3者以上の協働で取り組む活動をしてきました。

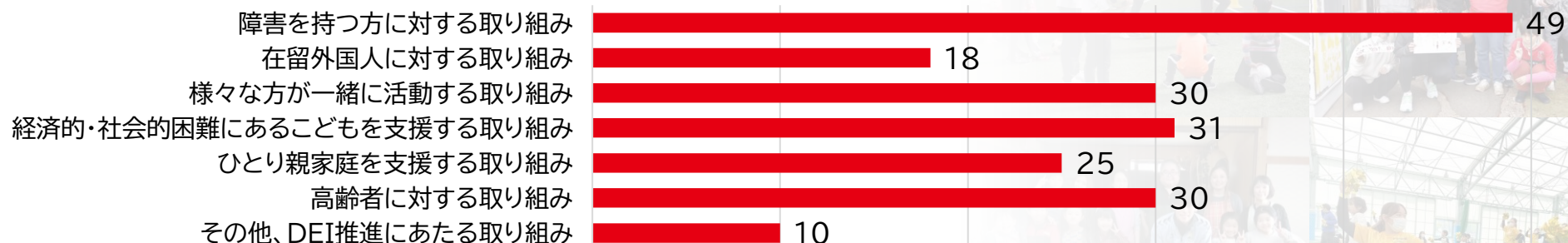
地域には多くの課題が存在します。
その中で、Jクラブは自分たちの持つリソースを提供することで解決につながる活動をそれぞれが続けています。
サッカー、スポーツといった最も得意とする分野に加え、ファン・サポーターをはじめとした地域の方々を巻き込む力を活かしたもの。
ともに歩んでくださるパートナー企業や行政と協力して成し遂げられるもの。

今回は、すべての人が暮らしやすいまちとなるように各クラブが行っている
DEI(ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公平性)、インクルージョン(包摂性))を推進する活動をご紹介します。
誰もが住みやすいまちはサステナブルで、サステナブルでありたいJクラブにとってもとても重要です。

今回ご紹介する活動には誰もが参加できるものも含まれています。
ぜひ機会がありましたらご参加ください。

公益社団法人日本プロサッカーリーグ

■実施しているDEI推進にあたる活動のジャンル (単位:クラブ)



各クラブの代表的な取り組み ①障害を持つ方に対する取り組み

障害があっても安心してスタジアムで観戦できること、サッカーやスポーツに取り組める場があること。

Jクラブの得意なサッカーやスポーツを中心に、それだけでなく、障害のある方が活躍できる場の提供や啓発活動を行っています。



水戸ホーリーホック
障害者サッカーチーム「クノスフェアビデ」設立
農福連携も目指す。



浦和レッズ
埼玉県で活躍する11人の「障害者アート展」
2023シーズンホームゲーム開催日のコンコースにて、埼玉県で活躍する11人のアーティストによる作品を展示。このほか交流を図る取り組みも実施。



FC東京
センサリールーム設置
感覚過敏を持つお子さんとそのご家族が使える部屋を無償で用意。



東京ヴェルディ
様々な障害や病気を持つ方が利用できる「Green Heart Room」設置
主な対象となる自閉症や感覚過敏だけでなく、様々な障がいやご病気のある方、そのご家族などにもご利用頂けるよう、毎回部屋をカスタマイズしている。



FC町田ゼルビア
町田市子ども発達センターと連携した「センサリールーム」設置
感覚過敏を持つお子さんとそのご家族が使える部屋を用意し、町田市子ども発達センターと連携し無料招待として観戦機会を設定している。



横浜F・マリノス
知的障害者サッカーチーム「横浜F・マリノスフットウーロ」の運営
2004年発足、横浜ラポール・横浜市スポーツ協会と協力して運営。2018年度からは横浜市社会人リーグに登録して健常者とも試合を行っている。



ヴァンフォーレ甲府
精神疾患や知的障害を有する方を対象とした「ヴァンフォーレふれあいカップ」
対象者の方々のスポーツ振興と保健福祉の普及・啓蒙を図り、社会参加を促進するとともに、山梨県における障害者フットサル大会の定着を目指す。



松本山雅FC
「モバイル型センサリールーム」設置トライアル
施設内にセンサリールームとして使用できる部屋が無い場合でも、様々な場所でセンサリールームを設置することができればと考案トライアルを実施。

各クラブの代表的な取り組み ①障害を持つ方に対する取り組み

障害があっても安心してスタジアムで観戦できること、サッカーやスポーツに取り組める場があること。

Jクラブの得意なサッカーやスポーツを中心に、それだけでなく、障害のある方が活躍できる場の提供や啓発活動を行っています。



アルビレックス新潟
障がい者対象の就労機会提供
「アルビレックススマイルプロジェクト」

ホームゲーム開催時に障がい者の方に継続的な就労機会を提供、2023年は69名が参加。



清水エスパルス
知的障がいのある子どもたち対象
「静岡パラフットボールチアダンススクール」

静岡FIDサッカー連盟主催。エスパルスダンススクール講師全面サポートで開校。



ジュビロ磐田
知的障害を持つ方対象のサッカースクール
「ジュビロ磐田ルナソルジャス」

中学生以上を対象としたサッカースクールを開講し、ジュビロ磐田サッカースクール生と共にインクルーシブサッカー教室を積極的に実施している。



京都サンガF.C.
障害のある方が手掛けられた
「ほっとはあと製品の販売」

障がいのある方が手掛けられた食品や雑貨を販売。



ガンバ大阪
精神障がい者フットサル大会
「ガンバ大阪スカンビオカップ
Supported by エスプールプラス」

精神障がい者のフットサル大会を通じて社会復帰を後押しする。



セレッソ大阪
センサリールームの設置と
発達障がいのあるお子様のサッカー教室

センサリールームの常設と、サッカー教室等の実施により、周囲を気にすることなく親子や家族で一日楽しんでいただくことを目的としている。



奈良クラブ
「奈良クラブバモス」のユニフォームデザインを
知的障がい者アーティストが担当

奈良クラブの知的障がい者サッカーチーム「奈良クラブバモス」のユニフォームデザインを奈良県「社会福祉法人青葉仁会」の知的障がい者アーティストが担当。



ガイナレ鳥取
スペシャルオリンピックスとの連携

障害を持つ方と一緒に身体を動かす単発の教室を毎年実施。

各クラブの代表的な取り組み ①障害を持つ方に対する取り組み

障害があっても安心してスタジアムで観戦できること、サッカーやスポーツに取り組める場があること。

Jクラブの得意なサッカーやスポーツを中心に、それだけでなく、障害のある方が活躍できる場の提供や啓発活動を行っています。



「ALSアクションデー」でのALS認知啓発活動
地元の中村女子高等学校調理科の学生とALS患者さん向けの嚥下食レシピを参考にしたお菓子の販売や、ALS治療薬を製造する田辺三菱製薬株式会社の従業員の皆様と患者さんを繋ぐ取り組みを実施。



発達障がいを持つ子どもたち対象・愛媛FC「Power of Smileプロジェクト」
子供たちに体を動かす楽しさを伝える。



障害のある子どもたちへのスポーツ体験プログラム
長崎県より委託を受けて、年8校に伺いサッカー教室や夢授業を実施。



知的障がい者サッカーチーム「フューチャーズ」の運営
2019年発足。鹿児島県社会人リーグで活動。トップのホームゲーム運営補助なども行う。

各クラブの代表的な取り組み ②在留外国人に対する取り組み

世界で一番競技人口が多いサッカーは、どんな国の人たちであってもつなぐ力を持っています。フットサル大会の開催やお仕事体験、交流する機会を設けることで、在留外国人の方々が地域と混ざり合うきっかけをつくっています。



ザスパ群馬

ベトナム人協会との連携
ベトナム人に余暇活動の提供。
地域コミュニティーの形成、参加。



清水エスパルス

多文化共生/やさしい日本語普及啓発
静岡市と連携し、やさしい日本語講座への外国人選手派遣、広報紙プロモーションを実施。



藤枝MYFC

MYFC ふっとさる かつぷ
海外からの実習生のいる企業対抗のフットサル大会を実施。



名古屋グランパス

在留ブラジルキッズによるお仕事体験
県内に多いブラジル人キッズがスタジアムでの仕事を体験。



レノファ山口FC

国際フレンドシップ・デー
多文化共生社会の実現・異文化の理解力向上・外国人在留者への理解促進を目的として、世界パネル展や他国語挨拶スタンプラリー、世界の民族衣装を着てみよう！などの体験型のイベントを実施。



サガン鳥栖

Sagan World Cup
佐賀県在住の技能実習生や留学生を対象にJICA、佐賀県国際交流協会と共催するフットサル大会を開催。



ロアッソ熊本

JICA九州等との協働による多文化共生の取り組み
特に技能実習生を中心とした熊本県内在住外国人を対象にホームゲームへの招待、試合会場でのJICAによる多文化共生ブース等を実施。

各クラブの代表的な取り組み ③様々な方が一緒に活動する取り組み

年齢や障害の有無にかかわらず、様々な人たちが参加できる活動も多くのクラブが実施しています。一緒に活動することが理解や共感を促進します。



ブラインドサッカーチームとの協働

「コンサドーレ×ナマール北海道」共同で修学旅行や校外学習、企業研修のコンテンツを提供。



インクルーシブスポーツキャラバン

障がいの有無や程度に関わらず、楽しめるスポーツイベントを実施。多様な人々が共に活動し、スポーツや体を動かすことの楽しさを体感しながら、障がい者理解につなげることを目的としている。



ユニバーサルスポーツ体験会

健常者と障がい者/若年層と高齢者の相互理解・交流を深めるため、ユニバーサルスポーツ体験会をホームゲーム全試合で実施。運動不足解消やコミュニケーション不足を解決する手段としても活用。



デフリンピックフェスティバル

小学生を対象としたデフサッカー、ブラインドサッカー、手話の体験を実施。



パートナー企業と連動した「インクルーシブフェスタ」開催

マッチデーにパートナー企業と連動した取り組みとしてパラスポーツ体験を実施。



ホームゲームでの「手話応援デー」開催

本企画に賛同する参加者が、手話応援エリアにて手話での応援をする企画。聴覚障がいのある方だけではなく、ファン・サポーターの方々と一緒になり、スポーツを楽しんでいただける取り組みとなっている。



インクルーシブフットボール

障がいのあるなしに関係なく一緒にボールと触れ合う機会をつくっている。



バリアフリーeサッカーイベント開催

選手や車椅子eサッカーチームの混成チームで、eFootball™をプレイするイベントを実施。ファン・サポーターの力強い応援を受けながら、心をひとつに「勝利」を目指す。

各クラブの代表的な取り組み ③様々な方が一緒に活動する取り組み

年齢や障害の有無にかかわらず、様々な人たちが参加できる活動も多くのクラブが実施しています。一緒に活動することが理解や共感を促進します。



湘南ベルマーレ

【みんなの「たのしめてるか。」開催
障がいの有無に関係なく、老若男女どなたでも参加することができ、参加したみんなが楽しめて夢中になる「たのしめてるか。」という瞬間を発見するきっかけ作りを目指して開催。



SC相模原

SC相模原JOB見学・体験ツアー
Jリーグ試合の裏方としていきいきと各々の役割を担っている人たちをインタビューしながらスタジアムをめぐる職場見学ツアーを実施。働くことを学び、居場所をつくる後押しとなることを目的としている。



SC相模原

インクルーシブフットボールフェスタ神奈川
サッカーを通じて障がい児・者と健常児・者との相互理解の機会創出と障がい者サッカーの認知拡大を目的に神奈川県内の障がい者サッカーチームと県内のJリーグ6クラブ、WEクラブなどの協働により開催。



ツエーゲン金沢

視覚障害者サッカー観戦会
県内各種団体・大学と連携して視覚障害の方を対象にしたサッカー観戦会を実施。



FC大阪

ダイバーシティ塾
様々なテーマについて見識のある方や実際に企業として取り組まれている方などをお招きして議論をする学びの場を設ける。



ファジアーノ岡山

にじいろキャラバン
岡山県下の小学校へ専属コーチを派遣し、出前授業を実施。サッカーというツールを使いながら、「子どもが自分自身で考え、決めること」を促し、「人と人とのつながりの大切さ」を学ぶプログラムとなっている。



FC今治

スタジアムに複合福祉施設を創り、様々な協業を実施
今治里山スタジアム内にある「コミュニティビレッジ」となるにおいて施設を利用する障がい者の方々とクラブスタッフ等と一緒に様々な協働を実施。



アビスパ福岡

「インクルーシブスポーツ」体験会開催
ブラインドサッカー、デフサッカー、ウォーキングフットボールなど、世代や国籍、障がいの有無に関係なくスポーツを楽しむことができるインクルーシブスポーツフェスタを開催。

各クラブの代表的な取り組み ③様々な方が一緒に活動する取り組み

年齢や障害の有無にかかわらず、様々な人たちが参加できる活動も多くのクラブが実施しています。一緒に活動することが理解や共感を促進します。



OriHimeでの試合運営参加

分身ロボットオリヒメを使った外出困難者の社会参画促進を目的として、ホームゲーム会場でオリヒメを使用し運営業務に従事してもらった。



ユニバーサルスポーツ体験会の開催

全ホームゲームにおいてユニバーサル(パラ)スポーツ競技団体を招聘して体験会を実施し、幅広い世代が楽しめるスポーツや障がい者スポーツを紹介。

各クラブの代表的な取り組み ④経済的・社会的困難にあるこどもを支援する取り組み、ひとり親家庭を支援する取り組み

困難な状況にあるこどもたちやひとり親家庭の皆さんにとって、少しでも楽しい経験を。そしてJクラブが声をかけることで多くの方が協力してくださっています。



ヴァンラーレ八戸
「こども宅食おすそわけ便」
フードドライブへのグッズ寄付など
ホームタウン内で開催されているフードドライブへのグッズ寄付。マスコットも活動に参加。



ブラウブリッツ秋田
子ども食堂支援
パートナー企業と連携し実施したブランドキャンペーンの売上全額を寄付。



福島ユナイテッドFC
選手による児童養護施設訪問
施設にて開催されたイベントに選手が参加し、子どもたちとのふれあいを楽しんだ。またプレゼントも寄贈。



栃木SC
「栃木SCツナガルプロジェクト」
食品提供や招待など
子ども食堂へフードドライブで集まった食品を提供。マスコットや選手訪問・試合招待、ひとり親世帯の試合招待を実施。



浦和レッズ
子ども支援のための「このゆびとまれっず！」
(ハートフルケアとREDS Santa)
子どもの貧困支援を目的に「ハートフルケア(サッカー体験と試合観戦)」「REDS Santa(支援物資の寄贈)」を行っている。



ジェフユナイテッド千葉
子ども食堂選手訪問活動
子どもたちと地域のつながりを作るため、活動を実施。千葉市内全子ども食堂にカトラリーセットをプレゼントし、10食堂には選手が訪問。



カタレ富山
誕生日寄付
誕生日に生まれたことに感謝し、感謝の気持ちを誰かへの応援にかえて寄付する活動。集まったお金は子どもたちを支援する福祉団体へ寄付し、選手が贈呈式に参加してふれあいを行っている。



アスルクラロ沼津
「全力応援BOX」
集まった物品をひとり親家庭に寄贈
ホームゲーム来場者から物品を募り、ひとり親家庭に寄贈。

各クラブの代表的な取り組み ④経済的・社会的困難にあるこどもを支援する取り組み、ひとり親家庭を支援する取り組み

困難な状況にあるこどもたちやひとり親家庭の皆さんにとって、少しでも楽しい経験を。
そしてJクラブが声をかけることで多くの方が協力してくださっています。



「つなぐBANKフード&グッズ ヒトとモノが
つながれば、みんなハッピー!!～V・ファーレン
長崎から温かい輪を広げよう!～」プロジェクト
チャレン活動の一環として新人研修を実施。



勝ったら寄付!子ども食堂×テゲバジャーロ宮崎
愛あるご飯を届けようプロジェクト
全ての公式戦で勝利した場合、宮崎市、新富町の子ども
食堂に食材や備品を寄付するプロジェクト。



ひとり親家庭の試合招待
沖縄県母子寡婦福祉連合会と連携し、FC琉球ホーム
ゲームに毎試合100名のひとり親家庭を無料招待。

各クラブの代表的な取り組み ⑤高齢者に対する取り組み

Jクラブが持つリソースを活かして、心も体も健康が持続できるように。安心して暮らせるまちづくりにも貢献しています。



いわてグルージャ盛岡

「雪ん子見守り隊」

高齢者宅の雪かき手伝いと声掛け
積雪の多い時期に高齢者で雪かきの難しい家庭に出向き、お手伝いと安否確認の声掛けを行っている。



Y.S.C.C.横浜

障がい者・高齢者向け健康講座

地域の各種団体と協力し、年間を通じて健康をテーマに様々な講座を実施。



AC長野パルセイロ

「高齢者楽しいプログラム体操」でフレイル予防

地域住民の方々を対象に、体操や交流などを通してフレイル予防に取り組んでいる。



ヴィッセル神戸

Be Supporters!

Be Supporters!の活動を通じて高齢者施設で試合観戦や選手の訪問をして、高齢者の心身の健康の増進に取り組んでいる。



徳島ヴォルティス

ヴォルティスコンディショニングプログラム

姿勢の悪さや慢性的な痛みを感じる方々を対象にプログラムを実施し、運動機能を改善することで、将来的な医療費・介護給付費の削減につなげ、ライフパフォーマンスの向上をめざす。

調査概要 1/2

- 本調査は、2023年にJ1・J2・J3の60クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計したものです。
- 2016年版から下記の集計ルールを採用しています。
- クラブによるルール解釈・報告精度の違いを調整できていないため、あくまで参考値としてご覧ください。
- クラブにより、一部が異なるフォーマットで集計を実施しています。

期間	2023年1月1日から12月31日	
場所	ホームタウン及び活動区域内での活動を対象とする。また災害被災地への支援や国外等での社会貢献活動は、ホームタウンまたは活動区域外であっても対象とする。	
活動者	クラブ(株式会社、および関連する社団、NPOなど)に所属し、または直接の契約を有し、またはクラブを公式に象徴する、あらゆる者による活動を集計対象とする。	
	対象とする(A)	対象としない
	<ul style="list-style-type: none">・選手(トップ・女子・アカデミー)・監督・コーチングスタッフ (トップ、女子、アカデミー、普及、スクール)・クラブ代表(会長、社長等)・クラブ役職員／アンバサダー・その他(※マスコット・公式チア等・クラブ備品)	<ul style="list-style-type: none">・提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督、コーチングスタッフ・役職員等クラブの外部株主外部の支援団体(自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等)で、(左記)の(A)が参加しない場合

調査概要 2/2 (活動内容)

対象とする	対象としない
・企業での講話、講演	・企業や店舗への表敬訪問、または商談
・地域振興団体*への表敬訪問	・地域振興団体*との事務的な協議
・地域振興団体*主催の大規模パーティ、懇親会への出席	・一般的な、またはプライベートな食事会・懇親会への参加
・豆まきへの参加(地域の催事への協力)	・必勝祈願(クラブの行事) ・Jリーグ公式行事への参加 ・クラブが主催する、支援者またはファン・サポーター向け行事への参加(ビジネスパーティ、入団会見、ファン感謝デー、ファン向けトークショーなど)
・社会貢献・地域貢献に関する取材対応 ・地方振興団体*の広報への協力	・スポーツに関する取材対応
・障がい者など、社会的弱者を試合に招待 ・チャリティ目的の選手シートの設置	・一般的な試合への招待
・クラブとしての寄付、及び物品寄贈	・グッズ売り場での販売補助
・クラブと無関係の選手個人の活動 ・巡回指導など、無償の普及活動 ・サッカー以外のスポーツ振興活動 ・介護予防事業	・ちらし等の配布、またはポスティング ・試合会場、練習場、トレーニンググラウンド(キャンプ地を含む)におけるファンサービス ・研修やセミナーの受講
・保有するスポーツチームが行う市民向けの活動	・各種スポーツチーム(常設)の保有

* 地域振興団体:自治体、商工会、青年会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、経済同好会、商店会、自治会、及びその外郭団体。並びにクラブを応援する地域の集まり(ホームタウン連絡協議会を除く)。

60クラブ全体集計

年間活動回数

30,614回

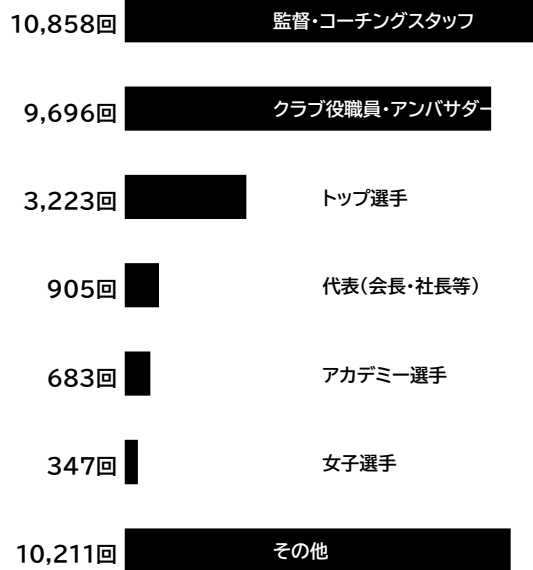
トップ選手の活動人数

8,009人

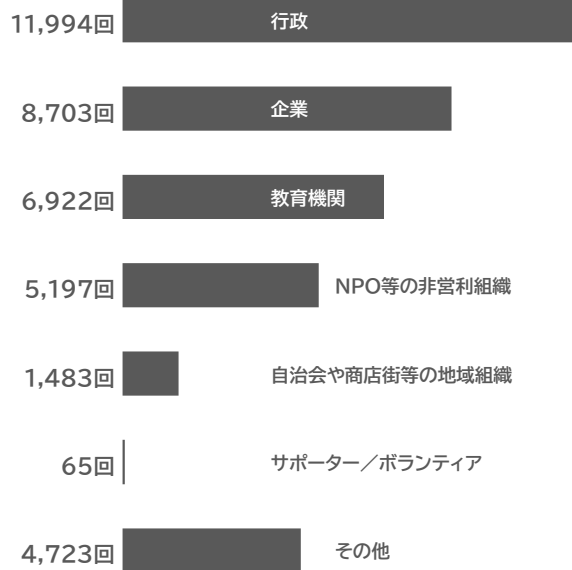
うちシャレン活動回数

3,778回

活動者

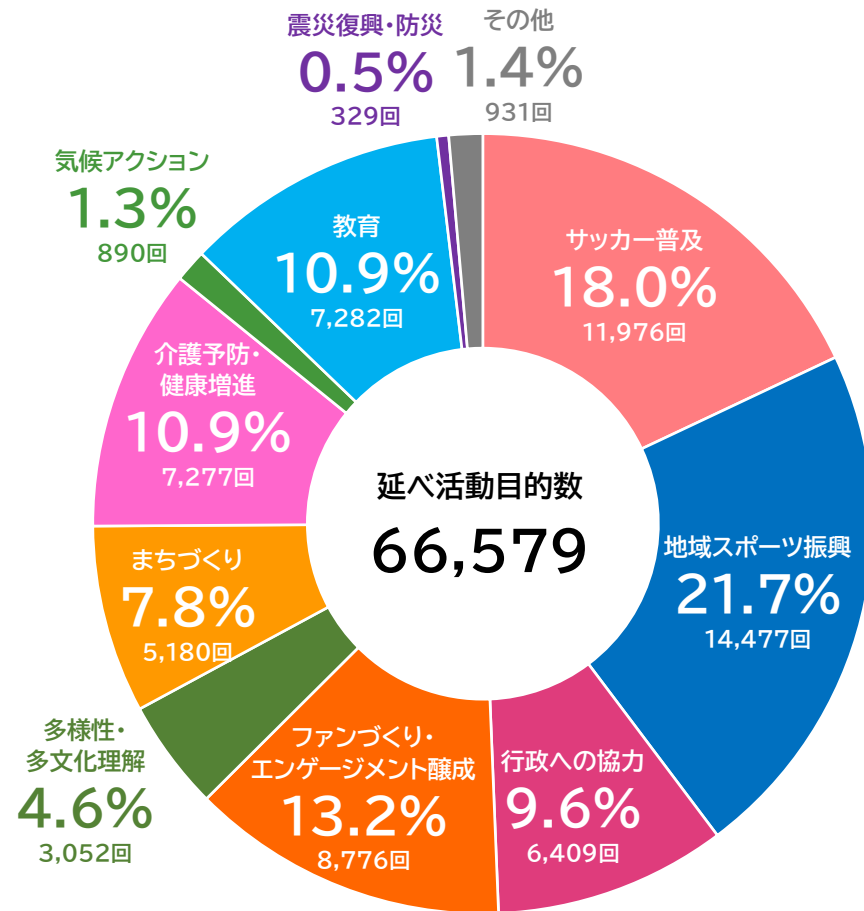


協働者



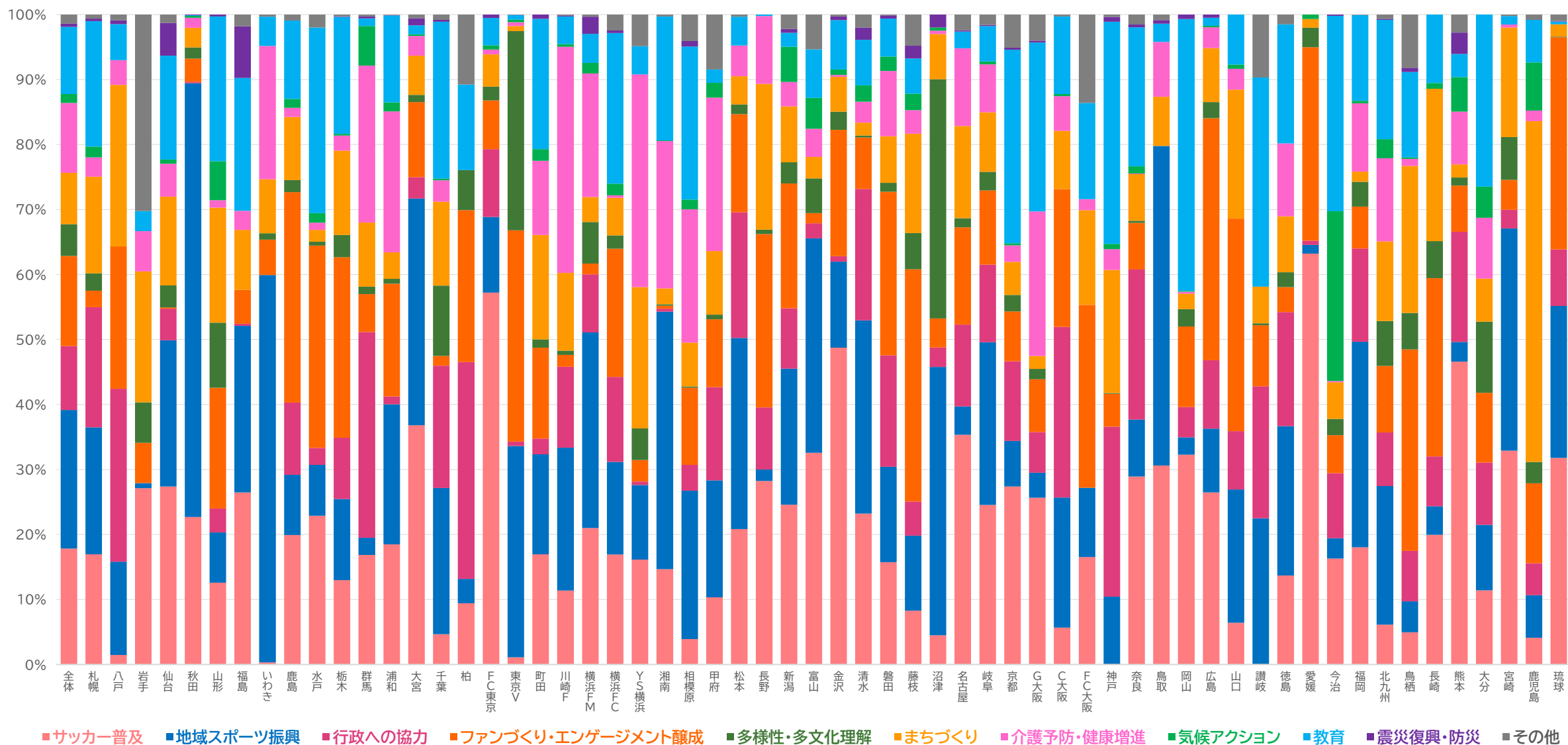
活動目的の構成

※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。
※「活動目的」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



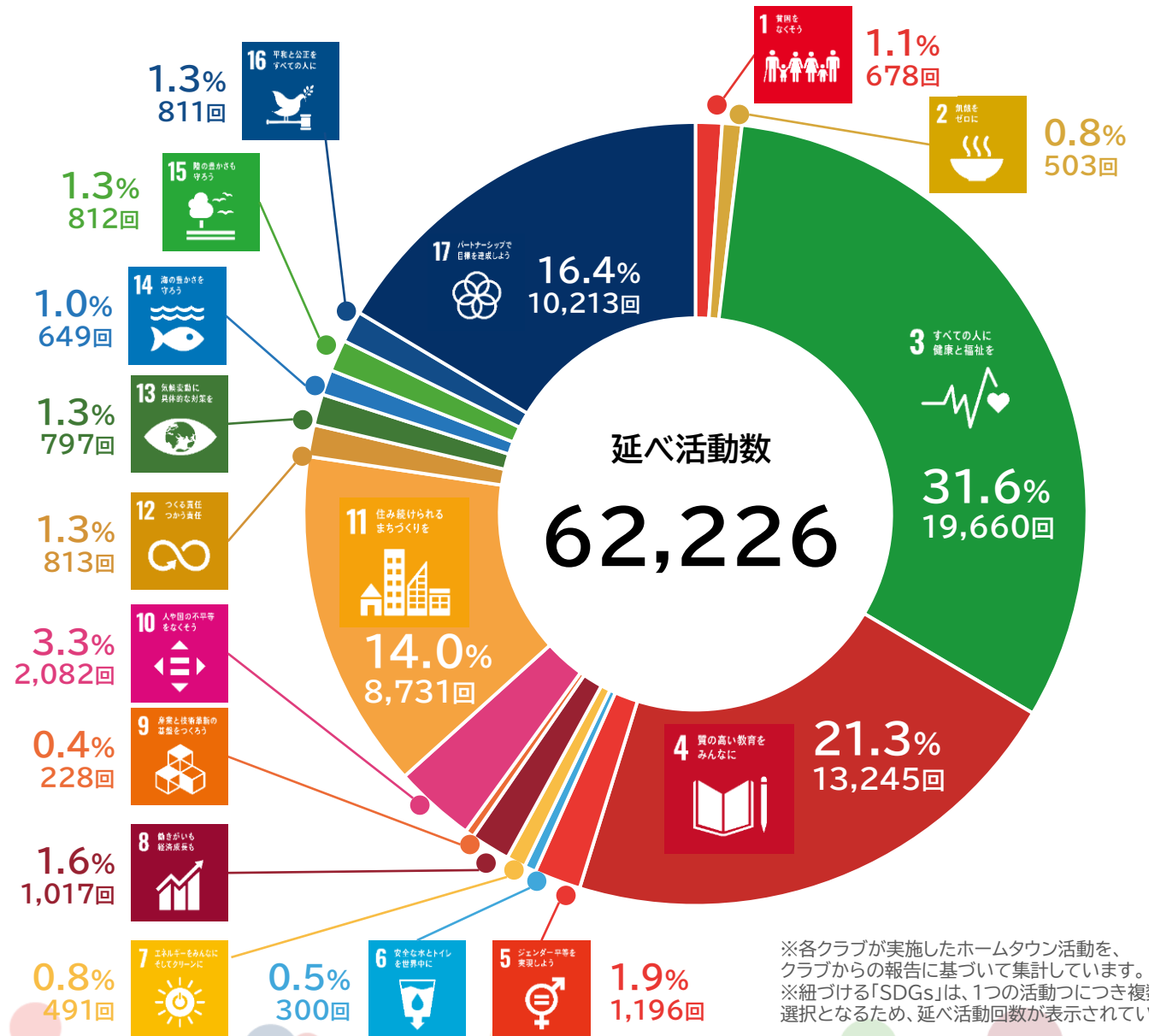
※「活動者」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

60クラブ活動目的(クラブ別)



SDGsへの取り組み詳細(60クラブ全体)

引き続き2023年調査においても、JクラブにおけるSDGsへの取り組みを把握し、顕在化するため、各ホームタウン活動へSDGsを紐付け集計を行ってまいります。



※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。
 ※紐づける「SDGs」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



北海道コンサドーレ札幌

CONSADOLE HOKKAIDO TOURS supported by seicomart 1/2

北海道コンサドーレ札幌は北海道全体をホームタウンとしていることからシーズンオフに実施できる本活動を重要視しております。今回は昨年に続いて2回目の開催で、全3コースを4選手ならびにクラブスタッフで担当いたしました。株式会社セイコーマート様にご協力いただき、各コースにおいて選手によるセイコーマート1日店長など、企業やホームタウンと共に実りある活動が出来たと考えております。引き続き本活動をクラブ独自のホームタウン活動、社会連携活動として展開してまいります。



活動場所

仁木町内小学校訪問(2校)・仁木町役場・コンサドーレ仁木パーク・余市町内小学校・余市町役場・セイコーマート西宮の沢5条店・三笠市教育委員会・まんぷく食堂・三笠市内小学校・恵庭市役所・恵庭市内児童施設・セイコーマート恵庭有明店・網走市内小学校・セイコーマート北見春光店・セイコーマート小清水道の駅店・中標津町内小学校・中標津町役場



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、ファン・サポーター、飲食店、選手

協働者名

仁木町内小学校訪問(2校)・仁木町役場・コンサドーレ仁木パーク・余市町内小学校・余市町役場・株式会社セイコーマート・三笠市教育委員会・まんぷく食堂・三笠市内小学校・恵庭市役所・恵庭市内児童施設・網走市内小学校・中標津町内小学校・中標津町役場



協働者の声

仁木町役場企画課／中村 典利 氏



プロサッカー選手と町内小学生がふれあう貴重な機会をいただき感謝申し上げます。スポーツの楽しさや夢を持つ大切さを伝えていただき、未来を担う子どもたちにとって、本当に宝物のような時間となりました。仁木町は北海道コンサドーレ札幌の未来に繋がる活動を引き続き応援しています。頑張ってください。

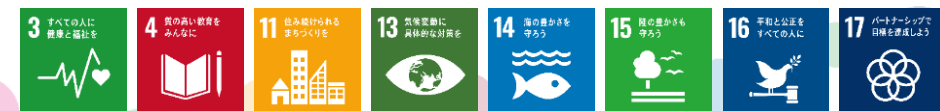


活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [道新スポーツ①](#)
- 3 [道新スポーツ②](#)
- 4 [FOOTBALL ZONE](#)
- 5 [道新スポーツ③](#)
- 6 [ゲキサカ](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





北海道コンサドーレ札幌

CONSADOLE HOKKAIDO TOURS supported by seicomart 2/2

Story

今回で2年連続2回目となる本企画はタイトルにもあるように北海道内を中心に店舗を展開するセイコーマートさんにご協力いただきました。これまで以上に道民の皆さまとサッカーやセイコーマート1日店長を通じて深くかかわることが出来たと考えております。北海道全体をホームタウンとしつつも、シーズン中に選手が道内の遠方に出向いて活動をするのが難しいという課題がありました。そのためシーズンオフのまとまった時期を活用して札幌から遠く離れた日も日頃より我々を支援してくださっている皆さんと直接交流することが出来るこのような機会はクラブとして非常に重要なものと捉えております。



本企画は3つのコースに分かれて実施しました。12月6日はクラブと連携協定を結んでいる仁木町、余市町を菅野孝憲選手が担当。7日は三笠市、恵庭市を宮澤裕樹選手が訪問しました。また、9日から11日にかけては網走市、北見市、小清水町、中標津町方面を駒井善成選手、高木駿選手、河合竜二C.R.Cが担当しました。それぞれの地域において小学校を訪問し、子供たちとサッカーや質疑応答を通じてコミュニケーションを図りました。子どもたちは普段はなかなか直接触れ合うことのできない選手たちを前に積極的な姿勢で活動に励んでいました。また、各地域において選手とクラブスタッフが市役所や町役場を訪問し2023シーズン終了の報告並びに引き続きのご支援をいただけるようにご挨拶をさせていただきました。更に、冒頭に述べたように本企画のご支援をいただいていたセイコーマートさんとクラブの連携により選手によるセイコーマート1日店長の企画が実現しました。未経験のレジ打ちやスキャンにもすぐに適応し、手際よく業務を進める姿が印象的で、選手のレジに並んでくださった多くの道民の皆さんに対して丁寧に




接客、ファンサービスを行っていました。道民の皆さんも選手にレジを担当してもらうという非日常の体験に対して笑顔があふれる時間を創り出すことが出来ました。「CONSADOLE HOKKAIDO TOURS supported by seicomart」はパートナー企業や自治体との連携に基づいて道民の皆さまと創り上げることのできる理想的なホームタウン活動であると捉えております。今後もこのような活動を通じてホームタウンである北海道とともに、さらに魅力あるクラブになっていくように取り組んでまいります。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



ヴァンラーレ八戸 牛乳でスマイルプロジェクトinプラスタ 1/2

ホームタウンの東北町は、県内随一の酪農の町。その東北町では、コロナ禍の学校給食の停止や猛暑での酪農牛の健康被害など、大きな被害を受けました。そんな東北町や酪農家の皆様に応援しようと、ヴァンラーレ八戸ではホーム戦会場にて、東北町、酪農家、牛乳製造会社などと共同で、牛乳配布イベントを実施しました。当日は1000名以上の方が列に並ぶ大盛況。予定していた東北町産牛乳の無料配布がすべて終了しました。今回の取り組みを経て、ファン・サポーターの皆様に向けて酪農の課題の周知ならびにその他の県内産商品の消費PRにも繋げていき、継続的な消費拡大に向けて取り組んでいます。

 **活動場所** プライフーズスタジアム

 **協働者** 行政、企業、農家

 **協働者名** 東北町役場、萩原乳業、酪農家

Voice | 協働者の声

試合会場に牛を連れていくことができ、とても良い経験になりました。たくさんの方に乳搾り体験をしていただき、喜んでいただけて良かったです。そのほかにも当日は牛乳のプレゼントなどを実施していただき、地域の方に喜んでいただけただけでなく、私たち酪農家が抱える課題についても関心を持っていただく機会となったと思います。とても良い体験でした。



活動詳細情報

1 [公式X](#)

カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





ヴァンラーレ八戸

牛乳でスマイルプロジェクトinプラスタ 2/2

Story

私たちヴァンラーレ八戸のホームタウンの一つである青森県上北郡東北町。県内第2位の生乳産出額を誇る酪農の町でもあります。現在、酪農業界では「牛乳余り」が全国的な課題となっております。2014年ごろ、「バター不足」が深刻な問題となり、国内生産量を増加させるなげれとなりました。しかし、2020年からの新型コロナウイルス流行による学校給食の停止や飲食店の休業、外食控えなどにより消費量が激減。大量の生乳が余り、廃棄されていきました。さらに、昨今の情勢による飼料高騰、昨年の猛暑による酪農牛の健康被害など、酪農家への逆風が続きます。

ヴァンラーレ八戸では、ホーム戦でホームタウンサンクスデーとして、ホームタウン市町村の住民の方



の招待企画と、市町村のPRを行っております。東北町サンクスデー開催に向けての聞き取りの中で、前述の牛乳余り問題についてお聞きしました。町としても様々な取り組みを行っていたものの、まだまだ厳しい状況でした。そんな中で、ヴァンラーレ八戸としては、県民の方一人一人が地域の課題を認識することができれば解決に向かうのではないかと考え、「その課題を周知すること」を第一に企画を検討していきました。

試合の来場者の満足度が高くなる企画の一つが来場者プレゼント。ここで来場者に向けて東北町でとれた牛乳を配布したいということになりました。東北町産生乳を取り扱う萩原乳業株式会社へ今回の企画にご賛同いただき、1000個の牛乳を配布することとなりました。また、山崎製パン株式会社様、カルビー株式会社様、ヤマザキビスケット株式会社様、大島食品工業株式会社様からも趣旨にご賛同をいただき、商品をご提供いただきました。当日は1000名以上の方が列に並び、雨天ではありましたがすべての商品が配布されました。さらに、東北町の酪農家の方より、ホルスタイン牛をプライフーズスタジアムに連れてきていただき、乳搾り体験を実施いただきました。ホルスタイン牛の負担の面もあり人数制限はありましたが、子どもたちを中心に多くの方が参加し、盛り上がりました。



今回は東北町役場、企業、酪農家とともに、課題解決に向かいました。本取り組みについては、県内各種メディアからも取り上げていただいたことで、他社や他市町村からの問い合わせもいただきました。また、ファン・サポーターの皆様からもイベントを楽しみながら地域課題を知ることのできる良い機会だったとお言葉をいただきました。

私たちだけでは実施することができなかつたと思いますが、自治体や企業の皆様のご協力があり、実施することができました。今後も各ホームタウン市町村とより密に連携を取り、地域の皆様とともに地域の課題を解決し、地域をより良くしていけるよう、様々な取り組みを行っていきたくと考えております。



いわてグルージャ盛岡

人権を守ろう！岩手県ブラインドサッカー教室 1/2

以前から岩手県全域で行っている人権擁護活動。2023シーズンは更に協力していただける行政や企業を増やして県内の小学校を周り授業の一環として年間を通して活動を行った。コルジャ仙台から毎回選手にもお越しいただきブラインドサッカー教室を通して県内小学生と交流を深めながらも我々五体満足に生まれてきた人間に何ができるのかをテーマに活動してきた。岩手県地域福祉課、盛岡法務局の方からもっと大きな枠で様々なハンディキャップを持った方々への配慮や手助けに関する講演をしていただき有意義な学びとなった。



活動場所 岩手県花巻市まなび学園、軽米町立軽米小学校、岩泉町立小本小学校



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、民間団体、選手

協働者名

岡地方法務局、岩手県地域福祉課、コルジャ仙台、株式会社参天製薬、花巻市在住の小学生、軽米小学校5,6年生、小本小学校5,6年生



協働者の声 コルジャ仙台ブラインドサッカークラブ／鈴木 里佳 氏



岩手県地域福祉課、盛岡法務局、参天製薬株式会社、いわてグルージャ盛岡の皆さんと共にこういった活動ができたことに感謝しています。私たちに限らず、障害を持って生まれた人たちが更に自分らしく生きられる世の中になっていく力になっていけるように活動を続けていきたいと思ひますし、自分たちが活躍することで同じ境遇の方にも希望を与えられるよう頑張っていきます。



活動詳細情報

1 [公式X](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





いわてグルージャ盛岡

人権を守ろう！岩手県ブラインドサッカー教室 2/2

Story

人間らしく生きるための権利である人権。それでも今もなお差別等で苦しめられている方もいる。それをいわてグルージャ盛岡として少しでも無くしていく力になれないかと、岩手県地域福祉課、盛岡地方法務局と共に、県内小学校の授業の時間をお借りして以前から人権擁護活動を行ってきた。2023年はコルジャ仙台ブラインドサッカークラブから毎回選手にお越しいただきブラインドサッカー教室を開催した。全員がアイマスクをした状況の中、声だけを頼りに動く恐怖や見えている人の声掛けのタイミング、大きさ、わかりやすく伝える難しさを緊張感ある良い雰囲気での授業だった。



実際にサッカー選手でも目隠しをすると1人ではボールがどこにあるか分からない、トラップできない、蹴れないほど難しいが、ガイドと呼ばれる指示をくれる仲間がいてできるスポーツなんだと実感した。

これは五体満足に生まれてきた我々にも言えることであり、「目は見えていても見えないものはある。苦しんでいたり困っている人に対して言葉にして伝える、それが難しければそっと寄り添うだけでたとえ見えていても見えなくても伝わる」というコルジャ仙台の選手の言葉が心に残った。

例えば普段道を歩いていて白杖を持って困っている人がいたら迷わず助けに行ける人がみんな揃っている訳ではないと思うけれど、行動のきっかけになる授業だったと思う。

また、眼科領域に特化した参天製薬株式会社にも協力していただき、ブラインドサッカー教室を通してより医学的な視点から目の見えない方へのサポートの方法をアドバイスしていただき毎回イベントでも大いに盛り上げていただいた。

現代では言葉だけでなくSNS等の文字でも簡単に人を傷つけて命を落とすきっかけにもなっている。だからこそ発信する一つ一つに気を配りより良いコミュニケーション、助け合いができるようこれからも活動を続けていきたい。





ベガルタ仙台

タイの子どもたちにベガルタ仙台を届けよう 1/2

SDGsの取組みの一環として、タイのスラムや難民キャンプで暮らす社会的に弱い立場の子どもたちのため、使用しなくなったベガルタ仙台グッズをサポーターのみなさまに寄付いただき、難民キャンプやスラムの子どもたちに届けました。2022年から活動しており、23年は、999点をお届け。サッカー教室には約40名の子どもが参加しました。生活、教育、児童就労など様々な問題を抱える子どもたちに、ベガルタグッズとサッカー教室で笑顔をお届けると同時に自立支援を促します。



活動場所 タイ国メーソートの難民キャンプやスラムコミュニティ



協働者

住民、学校、NPO、ファン・サポーター、スタジアム、選手、ボランティア

協働者名

NGO団体Play Onside、クラブOB大久保剛志選手とYUKI FOOT BALL CLUB、ファンサポーター、スポンサー4社



協働者の声 クラブOB／大久保 剛志 氏



微笑みの国タイは観光地としてのイメージが強い一方で、貧富の差や4つの国と国境を面しておりそこから越境してくる難民問題など大きな課題があるのも現実です。タイで選手としてまた様々なビジネスに携わるものとしてその課題を顕在化させ、Jリーグに関わるみなさまと解決していければと思います。協業しております。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ベガルタ仙台

タイの子どもたちにベガルタ仙台を届けよう 2/2

Story

23年は、206名のサポーターの方々から合計999アイテムを寄付をいただき、グッズの受け皿と現地のコーディネイトは大久保剛志氏が運営するYUKI FOOTBALL ACADEMYと、NGOのPlay Onsideに担っていただきました。バンコクで乗り継ぎ、ミャンマーとの国境の街、メーソートへ。ミャンマー国内では民族紛争に端を発した深刻な差別問題に直面しています。就労や教育を受ける機会などの基本的な人権も制限されています。武力衝突、空爆、無差別砲撃、放火、インフラの破壊などにより、多くの民間人の命と生活が危険にさらされ、そこから逃れるため、ミャンマーとタイの国境にある川を不法に渡って逃れてくる難民が後を絶ちません。その難民たちのキャンプコミュニティが多数形成され



ているのがここメーソートであり、商店街やストリートにはミャンマー語の看板があふれています。メーソートの労働人口もミャンマー人が低賃金で支えているというのがこの街の実態でした。我々が視察したキャンプの近くには生ゴミ処理場があり、そこで500人ほどが生計をたてていました。舗装がされていない土面の道路に木造の家屋。雨期に大雨が降れば、小川の氾濫も伴いすぐに冠水するような場所でした。そこで改めて現実を目の当たりにします。

命からがら逃げてきた人たちのコミュニティ。パスポートもIDもない無国籍状態。毎日生きるのが精いっぱいであり、文字通りの「その日暮らし」。課題は、就学の習慣がない親が学業よりも日銭稼ぎを優先させる児童労働。性教育もされず若くしての妊娠とそこから派生するネグレクトや児童虐待。昨年、タイのチェンマイでもスラムを視察しましたが、場所が変わっても問題は全く一緒。英語の苦手な我々でも「No hope No future」という言葉が胸に重くのしかかりました。この度協業したPlay Onsideは、企業や個人の寄付を財源とし、その課題に真っ向から向き合い、自立支援に取り組んでいます。手作りでコミュニティハウスを作る、荒地を手でならしてサッカーグラウンドを整備する、学校教育やタイ語教育など学業面もサポートするが、卒業しても公的な証明書は発行されない。だからこそ、



スポーツに注ぐ情熱で意欲を持ってもらうことで自立を促します。そこには、子どもたちの歓声や笑顔が溢れます。笑顔が明るい未来を切り開く。それこそがサッカーが持つ意義です。

クラブができることは、サッカーで自立を促し、元気を共にする、サポーターのみなさまと物的支援をする。そしてこの現実を我々の発信力で広く日本に知らしめることです。

宮城、仙台が活動の軸となるが、タイの課題にSDGsの観点で取り組むことが引いては売り手、買い手、世間の「三方良し」に繋がります。そして、地域問わず、課題を顕在化させ、発信し主体的に解決に取り組む。これが地域に生かされたJクラブの存在意義であることを忘れてはいけません。



ブラウブリッツ秋田 園庭緑化プロジェクト 1/2

子どもの身体的・精神的なより良い成長を促すべく、幼稚園や保育園の園庭に芝生を普及する活動に取り組みました。ブラウブリッツ秋田はこれまでソユースタジアムの芝生の管理等を行っており、そのノウハウを地域に還元できないかという想いから、本プロジェクトを起案しました。県内企業である東電化工業株式会社様、東商事株式会社様にご協賛いただき、従業員も一緒になって芝生化に取り組んでいただきました。またこの取り組みは、すでに園庭の芝生化を実現している長野県の一般社団法人長野市開発公社のご協力のもと実現に至りました。



活動場所 幼保連携型認定こども園心じ



協働者

企業、選手、一般社団法人

協働者名

東電化工業株式会社、東商事株式会社、一般社団法人長野市開発公社、幼保連携型認定こども園心じ



協働者の声

一般社団法人長野市開発公社
南長野総合球技場(長野パルセイロホームグラウンド)スタジアムキーパー / 青木 茂 氏



ブラウブリッツ秋田のスタジアムのグラウンズマンの高い技術力と地域Jクラブのスポーツの力で秋田の子どもたちの未来に貢献することを目的として地域の園庭緑化の協力をしました。同じ雪国の長野から始めた活動が、未来のリーガーや地域を支える人づくりに繋がることを願ってます。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式Youtube](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ブラウブリッツ秋田 園庭緑化プロジェクト 2/2

Story

ブラウブリッツ秋田はこれまでソユースタジアムの芝生の管理等を行っており、そのノウハウを地域に還元できないかというランドキーパーの想いから「園庭緑化プロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトを進める上で「SDGsアクションパートナー」である県内企業の東電化工業株式会社様、東商事株式会社様にご協賛いただき、さらにはすでに園庭の芝生化を実現している長野県の一般社団法人長野市開発公社のご協力のもと、プロジェクトの設計時点から多数ご意見をいただき進めていきました。



初年度は「幼保連携型認定こども園ふじ」を対象に園庭緑化を実施することとなり、6月8日に園児と一緒に芝生の植え付け作業を行いました。園児は初めての取り組みに興味津々。また東電化工業株式会社様、東商事株式会社様の従業員も参加いただき、皆で楽しみながら苗の植え付けを行いました。その後ランドキーパーが園庭を管理し、8月末には園庭の芝生化が完了。10月16日園庭の芝生が完成したことを記念したサッカー交流イベントを実施し、選手2名、前山恭平クラブコミュニケーター、マスコットキャラクターのブラウゴンが参加し園児と芝生でふれあいました。サッカー体験では、ボールを使って体を動かした後は選手とブラウゴンvs園児でミニゲームを行い、選手と交流しながら芝生の上で「裸足」で思いっきり走っていました。

園庭が芝生化することによるメリットは、
「土埃の緩和」
「コミュニケーションの輪を育む場」
「環境にやさしいヒートアイランド現象」
「運動不足の改善」
「転んでもケガをしにくい」などが挙げられます。



その中でも、芝生の上で「裸足で子どもが”怪我を恐れることなく”走って転ぶ姿」は、土の園庭では見られないものであり、この活動の魅力です。ブラウブリッツ秋田は、地域に根ざした活動として、クラブ単体としての活動ではなく、地域の企業と連携した取り組みとして拡大を図っていければと考えており、市内、県内の園庭の芝生化に向けて県内企業と連携しながら1年1園ずつ拡大することを目標に取り組んでいければと考えています。



モンテディオ山形

10ヶ月300時間！40人の学生と築いた世代のはしご「U-23マーケティング部」の奇跡 1/2

地方都市における若者の流出という課題と若い世代の人材教育を目的に、23歳以下のマーケティング集団『U-23マーケティング部』を設立した。県内外から高校生・大学生総勢40名が集まり、全41回300時間のプログラムを実施。若い人たちが本気になる場所をつくるだけでなく、クラブやスポンサー企業、自治体に属する大人たちが若い世代と一緒に本気でやることで世代をこえたコミュニケーション機会を創出した。最終課題となったプロデュースデーでは学生主導で試合の企画運営を実行し、多くのドラマと感動を生んだ。



活動場所 NDソフトスタジアム山形、やまがたクリエイティブシティセンターQ1、ほえみの宿 滝の湯



協働者

行政、企業、飲食店、選手

協働者名

山形県庁、秋田県庁、天童市、米沢市、山形市、株式会社JTB、橋本生花株式会社、株式会社デスティー、株式会社でん六、株式会社オースタンス、株式会社丸山製麺、株式会社チケットティップス、アウモ株式会社、株式会社ドワンゴ、株式会社インザーギ、株式会社東根農産センター、株式会社ダイユー、乃し梅本舗 佐藤屋、1年2組桜坂、株式会社アールテック、株式会社太平洋不動産、富士フィルムBI山形株式会社、渋谷建設株式会社、日本地下水開発株式会社、クレッセント、株式会社桐井電気工業、株式会社マイスター、La Vita(山形徳洲会病院)



協働者の声

山形県庁 山形「つや姫」雪若丸ブランド化戦略推進本部／朝倉 駿成 氏



U-23マーケティング部のメンバーが県庁を訪れ、「スポーツと山形県が誇るお米で山形県を盛り上げたい！」という熱いメッセージに心を打たれました。対戦相手にちなんだイベントを実施したおかげで、山形県「つや姫/雪若丸」秋田県の「サキホコレ」のそれぞれの違いやおいしさを実感してもらえました。



活動詳細情報

- [1 U-23公式サイト](#)
- [2 スポーツ報知](#)
- [3 MarkeZine](#)
- [4 Tver](#)
- [5 MARKETIMES](#)
- [6 Sports for Social](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





モンテディオ山形

10ヶ月300時間！40人の学生と築いた世代のはしご「U-23マーケティング部」の奇跡 2/2

Story

昨年の「高校生マーケティング探求」を大幅に拡大し行った「U-23マーケティング部」。若い世代“と”本気になれる場所をつくることで、若い世代にとって魅力的な都市となり、人材循環を活性化させる狙いがある。

学生は県内外から40名が参加し、外部講師による講義、試合日の企画・運営、夏季合宿など、合計300時間に及ぶプログラムを遂行した。外部講師は、マーケティングの専門スキルに長けた人や起業家を招聘し、学生に刺激のあるインプットを与えた。毎週の活動では、コロナ禍で「人との関係が希薄化」されたこの世代ならではの課題である、主体性や協調性、忍耐力の欠如に対してアプローチができるプログラムや指導方針を定めた。



また、運営体制においては名目上はマーケティング部が管轄を担っていたが、全スタッフで支える意識のもと、営業、運営、ホームタウン、施設管理、すべての部署が学生たちをバックアップした。クラブ外からも手厚いサポートを受け、企業は講師や企画への協力、自治体は必要物品の提供や活動PRなど多方面で支援をしていただいた。

参加学生の最終試練となった「U-23プロデュースデー」では、企画、集客、運営を学生主導で行った。企画会議の場となった夏の合宿では、これまで培ってきた経験を活かしクラブにプレゼンテーションを行ったが、何度も跳ね返されその度に議論を重ねて方向性を導いた。学生が選んだテーマは「青春」。奇しくもコロナで失ってしまったそれを取り戻すというのが行き着いた答えだった。惜しくも目標には届かなかったが、活動を通してたくさんの成長を遂げた学生は笑顔と自信で満ち溢れていた。



活動時間300時間。協力団体27社。チャットツールでのメッセージ数は34,576通。メディア露出14媒体。

10月8日活動最終日。セレモニーでは多くの大人と学生が涙を流し、世代のはしごが完成した。そして、第2期の募集では昨年の2.5倍の応募があり、選ばれた学生と次の扉を開いた。



福島ユナイテッドFC

サッカー遠足「裸足で思いっきり遊ぼう！」 1/2

福島ユナイテッドFCがJリーグに昇格してから福島市のスポーツ施設は大きな変化が続いている。元々人工芝が2面あった練習会場は人工芝1面と天然芝2面が増築され、ホームスタジアムである「とうほう・みんなのスタジアム」の高麗芝だった芝生は常緑のスポーツターフになった。しかし、どんなに素晴らしい施設であっても使われなければ意味がない。福島ユナイテッドFCは、これらの施設をたくさんの方々に、知ってもらう、使ってもらうことを目的に、市内や近隣の児童向けにサッカー遠足事業を始めました！



活動場所 とうほう・みんなのスタジアム 十六沼公園グラウンド



協働者

行政、NPO、スタジアム、選手、公益財団法人、

協働者名

公益財団法人 福島県都市公園・緑化協会、公益財団法人 福島市スポーツ振興公社、国見町生涯学習課、特定非営利活動法人福島ユナイテッドスポーツクラブ



協働者の声

国見町生涯学習課／鳴原 貴史 氏



国見町では公民館事業として「少年仲間づくり教室」を実施しています。平成4年から福島ユナイテッドFCのホームタウンになったことをきっかけに、もっと町民がサッカーをより身近に感じることができるよう今回の遠足事業に参加しました。これからも福島ユナイテッドFCとの取り組みを継続的に計画していきます。



活動詳細情報

1

[NPO福島ユナイテッドスポーツクラブ公式X](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





福島ユナイテッドFC

サッカー遠足「裸足で思いっきり遊ぼう！」 2/2

Story

福島ユナイテッドFCがある福島県は長くJリーグのクラブが存在していなかった地域であった。1995年にジャパンフットボールリーグ(旧JFL)に参入した「福島FC」があったものの参入後3年で解散になり、他のスポーツでもプロチームが続かない経緯があり、長らくプロスポーツが馴染まないといった雰囲気があった。その流れもあってか、福島県内のほとんどのスポーツ施設は1995年の福島国体の際に建築、改修されたもので、それ以降に作られた施設は数多くは無く、施設の設備も現在のJリーグのスタジアムの基準と比べれば未充足のものが多く国際大会はもちろん、Jリーグの試合の開催も難しい現状にあった。



そんな折に、福島ユナイテッドFCが2014年にJFLからJリーグに入会し、福島ユナイテッドFCがプロスポーツチームとしての歩み始める。しかしながら、前述の通り福島県内のスタジアムではJリーグのスタジアム基準からは程遠い施設が多く、ホームスタジアムとなった「とうほう・みんなのスタジアム」も高麗芝であり、10月～3月には芝が白くなり、試合後の補修も大変な状況だった。また、選手のロッカールームは個別のものは無く、エアコンも付いていない部屋であった。

現在、福島ユナイテッドFCがJリーグに参入して10年が経ち、周辺環境も大きく変わってきている。福島ユナイテッドFCがトレーニング会場として使用している十六沼公園は人工芝2面→人工芝3面、天然芝2面、屋内練習場も新しく増築された。また、ホームスタジアムとして使用している「とうほう・みんなのスタジアム」は常緑のスポーツターフに張り替え、ロッカールームには個別ロッカーとエアコンも完備され、さらには照明も設置された。昨年のJリーグのスタジアムのピッチ評価でも多くのマッチコミッショナーや選手たちにも高評価をいただく施設になった。そんな素晴らしい施設が福島県にもある。それを知ってもらいたい。プロが使っている施設を体験してもらいたい。もっと良い施設で運動してもらいたい。良い環境でたくさんの経験を積ん



でほしい。また、東日本大震災以降、子どもたちの運動不足による肥満傾向が続いており、何とかできないか。これらの様々の想いを集約し始めたのが「サッカー遠足」。日頃遊んでいる環境とは全く違うピッチの上で運動した児童たちからは「転んでも痛くない！」「少し冷たいけど気持ちいい！」「もっとやりたい！」そんな声が溢れている。Jクラブというきっかけで成長した施設。プロ選手だけのためではなく、多くの方々、子供たちにも還元する。そのきっかけをプロクラブが担うことで、本当の意味で地域に必要なクラブになれるのではないかと思う。



いわきFC

選手・スタッフが認知症サポーターとして活動！ 1/2

2025年には約700万人、65歳以上の5人に1人になるといわれる認知症。高齢者に多い疾患である一方、誰にでも起こりうる病気で、特に海外では、プロサッカー選手の認知症等リスクが一般人よりも高いと研究結果が出るなど注目を集めており、決してひとごとではありません。

今回は、保健福祉士と共に、シミュレーションを通じて、症状や行動心理、接し方など認知症の正しい知識を学び、選手・スタッフ自身が「認知症サポーター」になることで、「認知症になっても安心して自分らしく暮らせるまちづくり」に向けた啓発活動を行います。

活動場所 いわきFCパーク

協働者

行政、NPO、医療法人

協働者名

いわき市役所、特定非営利活動法人地域福祉ネットワークいわき平地域包括支援センター、医療法人社団秀友会

協働者の声

特定非営利活動法人地域福祉ネットワークいわき平地域包括支援センター 認知症地域支援推進員 / 円谷 好 氏



「認知症」を意識する機会が少ない方にも「認知症」に少しでも目を向けてほしい。今回の講座はそんな思いへの貴重な一歩になりました。これをきっかけに関係者やファンの方にも関心を寄せてもらえたら、どんな人でも不安なくスポーツを楽しめる地域が作れるのではないのでしょうか。これからのチャレンジ！活動が楽しみです。



活動詳細情報

1 [公式Instagram](#)

カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





いわきFC

選手・スタッフが認知症サポーターとして活動！ 2/2

Story

認知症は、記憶力の喪失、認知機能の低下、判断力の衰えなど、生活等に支障をきたすようになった状態の総称であり、現代社会において、重要な健康課題の一つとなっています。

認知症に対する社会的なイメージは、時に誤解や偏見といった理解不足に大きく影響を受けることがあり、患者本人、そしてその家族が社会的に深刻な差別や孤立状態に直面する可能性があります。

いわきFCでは、このような状況を危惧し、選手やクラブスタッフ自らが認知症を正しく理解したい、そして「認知症になっても、できる限り住み慣れた場所で、安心して、自分らしく暮らせるまちづくり」を実現したいと考え、その第一歩として、

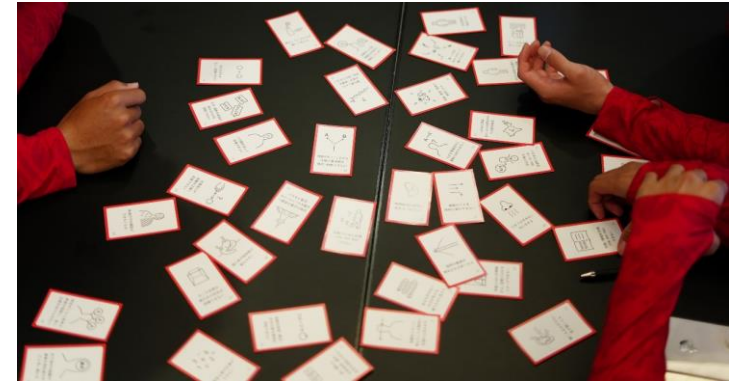


認知症を受容する意識醸成を目的に、行政とNPO法人の協力のもと、選手7人、クラブスタッフ5人が「認知症サポーター」の認定を受けました。

認定を受けるための講習の中で「認知症になっても人の気持ちは残る」と話があり、認知症患者を驚かさないうようにそっと見守ること、急かさず優しい口調で声かけをすること、人生の先輩として尊敬の念をもって接し、指示や否定言葉を使わない心がけなど、出来る限り温かい気持ちで接することが大切だと学び、これに限らず人としての優しさ、気遣いを持つことが必要だと感じました。

また、介護をしている家族の気持ちとして、発症時のとまどいや拒絶、割り切りをいったりきたりしながら受け入れていくこと、「迷惑をかけてはいけない」という思いがあるため、労いの言葉ひとつでも気持ちはぐっと楽になることがわかりました。

認知症サポーターと認定された選手は「認知症が身近にあるものだと感じた。また認知症の症状や支え方を知ることが出来たので、学んだことを広めていきたい」、「人それぞれの症状にあった接し方なるべく自立をさせるなど、権利を奪わず接していきたい」など、自分たちが積極的に、この課題に取り組んでいく意識を持つことができました。



今後もSNSで発信や、直接患者とふれあう機会を設けるなど、クラブ全体でサポートに取り組むことでより多くの方に認知症に対する正しい知識を発信し続け、差別や誤解のない、すべての人が安心して暮らせるまちづくりにつなげます。



鹿島アントラーズ

ペットボトルの資源循環水平リサイクルの推進 1/2

茨城県立カシマサッカースタジアムにおけるペットボトルの「ボトルtoボトル」水平リサイクルの推進を目的に、2023年9月24日(日)2023明治安田生命J1リーグ第28節 横浜F・マリノス戦より、使用済みペットボトルを新たなペットボトルへ再生させるための「水平リサイクルボックス」の設置をはじめました。カシマスタジアムにて使用・消費されたペットボトルは、各社連携のもと、サントリー製品のペットボトルとして100%の形で水平リサイクルされ、来場者のリサイクル意識向上を促すとともに、サントリーが謳う『ボトルは資源！サステナブルボトルへ』を合言葉に、CO2排出量の削減に取り組んでまいります。

活動場所 茨城県立カシマサッカースタジアム、鹿島アントラーズクラブハウス

協働者

行政、企業、住民、ファン・サポーター、スタジアム

協働者名

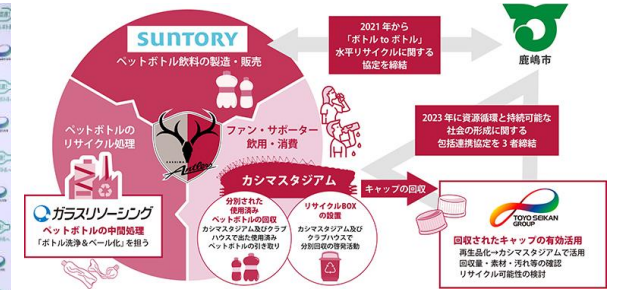
鹿嶋市、サントリーグループ(サントリー食品インターナショナル株式会社、サントリーホールディングス株式会社)、東洋製罐グループホールディングス株式会社(日本クロージャー株式会社)、ガラスリソーシング株式会社、株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー

協働者の声

鹿嶋市市民生活部廃棄物対策課／大川 洋平 氏



地元のプロサッカークラブと資源循環の取組みができることを嬉しく思います。本市は家庭から出る使用済みペットボトルの「水平リサイクル」を推進しており、このたびカシマサッカースタジアム等で同様にペットボトルの水平リサイクルが進み、鹿嶋市民を含めた来場者のリサイクル意識を高めていき、ごみを資源にという行動変容につながればと思います。



活動詳細情報

1 [公式サイト](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





鹿島アントラーズ

ペットボトルの資源循環水平リサイクルの推進 2/2

Story

現在、日本では使用済みペットボトルの約94%が回収され、全体の約86%がリサイクルされています。海外と比べても非常に高いリサイクル率となり、日本ではペットボトルの多くは「ゴミ」ではなく、「資源」としてしっかり有効利用されているのが分かります。日本におけるペットボトルのリサイクル率は、高い水準にあります。ペットボトルが、(ペットボトル以外の)食品トレーや、繊維等にリサイクルされてしまうと、使用された後、焼却されてしまったり、リサイクルされても、多くの場合数回でリサイクルの輪がとぎれてしまいます。本取り組みは新たな化石由来原料の使用量を減らし、循環型社会の実現に貢献できる活動と考えます。



「カシマスタジアムにおけるペットボトル水平リサイクル連携」の取り組みは1自治体、4社のクラブパートナーが連合となり、ペットボトルの水平リサイクル実現と資源循環の啓発活動に努めていくことにあります。オフィシャルパートナーであるサントリーのペットボトル飲料をファン・サポーターが消費し、設置された水平リサイクルボックスにて分別回収、及びその啓発活動をアントラーズが積極的に行います。

その分別・回収されたペットボトルをアントラーズビジネスクラブであるガラスリソーシングが中間処理を行い、最終的には新たなペットボトルに再生して、サントリー飲料のペットボトルとしてまた再利用される、という循環を作り出します。

また、鹿嶋市とクラブパートナーである東洋製罐グループホールディングスとアントラーズは、2023年8月6日に「資源循環と持続可能な社会の形成に関する包括連携協定」を三者間で締結しています。この連携の中にはペットボトルキャップの回収、及び回収された資源を再生品化して、カシマスタジアムで有効活用する取り組みを行うこと等、それぞれの役割で資源を循環させていくことで、環境に配慮したスタジアムを目指していきたいと考えています。



今回の取り組みに先立ち、鹿嶋市とサントリーは、2021年より、ペットボトルの「ボトルtoボトル」水平リサイクルを開始しました。翌、2022年には、鹿嶋市が先導し、クラブのホームタウン5市として、水平リサイクルの取り組みを開始し、地域全体で取り組んでいます。

今回、本取り組みを機に、水平リサイクルへの理解、および分別回収の促進、またサポーターの皆様にも、「ペットボトルはゴミではなく、資源であること」をお伝えしていければと考えています。サポーター、自治体・地域の皆様、事業者が一体となって、資源循環型社会の実現に向けて取り組んでまいります。



水戸ホーリーホック

もう一つの熱き戦い「おらが街PRリーグ」 1/2

水戸ホーリーホックは毎シーズン、所属選手たちがホームタウン15市町村の方々と15のチームに分かれて、“おらが街”のPR合戦を行っています。Jリーグの裏で行われているもう一つの熱き戦いは、新チームが始動する新体制発表会で、各市町村の担当者が自らPR大使をドラフトするという「ホームタウンPR大使ドラフト会議」で幕を開けます。その後は双方がアイデアを出し合いながら1年間かけて様々な活動を共にしていくことで、お互いの立場を超えた付き合いが出来るようになり、シーズンの終わりには真の絆が生まれていくことになります。



活動場所

ホームタウン15市町村(水戸市、日立市、ひたちなか市、笠間市、那珂市、北茨城市、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、小美玉市、大子町、城里町、茨城町、大洗町、東海村)



協働者

行政、企業、住民、協議会、ファン・サポーター、民間団体、飲食店、選手

協働者名

ホームタウン15市町村すべての役所の方々(水戸市、日立市、ひたちなか市、笠間市、那珂市、北茨城市、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、小美玉市、大子町、城里町、茨城町、大洗町、東海村)



協働者の声

ひたちなか市広報広聴課／米川 裕太郎 氏



トップ選手がPR大使になってホームタウンの魅力を発信してくれる！おらが街PRリーグ発足を聞いた時の驚きと興奮は今でも鮮明に覚えています。選手やスタッフ、ファン・サポーターの皆様と、私たち行政が共に地域を盛り上げていけることを嬉しく思いますし、市民が地元クラブに愛着を抱く大切なきっかけとなっています。



活動詳細情報

活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)
- 5 [タグマ!①](#)
- 6 [NHK](#)
- 7 [常陸太田市観光物産協会](#)
- 8 [笠間市](#)
- 9 [タグマ!②](#)
- 10 [茨城新聞](#)
- 11 [公式YouTube](#)
- 12 [公式note](#)
- 13 [タグマ!③](#)
- 14 [ひたちなか市公式note](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ

- 3 [すべての人に健康と福祉を](#)
- 4 [質の高い教育をみんなに](#)
- 8 [働きがいも経済成長も](#)
- 11 [住み続けられるまちづくりを](#)
- 17 [パートナーシップで目標を達成しよう](#)



水戸ホーリーホック

もう一つの熱き戦い「おらが街PRリーグ」 2/2

Story

水戸ホーリーホックは毎年若い選手が多く所属し、「育成の水戸」と評されることも多くなってきた反面、短い在籍期間でクラブを巣立っていくという現実には、ファン・サポーターにとっては、推しの選手がいなくなってしまうという悩みでもありました。

コロナの影響が緩和され、2年ぶりにホームタウン活動を再開すると、それはより顕著でした。「すみません、今年どんな選手がいるか全く知らなくて」という声を何度も聞きました。一方で所属選手たちも、ホームタウンの15市町村を言える選手は皆無でした。これでは地域の皆さんに応援してもらえない、そんな危機感からこの企画が生まれました。



まず各市町村には新体制発表会の中で、自分たちの街をPRする選手を選んでもらいます。野球のドラフト会議さながらに各市町村の指名選手を読み上げ、希望が重なれば各担当者がステージ上で抽選くじを引くという、まさに緊張と歓喜が入り混じったイベントとなります。

PR大使が決まると、各市町村ごとにどんな活動をしていくかの作戦会議を開きます。様々なポイントの獲得方法があり、それに合わせて地元のイベントに参加したり、「市町村の日」に合わせてコラボメニューを開発したり、サウナ好きの選手はサウナ散策をしたり。またこのチームも首長様への表敬訪問に合わせて、市庁舎などでサイン会を開催するのですが、平日開催にも関わらず、100~200人くらいの方々が足を運んでくれて。サイン会のあとは近くの道の駅などでお金を使っていく方々も多く、小さいですが地域の経済を回すきっかけにもなっています。

それ以外でも、担当になった市町村の観光スポットへ家族を連れて泊まりに行く選手や、歴史記念館で音声ガイドのアテレコに挑戦する選手もいたり。極めつけはバンジージャンプを飛んで担当の市のPR動画に出演するなど、どの選手たちも楽しみながら“おらが街”との関係性を構築していきました。



最終的な順位はシーズン終了後に発表となりましたが、どのような順位になったということ以上に重要なことは、各チームが1年を通じて育んできた関係性。どのチームもまさに「ファミリー」と言うべきものになっていました。

選手の入れ替わりが激しいクラブだからこそ、1年ごとに全力で市町村と向き合う。そんな当たり前のことの積み上げが、ホームタウンとの真の絆になっていくと信じて、これからも続けていこうと思います。



栃木SC

栃木SCツナガルプロジェクト 1/2

2021年より栃木SCでは「すべての子どもたちに夢を」という思いから「子どもの貧困」という社会課題に向き合うために「栃木SCツナガルプロジェクト」を立ち上げ活動しています。子どもたちが地域やスポーツ、夢や希望にツナガル機会を提供する活動です。2023年は以前より実施しているひとり親世帯のホームゲーム招待や子どもの居場所へ選手が訪問する活動を継続、新たに子どもの居場所の利用者向けのイベントを開催しました。子どもたちが普段会うことのない選手との交流を通して、豊かな経験を育むことを目的としております。



活動場所

カンセキスタジアムとちぎ、ほっこり♪るるる、子どもの居場所 こどもてらす、なかよしひろば にこにこてらす、ちゅんちゅんこども食堂すずめのす、宮っこの居場所&子ども食堂さくら



協働者

行政、企業、協議会、ファン・サポーター

協働者名

宇都宮市、宇都宮市社会福祉協議会、各宇都宮市子どもの居場所、藤井産業株式会社様、三正運輸株式会社様、サポーターの皆様



協働者の声

宇都宮市／武藤 有佳 氏



宇都宮市が推進する「子どもたちが気軽にに行けて安心して過ごすことができる『宮っこの居場所』」の子どもに、サッカーボール作り・選手との交流や観戦バスツアーなどを実施いただきました。子どもは身近な居場所での選手とのふれあいに興奮していました。保護者は試合観戦に気軽に行け、家族の時間を楽しめたと好評でした。



活動詳細情報



[クラブ公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





栃木SC

栃木SCツナガルプロジェクト 2/2

Story

宇都宮市の約3人に1人の子どもが「関係性の貧困」と言われています。関係性の貧困にある子どもは、後ろ向きな思考になりやすい傾向があり、前向きな気持ちをもてるよう関係性の貧困を防ぐ必要があります。

そこで「栃木SCツナガルプロジェクト」を通し、関係性の貧困を解消するお手伝いをしています。



1.フードドライブ

ホームゲームにてフードドライブを実施し、サポーターの皆さまより段ボール8箱分の食材を寄付していただきました。

その食材は高嶋修也選手とトッキーが宇都宮市内3か所の子どもの居場所へお届けしました。

各居場所では子どもたちへ提供する食事の材料やお菓子として活用いただきました。

2.トッキーや選手が子どもの居場所へ訪問

トッキーは「ちゅんちゅんこども食堂すずめのす」様で行われた夏祭りに参加しました。

追いかけてっこをしたり、かき氷を作ったりしました。

高嶋修也選手・平松航選手は「宮っこの居場所 & 子ども食堂さくら」様のハロウィンパーティーに参加しました。

一緒に絵本を読んだり、トリックオアトリート！でお菓子をプレゼントしました。

3.ホームゲームへご招待

ひとり親世帯をホームゲームにご招待し、107名の方にご来場いただきました。

また、宇都宮市内2箇所の子どもの居場所の利用者39名の方にバスでスタジアムへ観戦ツアーを実施しました。

お友達や家族と一緒に試合を見てたくさんの笑顔がありました。



4.”サッカーを通して出来るSDGs”MY FOOTBALL KITで組み立て式サッカーボールを作ろう！

株式会社モルテン様のMY FOOTBALL KITを組み立て・そのボールでサッカーをするイベントを実施。

家族や友達と協力して、ボールを組み立て、自分だけの色に飾りつけをしました。

それぞれの個性に溢れるボールを大切に抱きしめ、帰る姿に非常に嬉しい気持ちになりました。

2024年も継続してさらに活動回数を増やしていく予定です。



ザスパ群馬

SDGsデー開催 1/2

クラブの優先すべき5つの目標の1つである「17.パートナーシップで目標を達成しよう」の一環として、クラブが推進する「ザスパの恩返しプロジェクト」で取り組んでいる施策のPR、またSDGsに取り組む方々による様々な体験ブースを【SDGsデー】と題してホームゲームにて実施いたしました。



活動場所 正田醤油スタジアム群馬 ホームゲーム



協働者

行政、企業、NPO、協議会、ファン・サポーター、スタジアム、飲食店、選手、一般社団法人

協働者名

国際紙パルプ商事株式会社、ソーダニッカ株式会社、株式会社バイオマスレジンマーケティング、一般社団法人群馬県防犯設備協会、株式会社群成舎、群馬総合スタッフ株式会社、明治安田生命保険相互会社群馬支社、フードバンクまえばし、前橋市、店舗スタジアムグルメ出店店舗(一部)、群馬県警



協働者の声 ソーダニッカ株式会社／筒井 毅 氏



今回「SDGsデー」と称して、生分解性を有するテイクアウト容器の実証導入をさせていただきました。クラブや飲食テナント各社、サポーターの方々との協力もあり、貴重な第一歩が踏み出せました。クラブを取り巻く関係者一丸となって、群馬＆ザスパから日本中に「サーキュラーエコノミー」の環を広げたいと思います！



SDGsデー



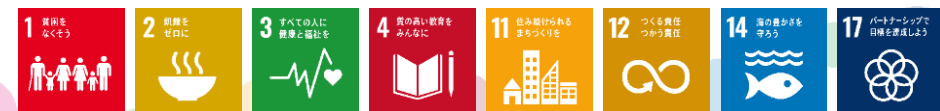
活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ザスパ群馬

SDGsデー開催 2/2

Story

ザスパ群馬では、2023シーズンのホームゲームより「ザスパエコスタジアムプロジェクト」と題した、スタジアムからクリーンでエコな持続可能な社会を目指したアクションに取り組んでおります。

スタジアムで使用する容器や備品の再生可能な素材への切り替え推進、さらに資源を回収してアップサイクルによる再製品化といった資源循環システムの構築、およびCO2の排出削減をスタジアムから実現していくことを目標にシーズン通して様々な活動を実施いたしました。



その中で9月3日のホームゲームではザスパエコスタジアムを軸に【SDGsデー】を題して企業や行政の協力を得てイベントを実施いたしました。

ホームゲームでの使用済み紙コップのアップサイクルについての取組みのご紹介や和紙から生まれた天然繊維「OJO+(オージョ)」を使った紙系のゴールネットと人工芝を用意し、お子様たちに実際にPK対決でつかってもらったり、人工芝に触れてもらい紙系の良さを実感してもらう機会の提供をいたしました。

また、植物から生まれた循環型プラスチックやお米からできたバイオマスプラスチックの紹介、販売や、工場や店舗から出る廃材などを教材にした【クリエイティブリユース】によるワークショップも実施いたしました。



さらに、当日は身近な人を詐欺から守り住みよい街を目指すため、県警とも協力した特殊詐欺根絶セミナーも選手と共に実施いたしました。

そのほかにもフードドライブの実施やモルックの体験も選手と共に実施し、楽しみながらスタジアムで身近にSDGsの活動に触れることでホームタウンである群馬を中心に皆さんと一緒に持続可能な社会を作っていきたいと思っております。



浦和レッズ

「犯罪被害者支援」～あなたを支えるチカラになる～ 1/2

浦和レッズは、埼玉県警とともに犯罪被害者支援に取り組んでいます。被害者支援は、重要であるものの社会的認知度が低く、被害者へのケアが不十分です。そこで、支援の認知度向上や被害者に寄り添うことは、浦和レッズが地域公共財として果たせる役割と考えました。埼玉県警や彩の国犯罪被害者ワンストップ支援センターと連携しての支援周知や、被害者に直接寄り添う支援活動に取り組んでいます。事件・事故では、解決後も被害者の苦痛が継続しているケースも多く、一人ひとりに目を向け、支援する社会的重要性を実感しています。

活動場所 さいたま市内

協働者 **協働者名**

行政、学校、協議会、選手、公益財団法人、埼玉県警

埼玉県、埼玉県警察、公益社団法人埼玉犯罪被害者援助センター、埼玉県犯罪被害者支援推進協議会、尚美学園大学

協働者の声 埼玉県警察本部 警務部警務課／星名 竜一 氏
犯罪被害者支援室



浦和レッズの皆様には被害者支援にご理解、ご協力をいただき、広報イベントや被害者等招待試合などを一緒に実施させていただきました。招待いただいた被害者等からは「選手に生きる希望をもらった」などの反響がありました。今後も浦和レッズの力をお借りし、支援周知や被害者に寄り添う支援活動を実施していきたいです。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [埼玉県HP①](#)
- 4 [埼玉県HP②](#)
- 5 [公式X](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





浦和レッズ

「犯罪被害者支援」～あなたを支えるチカラになる～ 2/2

Story

～「犯罪被害者支援」の現状を知る～

埼玉県警から「犯罪被害者支援」について共同で取り組めないかご提案いただき、社会にあまり知られていない犯罪被害者支援の必要性を再認識しました。事件・事故で受けた様々な傷は司法上、民法上で解決した後も消えない方が多くいます。浦和レッズとしては、支援の必要性を社会にお伝えするとともに、被害者やその家族の皆様にも少しでも寄り添い、平穩に過ごせるようなきっかけづくりができればと強く感じ、「周知、啓発」と「寄り添い」をテーマに取り組みを始めました。



～できることは「知ってもらうこと」「寄り添うこと」～

浦和レッズは犯罪被害者やその家族が再び平穩な生活を営める社会を目指すという『埼玉県警犯罪被害者支援推進協議会』の目的や趣旨に賛同し、2021年10月に加入しました。

啓発のため、浦和レッズはこれまでは行ってこなかった告知形式を採用しました。実際とは異なるキャラクターづくりになりかねないとしてきたアニメ化にチャレンジ。浦和レッズをイメージした女性選手を主役に、被害者支援の大切さを呼び掛けるもので、啓発ポスターも作成し県内各所に掲出しました。

また、犯罪被害者の方々をホームゲームに招待して交流したり、PRブースを開設するなど、啓発と寄り添いのための活動を行いました。



～これからも、あなたを、地域を、支えるチカラに～

事件・事故後という目の行き届きにくいところへの支援に踏み切った浦和レッズですが、「これから」にも目を向けて埼玉県警と連携し様々な取り組みも行っています。

ホームゲームで子どもたちに警察の仕事体験する場を提供したり、選手が盗難被害防止キャンペーンや一日警察署長に就任したりしています。このほか、コーチたちが非行防止サッカー教室を開催。これからも、安心安全で「しあわせなホームタウン」づくりに多様な角度から取り組んでいきます。



大宮アルディージャ

デコ活AtoZ～脱炭素社会に向けたアルディージャファミリーによる共創事業～ 1/2

これまで、サッカー教室や手話応援デー、太陽光発電、地域清掃活動など様々な社会課題に対してSDGsのゴールにつながる活動を行ってきた。その中でも地球温暖化防止のために「明日のために、今日できること。」というテーマを掲げ、2008年より「エコクラブ」として継続的にエコ活動に取り組んできた。脱炭素社会実現に向けた具体的なアクションを、ファン・サポーター、パートナー企業、地域団体、行政、メディアと連携して実施し、脱炭素先行地域であるさいたま市をホームタウンとするクラブとして日常的なデコ活アクションへつなげることが狙いである。

活動場所 NACK5スタジアム大宮

協働者 **協働者名**

行政、企業、ファン・サポーター、スタジアム、選手

東日本電信電話株式会社、さいたま市、株式会社恒電社

協働者の声 東日本電信電話株式会社
経営企画部サステナビリティ推進室／板谷 玄 氏



「デコ活 AtoZ キックオフデー」という名前のおり、カーボンニュートラルな社会に向けた取り組みは、これからがスタートです。これがきっかけとなり、地道な活動ですが、皆さまと一つ一つの取り組みを大切に、未来の世代へフットボールを安心して楽しめる環境が提供できることを望み、これからも活動を推進していきます。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [恒電社HP](#)
- 3 [さいたま市HP](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





大宮アルディージャ

デコ活AtoZ～脱炭素社会に向けたアルディージャファミリーによる共創事業～ 2/2

Story

〈サッカーにおける気候変動の影響〉

近年、地球規模の気候変動により、私たちの身近な問題として急な気象変化、豪雨、雷雨、猛暑、台風などにより、これまでの生活が大きく変化する状況にある。

現在の地球の環境変動の進行により、私たちが愛するフットボールの未来が危険にさらされている。このまま猛暑や極端な気象変化により、フットボールを安全に楽しむことができなくなる懸念が高まっている。



〈フットボールを守る〉

大宮アルディージャは、我々の活動が地球環境に及ぼす影響を真摯に受け止め、未来の世代にフットボールを安心して楽しむことができる美しい地球を残すため、カーボンニュートラルへの取り組みを積極的に進めていく。

地域を代表するサッカークラブとして、我々の行動は多くのファン・サポーターの皆さまや地域コミュニティを巻き込んでいく可能性を持っている。その力をサステナビリティへの取り組みを牽引し、地域の繋ぎ役となっていくという役割を果たすために使うべきだと考える。

〈デコ活AtoZキックオフデー〉

10/29・甲府戦にて、二酸化炭素を減らすという意味の”DE”(脱炭素(Decarbonization))と、環境に良い”エコ(Eco)”を組み合わせた活動・生活を表現している新しい言葉と、「アルディージャ(A)が実現するゼロカーボン(Z)」と「はじめから(A)終わり(Z)まで、できる全ての活動を行う」の二つの”AtoZ”という決意を込め、「デコ活AtoZキックオフデー」と銘打ち、さまざまなブースを出展した。気候変動によるフットボールへの影響や、カーボンニュートラルの社会に向けた取り組みについて、Jリーグ執行役員辻井隆行様、大宮アルディージャの



OBである渡邊大剛さんをお迎えしたパネルディスカッションや、発電エネルギーについて、皆さまで理解促進できるエアロバイクでの発電ブースなどを出展した。

ファン・サポーターの皆さま、パートナーの皆さま、ホームタウンの皆さま全体が一丸となり、環境への意識を高め、行動に移していただけるような活動を継続して行っていく。



ジェフユナイテッド千葉

SDGsスタンプラリー 1/2

「SDGsって聞いたことあるけどよくわからない」、「SDGsへの参加の仕方がわからない」という話をよく耳にしました。持続可能な社会を作るためには、より多くの人々がSDGsを理解しないといけないね。より多くの人に関心をもってもらうためには、ハードルは低い方が良いし、ゲーム性があると楽しいのでは。そこで考えたのがホームゲームでのSDGsスタンプラリー。当日は6つのSDGs活動を実施。各活動毎に、参加するとスタンプを押印。スタンプを2つ以上集めた方には、選手からオリジナルポストカードをプレゼントした。



活動場所 フクダ電子アリーナ(ホームゲーム)



協働者

行政、学校、学生、ファン・サポーター、民間団体、選手、公益財団法人、障害者サッカーチーム

協働者名

千葉県ユニセフ協会、フードバンクちば、千葉県立千葉女子高校、千葉市、千葉県知的障がい者サッカー選抜、FCTラッソス、千葉大学、江戸川大学、障がい者就労支援施設オリーブハウス



協働者の声 千葉県立千葉女子高等学校 / 石井 玲 氏



前々からジェフを応援していたこともあり、本校家庭クラブの活動のひとつ「古着循環プロジェクト」を、同じ千葉市にあるジェフと連携してみたいとコンタクトしたのがきっかけでした。ジェフと組むことで多くの方に周知・参加いただきました。このような活動を通して、資源循環の必要性を広めていけたらと思います。



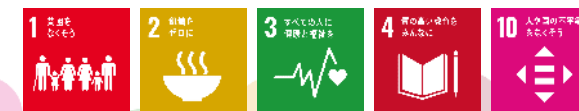
活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリー(SDGs) / 取り組みテーマ





ジェフユナイテッド千葉

SDGsスタンプラリー 2/2

Story

クラブの強みは、毎試合多くの方がスタジアムに集うということ。それを活かして、フードドライブや古着の回収を何度か行ってきた。クラブ単体でできることは小さいが、サポーターの力を借りると大きな力になる。ホームゲーム時にSDGsに関する啓発活動を行えば、より多くの方にSDGsについて知っていただいたり、参加していただくことができるのではと考え、SDGs週間にあたる9月23日のホームゲームにてSDGsスタンプラリーを実施した。6つの活動のサポートには千葉大学と江戸川大学の学生がボランティアで参加。またトップチーム選手も8名参加した。ユニバーサルマッチのサポートをした椿直紀選手は、「障がいがあると聞き、当初は少し違うサッカーかなと思っていたが、球際の強さ、

パスやシュートなど、レベルが高かった。障がいがあっても同じサッカーができると知った。」と話す。当日は360人が2つ以上の活動に参加。試合後のアンケートでは、「SDGs活動の理解が深まった」「楽しく学ぶことができた」「継続して欲しい」といった声が多数寄せられた。より多くの方にSDGsに関心を持ってもらうため、継続して実施していきたい。

実施した活動

- ・千葉県ユニセフ協会による募金活動
- ・ユニバーサルマッチ presented by 古河電工
障がい者が健常者と同じように活躍できる場を提供したいという思いの元、Jリーグの前座試合として、千葉県知的障がい者サッカー選抜チームvsFCトラッソス(東京都内の知的障がい児・者のサッカーチーム)の試合を実施。
- ・フードドライブ
集められた食品類22.5kgはフードバンクちばを通して食料困窮者の元へ。
- ・衣類循環プロジェクト
千葉県立千葉女子高校と協働。回収した古着426着を、全てリユースできた。



- ・就労支援施設による食品販売
障がい者の自立を目的とした就労場所と労働報酬の確保という課題の解決を目的とし、ホームゲームにて定期的実施。今回は「オリーブハウス」が、自前で製作したクッキーや小物類を販売。
- ・千葉県環境局脱炭素推進課による地球温暖化クイズ
地球温暖化への警鐘を鳴らし、喚起することを目的としたクイズを実施。





柏レイソル

すべては子どものために。子どもの権利について学べるアクティビティ教材作り 1/2

柏レイソルは、CSR連携パートナーである子ども支援の国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと共に「子どもの権利」を推進するための活動を行っています。その活動の一環として2023年11月、子どもの権利について学べる授業を、柏市立酒井根小学校で柏レイソルトップチーム選手5名と共に実施しました。この活動は、柏レイソルが続けていかなければいけない「大切な子どもたちへの支援」の一つで、学校で子どもの権利について学べる教材を開発することを目的として、セーブ・ザ・チルドレン、小学校、柏レイソルの3者が共同で実施したものです。



活動場所 三協フロンテア柏スタジアム 柏市立酒井根小学校



協働者

行政、学校、NPO

協働者名

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、
柏市立酒井根小学校(柏市教育委員会)



協働者の声

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン事務局長／高井 明子 氏



子どもの権利授業に参加した子どもたちからは、「柏レイソルの選手と一緒に考えてくれたからよかった」、「安心して話せるってこんな気持ちなんだなと思いました」といった声が寄せられました。柏レイソルや地域の方たち、子どもたちとともに、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指します。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンHP](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





柏レイソル

すべては子どものために。子どもの権利について学べるアクティビティ教材作り 2/2

Story

みなさんは「子ども権利」を知っていますか？

子どもの権利条約とは、1989年11月20日に国連総会で採択された子どもたちの権利について定める国際条約です。子どもの権利条約第42条では「子どもの権利条約を知る権利」が定められています。

しかし、2019年にセーブ・ザ・チルドレンが実施した調査では、子どもたちの約3割が、また大人の約4割が「子どもの権利について聞いたことがない」ということが明らかになりました。

このような状況を受け、セーブ・ザ・チルドレンでは、子どもたちが多くの時間を過ごす学校で権利について学べるための教材開発に着手。先生や生徒の意見を聴きながら、子どもの権利について考えられる実践的な教材の開発を進めています。



セーブ・ザ・チルドレンによる子どもの権利の教材開発や共同での授業実施について、柏市立酒井根小学校に声をかけたところ、快く授業に協力していただけになりました。こうして初の試みとなる学校、Jクラブ、国際NGOの三者協働による「子どもの権利の授業」が動き出しました。

授業前に行ったアンケート調査で、子どもの権利について「学校の授業を通じて、選手と一緒に考えたい」といった声が子どもたちから多く寄せられたこともあり、授業にはオウイエ ウィリアム、山本桜大、落合陸、熊澤和希、モハメド ファルザン佐名の5選手が参加。2時間の授業を実施するにあたり、選手は2か月以上前から模擬授業を複数回行ったり、授業に関する意見を提案したりするなど、積極的に準備に関わりました。酒井根小学校で実施された授業で用いた教材(アクティビティ)の一部は、現在、セーブ・ザ・チルドレンによる子どもの権利について学べるウェブサイト「こどものケンリ」で公開しています。教材は、自由に閲覧・ダウンロードでき、学校の授業などで活用することができます。



柏レイソルとセーブ・ザ・チルドレンによる、子どもの権利を推進するための活動は、今回のみで終わりではありません。2023年4月には、こども基本法・こども家庭庁が施行・発足されました。学校現場でもこれまで以上に人権や子どもの権利に配慮した教育活動が求められています。子どもたち、学校現場で働く教員、そして柏レイソルやセーブ・ザ・チルドレンなど、子どもを取り巻く関係者が共に権利を守るための活動を推進することで、子どもの権利が保障された社会が実現されると考えます。



FC東京

街と街をつなぐ！地域の架け橋デジタルスタンプラリー 1/2

日常からFC東京を感じ、ファン・サポーターと地域を繋ぐ企画を検討している中で、FC東京がハブとなり、地域と地域をつなぎ、ファン・サポーターの回遊を中心に、家族や仲間との会話にFC東京が生まれる施策として、デジタルスタンプラリーを実施しました。府中市、三鷹市、調布市と連携し、商工会・商工会議所・商店街からサポートを頂き、約370店舗に参加いただきました。またファン・サポーターを中心に約1,000名の方々にご参加頂きました。今後も各ステークホルダーとの連携から地域の方々も喜んで頂ける活動を継続して積み重ねていきます。



活動場所 府中市、三鷹市、調布市の3市内



協働者

企業、NPO、住民、学校、行政

協働者名

共催：府中市商店街連合会、三鷹商工会、調布市商工会
 特別協力：京王電鉄株式会社
 運営協力：シナジーマーケティング株式会社
 賞品提供：京王電鉄株式会社、味の素株式会社、西川株式会社、カシオ計算機株式会社、株式会社エクシング



協働者の声

調布市商工会／横田 誠 氏



デジタルスタンプラリーの開催にあたっては、多くの店舗に参加してもらうことが非常に重要でした。地域の店舗にとってもクラブが地域の活性化に積極的に取り組んでいることを知っていただけたと思います。これからも、ファン・サポーターと一緒にクラブを応援することで地域の活性化に繋がると確信しています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式X](#)
- 3 [調布経済新聞](#)
- 4 [三鷹商工会HP](#)
- 5 [京王電鉄X](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





FC東京

街と街をつなぐ！地域の架け橋デジタルスタンプラリー 2/2

Story

ホームタウンエリア各所のみなさまと日頃から活動を共にし、またコミュニケーションを図らせていただく中で、日常からFC東京を感じる施策があると良いというご意見をいただいております。また、クラブ創立25周年の年を迎え、日頃応援いただいているファン・サポーターの皆様と地域の皆様を繋ぐ企画を検討していました。

そういった声を元にFC東京がハブとなり、地域と地域をつなぎ、ファン・サポーターの回遊を中心に、企画露出によってクラブに興味をもち、また家族や仲間との会話にFC東京が生まれる施策として、シナジーマーケティング様からもタイムリーにご提案いただいたデジタルスタンプラリーを実施しました。



今回、府中市、三鷹市、調布市の3市と連携し、各市の商工会・商工会議所・商店街の方々のサポートを頂き地域の店舗のみなさまにお声がけをする中で、約370店舗と非常に多くの店舗のみなさまにご参加をいただきました。

企画には該当エリアの大動脈である京王電鉄社にもご協力をいただき、駅構内でのポスター掲出やチラシ設置を実施いただいた他、各行政のSNS、エリア紙掲出など幅広く地域のみなさまに企画を目にしていだける環境を構築し、クラブスポンサーからも賛同いただき企画にご参加いただきました。

この企画は、府中市、三鷹市、調布市と今までクラブが築いてきた関係性の積み重ねなくして実現しない施策であり、実施にあたり各市の考えや意見をいただきながら、それぞれの意見を尊重しあい、皆が納得いく形で、同じゴールへ向けて実施することができました。



結果的には、FC東京のファン・サポーターを中心に約1,000名の方々が参加し、デジタルスタンプラリーは無事に終了となりました。今後も行政や商工会をはじめ各ステークホルダーとの連携から地域の方々が喜んで頂ける活動を継続して積み重ねていきたいと思っております。またこの企画はたくさんの可能性を秘めており、他クラブとの横連携などさらなる発展も検討していきたいと思っております。



東京ヴェルディ

地産地消のサイクルを！東京ヴェルディ米粉クッキーづくり 1/2

東京ヴェルディと稲城市社会福祉協議会が連携し、エトピア工房の利用者と東京ヴェルディの選手と一緒に、米粉クッキーを作成しました。ここで使用したお米は、前年実施した「選手によるお米作り体験会」で収穫したお米を活用させていただきました。一緒に作った米粉クッキーは、東京ヴェルディのホームゲームにてファン・サポーター向けに販売した他、稲城市内のお店や観光案内所などでも販売し、販路を増やしてまいりました。また、ここで得た収益は、全額エトピア工房の作業報酬とさせていただきます。



活動場所 稲城市社会福祉協議会エトピア工房、味の素スタジアム



協働者

行政、住民、協議会、ファン・サポーター、スタジアム、選手、農業団体

協働者名

稲城市社会福祉協議会 エトピア工房、稲城市役所、小田良BASE、稲城小田良土地地区画整理組合



協働者の声

社会福祉協議会 エトピア工房／三宅 里絵 氏



米粉作りは初めてでした。試作ではなかなかサラサラした米粉には仕上がらず、本当にできるのか心配しましたが、エトピア工房にとって、とても良い経験をさせていただき、本当にありがとうございました。そして、今回の企画を通じて、これまで障がいの理解や社会福祉に関心がなかった人に少しでも関心をもっといただくなりかけとなっていれば幸いです。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式サイトYouTube](#)
- 3 [公式X](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





東京ヴェルディ

地産地消のサイクルを！東京ヴェルディ米粉クッキーづくり 2/2

Story

2022年に実施した、東京ヴェルディの「選手によるお米作り体験会」で収穫したお米をどのように活用するかについて議論した結果、お米を砕き、粉末状にした方が長持ちし、且つより多くの皆さまに行き届くのではないかと考えました。そのことから、稲城市社会福祉協議会が運営し就労継続支援事業を行っている「エトピア工房」と連携し、米粉クッキーを作成することになりました。

本作成においては、前年同様、選手の新人研修の一環としての取り組みでもあり、エトピア工房の皆さまにとっても、就労支援事業の取り組み事例の一つとなりました。



参加5選手は、米粉作りを一緒に行う皆さまとの交流を深めました。すりばちを一緒に持ち、そしてもう一人はお皿が動かないように、分担して擦りこみ作業を行いました。腕が疲れてきたら、バトンタッチ！選手同士だけではなく、エトピア工房の皆さまと楽しく作業を行いました。

約1時間かけて、お米をなめらかな米粉状にしました。こうして作った米粉を焼成し、米粉クッキーとして販売することになります。

東京ヴェルディが稲城市の地域貢献活動の一環として行っている『稲城市ヴェルディ応援DAY』において、作成した米粉クッキーを当日来場したファン・サポーターに対して販売しました。

当日はエトピア工房のブースも設置し、一般就労が難しい方に働く場を提供し、就労に必要な知識および技能向上を目指すための支援を行っている施設であることを広く周知しました。

また、同ブースでは、施設スタッフ及び利用者の方とともに、東京ヴェルディクラブスタッフも一緒に来場者に稲城市で採れたお米で作成した米粉クッキーを販売しました。



これまでホームゲームや稲城市内で販売してきた米粉クッキーの売上は、稲城市社会福祉協議会エトピア工房様へ全額寄付させていただきました。今回、稲城市の団体と連携し、お米作りから携わることで、地産地消のサイクルを生み出すことができ、東京ヴェルディとしても地域社会における役割の一旦を担うことができました。

これからもホームタウン内にて、社会的意義のある活動を地域の皆さまと取り組んでまいります。

この度は、このような素晴らしい機会をくださった、小田良BASE様、稲城小田良土地区画整理組合の皆さま、エトピア工房の皆さま、誠にありがとうございました。



FC町田ゼルビア

『ゼルビアがっこう』で開く！未来へのパスコース！ 1/2

きっかけはポスターを学校に掲出したいとの依頼だった。「地元クラブへの愛着と関わりを持たせたい」と願う先生と向き合う中、子どもたちが平等に将来を考える機会創出がしたいという想いを受取り、学校単体では実現の難しいプロスポーツクラブと企業がタッグを組んだキャリア教育『ゼルビアがっこう』を実現！
 中学1年生を対象にキャリア形成に必要な能力を養い、自らの力で生き方を選択するためのサポートを目指した。



活動場所 町田市立南中学校



協働者

企業、学校、学生

協働者名

町田市立南中学校、株式会社ユニテックス、アート引越センター株式会社、株式会社マイクロアド、株式会社リップルコミュニティ、株式会社ジェイコム湘南・神奈川、株式会社プライムランドリーソリューションズ、トヨタモビリティ東京株式会社



協働者の声

町田市立南中学校／奈良 俊光 氏



子どもたちがキャリアを形成していくために必要な能力や、自らの力で生き方を選択する力を身に付けることが目的で実施致しました。スポンサー企業7社の皆様から「プロスポーツクラブへのスポンサーを務める意義と、未来の話」を伺い、1年生約230名は目を輝かせながら、自身の将来のキャリアに向けて学習していました。



活動詳細情報

1

[らぶらあみ](#)

2

[東京新聞](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC町田ゼルビア

『ゼルビアがっこう』で開く！未来へのパスコース！ 2/2

Story

担当の先生は町田市出身。FC町田ゼルビアへの愛は学校一というほど強く、出会いからすぐに「子どもたちが地元でプロスポーツクラブがある意義を感じてほしい。」と語ってくれた。「家庭環境に左右されず、子どもたちが平等に将来を考える機会創出がしたい」と強く表現した先生だが、通常業務と並行して機会創出を調整する難しさ、企業を招いて講話を行うにも企業へのアプローチ手段がわからないという教育現場の課題感も見えた。そこで『ゼルビアがっこう』を提案。前年度公立小学校を対象に開催した前例があり、クラブが子どもたちや先生方をサポートしたい想いを伝え準備が始まった。



『ゼルビアがっこう』はクラブが参加企業募集や調整、企画運営を担い先生方の負担を軽減できるだけでなく、スポンサー企業の協力を得ることで、子どもたちが様々な業種に触れ、自身の興味関心に気づきながらキャリア形成に必要な能力、自らの力で生き方を選択するためのサポートができるのが強みだ。今回は「企業から経済の動きを学ぶ」をテーマに7社のスポンサー企業と連携し合同企業説明会を模した形で実施。

子どもたちは参加企業について事前に調べ学習を行い、希望4社の講義を受講できるよう設定、各企業が特色を活かした講義を展開した。日常生活で親しみのある企業、授業を通じて初めて知る企業に惹きつけられるかのように様々な業種の講義を楽しみつつ、時折じっくりと考え込む様子も垣間見えた。

終了後、子どもたちは「将来の選択の幅が増えた」「この仕事がしてみたいと思った」と講義以前からの変化が見られた。運営面では準備体制やマンパワー、音響トラブルなど新たな課題がありつつも参加企業からは「また子どもたちと関わりたい」という声をいただいた。



「南中学校をきっかけに他校へ横展開できれば」と先生が語った通り、今後も課題に寄り添い、活動の輪を広げ継続的に地域貢献することができるよう努めていきたい。



川崎フロンターレ

等々力緑地清掃活動 Supported by ヨネヤマ 1/2

2008年から川崎フロンターレが継続的に続けている清掃活動。川崎フロンターレとしてゆかりのある場所をきれいにしたい、そんな想いが集結した、選手会主催の「等々力緑地清掃活動 Supported by ヨネヤマ」。今回初の試みとして、日頃ホームゲームでお世話になっている等々力陸上競技場がある等々力緑地を、川崎フロンターレの選手・スタッフ、そしてサポーターや近隣住民の皆さまと一緒に綺麗にしたいという想いから実施に至りました。参加人数449名のすべての皆さまと互いに交流をしながら清掃活動や緑化美化活動を行いました。



活動場所 等々力緑地、等々力陸上競技場



協働者

企業、住民、ファン・サポーター、スタジアム、民間団体、選手、ボランティア、プロスポーツクラブ

協働者名

株式会社ヨネヤマ、川崎とどろきパーク株式会社、等々力町内会、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ、川崎フロンターレ選手会



協働者の声

WEリーグコミュニティオーガナイザー／海堀 あゆみ 氏



初めて活動に参加させていただきました！このような活動を選手会主導で実施していることはフロンターレさんならではの活動だと思います！また、リーグの垣根を越えて私が参加をさせて頂いたこともサッカーの輪を広げるという意味でもとても意義のある活動だったと思います。サポーターの方とも沢山お話しでき、改めてフロンターレさんは地元で愛され根付いてると感じ、私も笑顔をいただきました。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





川崎フロンターレ

等々力緑地清掃活動 Supported by ヨネヤマ 2/2

Story

このイベントは、これまで川崎フロンターレが継続的に取り組んできた地域貢献やSDGsへの想いにご賛同いただき、2023シーズンより川崎フロンターレSDGsパートナーとしても活動を共にしている株式会社ヨネヤマ様ご協力の元、「ホームタウンである川崎のために貢献がしたい」という選手たちの強い思いを受けて、開催が決まりました。

始まりは、川崎フロンターレ選手会が、川崎市、とどろき水辺の楽校、国土交通省と共催し、サポーター参加型で2008年から継続的に行ってきた、「多摩川“エコ”ラシコ」いう名の清掃活動。今回新たな試みとして、日頃ホームゲームでお世話になっている等々力陸上競技場がある等々力緑地



も、選手・スタッフ・そしてサポーターの皆さまと一緒に綺麗にしたいという想いから実施に至りました。この日は、ケガなどで参加できなかった選手を除き、すべての選手が集結。川崎フロンターレスタッフ、株式会社ヨネヤマ様、地元市民の方々、そして449名ものサポーターの皆さんと一緒に清掃活動を行いました。

また、同日に等々力陸上競技場で女子プロサッカーリーグであるWEリーグの「WEリーグカップ決勝」が行われたこともあり、同じく川崎フロンターレの取り組みにご賛同いただいたWEリーグコミュニティオーガナイザーである、海堀あゆみさんにもご参加いただきました。

数班に分かれスタートした清掃活動。競技場周りの班は、競技場に掲示されている歴代メンバーの写真を指差しながら談笑する場面もあり、終始和やかな雰囲気でした。

草むらを担当した班は、なんと茂みの中から廃棄された自転車を見つけ、お宝を見つけたかのように驚き喜ぶ場面も見られました。

清掃活動を終え綺麗になった等々力緑地を見た選手たちが、「本当に自分たちは、素晴らしいサポーターに囲まれているよね」と話していたところに、



「私たちも、いいチームを応援させてもらっているよ」とサポーターの方が声を掛けられていた様子はとても印象的でした。

今回ゴミス選手は日本の文化をより理解し、そしてこの経験を家族で共有したいという強い希望がきっかけでご家族も一緒にご参加いただきました。継続して選手が積極的に参加する川崎フロンターレの清掃活動は、その日限りの清掃活動ではなく、継続して行っていける活動を目指しております。参加した子供たちが、日頃道を歩いているとゴミを見つけて拾ったよ、と報告をしてくれるようになったり、等々力緑地・等々力陸上競技場をより知って、きれいにご使用いただくきっかけとなったり、様々な相乗効果が生まれることを目標としております。



横浜F・マリノス

#命つなぐアクション 進化と共に繋がる想い 1/2

2011年に急性心筋梗塞で急逝されたクラブのレジェンド・松田直樹さんが付けていた「#3」。クラブの永久欠番であるこの「#3」を背負う人たちがいることをご存じでしょうか。「#命つなぐアクション」に共に取り組む日本体育大学保健医療学部救急医療学科(横浜市青葉区)の皆さんです。
 救える命を、ひとつでも増やすために。救える術を、ひとりでも多くの人に。松田直樹さんのような悲劇を二度と起こさない為の「#命つなぐアクション」。救急救命において高い専門性を持つ日体大さんの参画により活動は進化、#3への想いも繋がっていきます。



活動場所 日産スタジアム、ホームタウン各所

協働者

学校、学生、一般社団法人

協働者名

日本体育大学保健医療学部救急医療学科
 一般社団法人 松田直樹メモリアル Next Generation

Voice 協働者の声

日本体育大学保健医療学部救急医療学科准教授救急救命士／鈴木 健介 氏



救急救命士・教員として、「#命つなぐアクション」に学生教職員と参加し、松田直樹さんへの想いを継承する事に誇りを持っています。「#3」のビブスを着用し活動することで、命を救う重要な役割を果たしています。AEDとCPRの知識を広め、多くの人々が救命技術を学ぶ機会を提供し、地域の安全と健康に貢献していきたいです。

活動詳細情報

- 1 [クラブ公式サイト](#)
- 2 [F・マリノススポーツクラブHP](#)
- 3 [産経新聞](#)
- 4 [Sports for Social](#)
- 5 [救護活動イメージ動画\(YouTube\)](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





横浜F・マリノス

#命つなぐアクション 進化と共に繋がる想い 2/2

Story

クラブは「#命つなぐアクション」に継続して取り組んできましたが、「クラブだけでは『救急救命』の専門性が担保できない」「連携先との継続性に欠ける」という課題を抱えていました。「#命つなぐアクション」のこの課題を克服したいと考えたスタッフが、名古屋グランパスさんと中部大学さんとの取り組みを参考に、2021年末に救急医療学科を持つ日体大さんに協力依頼をしたことから協働は始まりました。

現在、日体大の先生方・学生さんには「①AEDを携行しての日産スタジアムホームゲーム時のスタジアム巡回・傷病者対応」「②クラブ主催のAED/CPR講習会の講師」の二つの活動でご協力をいただいています。



①については2023年終了時点で33試合での救護活動を行っていただき、AEDを携行し巡回することでのセーフティネットの構築と傷病者への適切な初期対応により安心安全なスタジアムづくりに継続して貢献していただいています。

②も、スタジアムでの簡易的なAED/CPR体験会、2023年8月に実施した大規模講習会など質の高い学習機会を提供いただいております。サッカークラブとしての「地域にアプローチできる力」と日体大さんの「高い専門性」を掛け合わせることでクラブの「#命つなぐアクション」が進化しているのを感じます。今後は学校等への出前講習会、オリジナルの教材制作にもトライしたいと考えています。

なお、松田直樹さんの背番号である「#3」が入ったビブスを日体大さんには活動時に着用いただいています。なぜこの活動に取り組むのか、どんな想いを込めているかを活動に参加する学生さんに知ってもらったり、スタジアムに来場する子供たちや松田直樹さん知らない方に「#3」への想いを繋いでいくためです。



「#命つなぐアクション」の進化と共に、#3への想いも一緒に繋がっていきます。救える命を、ひとつでも増やすために。救える術を、ひとりでも多くの人に。

#命つなぐアクション #FOREVER3



横浜FC

地元小学校と地域を盛り上げよう！「横浜FC×神奈川区の魅力発信プロジェクト」1/2

横浜FCが重点活動エリアとしている7区と毎年協働で実施している「区民DAY」。各区に在住・在勤・在学(在園)の方々をホームゲームにご招待・ご優待することでスタジアム来場のきっかけにしてもらうだけでなく、各区ならではの魅力を発信し、改めてその区のすばらしさを感じていただくことも目的としている。今回はホームスタジアム「ニッパツ三ツ沢球技場」の所在地でもある神奈川区との「かながわ区民DAY」を同区内の西寺尾小学校と一緒に盛り上げてくれた。



活動場所 横浜市立西寺尾小学校、横浜FC・LEOCTレーニングセンター、ニッパツ三ツ沢球技場



協働者

行政、学校、学生、選手

協働者名

神奈川区役所、横浜市立西寺尾小学校5年1組



協働者の声

横浜市立西寺尾小学校 5年1組 教諭／笠本 健太 氏



5年1組は、横浜FCと出会い、数え切れないほどの感動を味わいました。たくさんの方の感動体験を通して、クラスの全員が横浜FCを大好きになりました。そして、横浜FCと、ニッパツ三ツ沢球技場がある自分たちのまちのことが大好きになりました。
5年1組の同窓会は、スタジアムであることを、子どもたちと約束しています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式X①](#)
- 3 [公式X②](#)
- 4 [タウンニュース①](#)
- 2 [タウンニュース②](#)
- 3 [神奈川新聞](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





横浜FC

地元小学校と地域を盛り上げよう！「横浜FC×神奈川区の魅力発信プロジェクト」 2/2

Story

宿泊学習の帰りのバスの中で、一人の児童が横浜FCの応援歌を歌った。そしてクラス全員での大合唱となり、これをきっかけにクラス全体の横浜FCへの関心が高まった。担任の笠本先生から「横浜FCのホームゲームで地元神奈川区の魅力と横浜FCの魅力が詰まったリーフレットを配布して発信したい！」という熱意にクラブは「かながわ区民DAY」で実行することをご提案。

・事前学習第1弾 → 神奈川区役所区政推進課のご担当者と横浜FCが西寺尾小学校を訪問し双方の魅力発見授業を実施。神奈川区の地形の特徴や歴史、地域の商店街や人々の暮らしの背景など神奈川区のことを知ることや、神奈川区にホームスタジア



ムを持つ横浜FCの歴史やSDGs、社会連携活動として取り組んでいるホームタウン活動や地域との関係作りなどを説明。オフィシャルクラブマスコットのフリ丸も登場し授業を盛り上げた。

・事前学習第2弾 → 横浜FCのことをもっと知るためにクラブハウス施設内見学と練習見学を実施。授業の成果として実際に体験して発見した魅力を児童の皆さんの手作りリーフレットに書き起こし、「かながわ区民DAY」のご来場者にお配りするため、練習終わりには選手へインタビュー。告知動画も選手と共に撮影しSNSや神奈川区役所、同小学校で放映。横浜FCの魅力を多くの人に伝えたいという児童の皆さんの強い思いが選手にも伝わっていた。

○区民DAYを成功させるために抽選会ブースで配布をする手作りノベルティグッズを準備していただき、地域のお祭りでもPR活動を実施していただいた。当日は横浜FCと神奈川区の魅力が詰まった手作りリーフレットを児童の皆さんがご来場者に配布。そして、応援席で選手たちに勝利への後押し。大きな声援と勝利を信じた熱い気持ちのおかげでFC東京に1-0で勝利。多くのサポーターの方々と最高のホームスタジアムで最高の瞬間を、児童の皆さんがつないでくれた「かながわ区民DAY」だった。



○横浜FCと活動したことを「報告会」として児童の皆さんが「感動したこと」を発表し合う特別授業にお招きいただいた。

この活動を通してファン・サポーターの素晴らしさ、社会貢献活動 シャレン！やクラブのSDGsへの取組の価値を改めて確認し合う場となった。また、この活動を通して感じたことや考えたこと、学んだことを児童の皆さんと伝え合い、次にできることに思いを馳せた。



Y.S.C.C. 横浜

寿地区 コラボ健康講座 1/2

1986年のクラブ創立以降、「地域はファミリー！」のクラブ理念のもと、ホームタウンである横浜市中区を中心に様々な地域貢献活動を行ってきました。Y.S.C.C.では寿町の各種団体と協力をし「Y.S.C.C.元気プロジェクト」を立ち上げ、街の特性に起因する社会課題の解決に向けて「スポーツの力で全ての人の心と身体を元気に！」「地域はファミリー！」をテーマに「健康体操」「食育・栄養」「睡眠」「口腔予防」「体の痛み予防」など老若男女、年齢や性別を問わずどなたでも参加できる内容で活動を実施しています。Y.S.C.C.では、すべての人々に元気を与え続ける事が目標です。



活動場所 寿町健康福祉交流センター/吉浜町公園



協働者

企業、病院、公益財団法人

協働者名

公益財団法人寿町健康福祉交流協会、亀田病院、Bettersleep、伊藤園



協働者の声

寿町健康福祉交流センター／出口 淳一 氏



地元プロサッカーチームY.S.C.C.、寿地区作業所交流会、横浜市寿町健康福祉交流協会でスタジアムで販売するグッズ作りプロジェクトを行いました。地元の障がい者事業所、作業所にデザイン等を発注して賃金が発生する仕組みを作りました。グッズ作りを行う事で障がい者の方々が社会参加に繋がりました。我々にとってY.S.C.C.が欠かせない存在になりました。

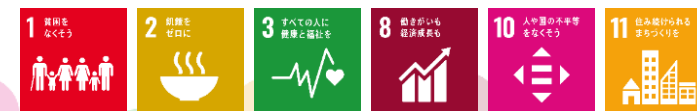


活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





Y.S.C.C. 横浜

寿地区 コラボ健康講座 2/2

Story

横浜市中区にある寿町健康福祉交流センターとは今まで寿町で活動されている高齢者・障害者の方々に健康をテーマに様々な講座を年間を通して行ってきました。

活動の中で、試合観戦や運営ボランティアにも参加してくれる方が増え、クラブを様々な形で応援したいという声が多くなってきました。

そうした活動の中、事業所の方々からクラブグッズを作りたいという相談を受け、2023シーズンは缶バッジやお菓子など様々なグッズを作成し、販売しました。

まず事業所の方で作成できるアイテムを選定してもらい、その中でクラブグッズとして販売出来そうな物を選びました。



次に写真データやロゴデータなどをクラブから提供し、ある程度のイメージを伝え、事業所にて作画などをしてもらい、缶バッジやシールなど事業所で行える事は作成もしてもらいました。

(一部出来ない物は外部へ依頼)

商品の方はクオリティも高く、スタジアムで販売した際は好評で、第2、第3段と継続して販売した物もありました。そうした中で作業に携わってくれた事業所の方々もスタジアムでのサポーターが選ぶ風景・購入する風景・喜ぶ風景など多くを見てもらい、さらに創作意欲を高めてくれました。

また賃金が発生する仕組みを作り、事業所の方々の社会参加の一つになるようにしました。

今後も地域の課題に対し、地域の方々と協力しあいひとつでも多く課題をクリアし、誰一人取り残さない社会の実現に取り組んで行きたいと思えます。





湘南ベルマーレ

みんなの「たのしめてるか。」 1/2

みんなの「たのしめてるか。」

この「みんな」の中には、障がいの有無に関係なく、老若男女どなたでも参加することができ、参加したみんなが楽しめるという意味が含まれています。

このイベントを通して共生社会の実現を目指し、みんなの「たのしめてるか。」を発見するきっかけづくりとなるようベルマーレが地域のハブとなって多くの方を巻き込みながら、様々なイベントを11月11日(土)J1リーグホームゲームにて開催しました。



活動場所 平塚市総合公園ひらつかのはらっぱ



協働者

企業、学校、NPO、ファン・サポーター、民間団体、一般社団法人

協働者名

INCLUSIVE HUB SHONAN、株式会社 HANDICAP CLOUD、世界の医療団、SUP LEAGUE JAPAN、Deaf Community、株式会社 湘南ジャーナル社、株式会社 神奈中スポーツデザイン



協働者の声

株式会社HANDICAP CLOUD
経営管理本部 広報・人事・秘書 マネージャー / 齋藤 香織 氏



障がいの有無に関係なく老若男女誰でも楽しめるイベントの実現を目指している湘南ベルマーレ様に共感し、参画をしました。当社従業員を含め、世界の医療団様や平塚市内特別支援学校様などと共に、ご来場いただいた子どもからお年寄りまで多くの方々の笑顔に出会えた素敵な1日でした。



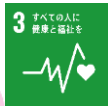
活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





湘南ベルマーレ

みんなの「たのしめてるか。」 2/2

Story

湘南ベルマーレはスローガンに「たのしめてるか。」を掲げ、「夢づくり 人づくり」をクラブミッションとして、人生と地域を豊かにするスポーツ文化が根ざしている世の中を目指しています。そのため、クラブのコーチが小学校の体育の授業を行う「小学校体育巡回授業」や、さまざまなスポーツ教室や大会を開催するなど、ホームタウンの方が「たのしめてるか。」を体験する瞬間を作るたくさんの活動を行ってきました。

しかし、クラブが目指す豊かな地域に決して欠かすことのできない共生社会の推進には、まだ取り組むことができていませんでした。



2023年、湘南ベルマーレはホームスタジアムが所在する平塚市の特別支援学校4校の課題に地域として向き合うため、企業や団体・自治体などのあらゆる組織を繋ぐ地域のハブとして「INCLUSIVE HUB SHONAN」に参画し、活動を始めました。

みんなの「たのしめてるか。」はクラブが中心となったイベントで、障がいの有無に関係なく老若男女誰もが参加でき、参加したみんなが夢中になる「たのしめてるか。」という瞬間を発見するきっかけ作りを目指して開催されました。

蹴る・投げる・走るなど、スポーツの動きを体験する「チャレンジラリー」や、その場に集まったメンバーでみんなが安心して楽しめるルールを考えてプレーする「ボードレスフットボール」といったクラブのノウハウを活かした内容の他、地域で手話の普及活動を行うDeaf Communityによる手話体験コーナー、世界の医療団による妊婦体験、平塚市内の特別支援学校によるブースなどが出展。さまざまな方がそれぞれの得意を持って集まり、みんなが共にたのしむ場となりました。



クラブだけでは大きなチカラはありませんが、クラブにはここまで一緒に歩み、支えていただいたたくさんのサポーター・地域の皆さん、パートナーの方々がいます。その皆さんと共に学び、同じ想いを抱き、行動に移すことができればこの地域はもっと優しくみんなが住みやすい地域になるはずです。

この地域、そしてみんなの「たのしめてるか。」の実現ために。



SC相模原

さがみはら環境まつり 1/2

市民、事業者、学校、市の産官学民協働により開催の環境イベント「さがみはら環境まつり」は今回で19回目。SC相模原は、お誘いいただき実行委員会のメンバーに加わりました。このまつりを通して、SC相模原は、相模原市の「さがみはら津久井産材利用拡大協議会」の皆さんとつながることができ「つくいのき」を取り巻く状況を知ることが出来ました。SC相模原は、これから中山間地域の里山や森林にてファン・サポーターを巻き込んだ新たな取り組みを開始していく予定ですが、「環境まつり」はまさにそのプロローグなのです。



活動場所 相模大野「ユニコムプラザさがみはら」と「ポーノ広場」



協働者

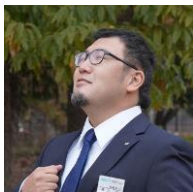
行政、企業、住民、学校、学生、NPO、協議会、民間団体、商工会、飲食店、農家、農業団体、一般社団法人、ボランティア、公益財団法人、公益社団法人

協働者名

さがみはら環境まつり実行委員会、相模原市、相模原市教育委員会、相模原市自治会連合会、相模原市PTA連絡協議会、相模原商工会議所、(公社)相模原青年会議所、(公社)相模原・町田大学地域コンソーシアム、さがみはら地球温暖化対策協議会、さがみはら津久井産材利用拡大協議会、青山学院大学社会情報学部、東京家政学院大学生活デザイン学科、日産自動車株式会社など



協働者の声 さがみはら環境まつり実行委員会実行委員長／梶山 純 氏



さがみはら環境まつりは、市民の環境意識の啓発とともに、市民が環境活動に参画する為のプラットフォームとなることが目的であります。今回、SC相模原が、実行委員会への参画を通して環境団体と協働し、ホーム試合にブース出展することに繋がったことは、環境まつりの役割が機能していることを実感でき、嬉しく思います。



活動詳細情報

- 1 [PRTIMES](#)
- 2 [エコパークさがみはらHP](#)
- 3 [さがみはら環境まつり実行委員会X](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





SC相模原

さがみはら環境まつり 2/2

Story

■「森を守るために木を伐っちゃダメ！」はちがう。

SC相模原は実行委員として「つくいのき」ゾーン統括を担いました。来場者が楽しく「木」に触れ学べる多種多様なワークショップを集めたゾーンです。「さがみはら津久井産材利用拡大協議会」はカンナ削り体験やチェーンソーアートショーなどを、青山学院大学社会情報学部学生は「木製パズル(一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所と共同制作)」や「木製コンポスト」などで、来場者へ木材利用についてレクチャーを実施しました。

「森林に対し勘違いしていることもあるので大変学びになった」というアンケート回答が集まりました。



■社会の授業で見た熱帯雨林の木々が伐採される写真から、多くの方は「木を伐るのはいけない」と考えますが…

令和元年東日本台風にて緑区中山間地域の津久井地域では8名の死者、多くの土砂災害、建物全壊・浸水の被害が発生しました。

土砂災害の一因として「手入れが行き届いていない森林」が挙げられていることは、知られていません。森は、間伐や下草刈りなどの「手入れ」をしないといけないのです。

木は正しく伐るべきで、伐った木を材としてどんどん利用すべきだ、また、伐ったら植林を行うことが大切ということを来場者に伝えることができました。

今回つながった縁から、SC相模原ホーム最終戦にて、「つくいのきゾーン」を再現し、来場者に向けて木材利用の重要性を伝えてもらいました。

「つくいのき」を守る林業関係事業者は、市の事業で街路樹や公園、森の間伐材を利用し学習机の天板を交換する事業を行ったり、木育の授業をしたり、里山の手入れをし森遊びの場の提供をしています。市は中山間地域の課題やニーズを伝える「里山体験講座」を開催しており、SC相模原もその講座に参加



し学びました。

講座で体験し学んだことを、今度は、多くのファン・サポーター、街の人々に伝える事が、SC相模原の役割だと考えています。クラブが事業の手伝いをする事で「つくいのき」の発信の一助になると信じ、緑区中山間地域のコミュニティを活かしファン・サポーターが現地に足を運ぶ動機づくりを担います。



ヴァンフォーレ甲府

『ヴァンフォーレ×やまなし』のさらなる可能性 ～サッカー大会に新たな付加価値を～ 1/2

～『ヴァンフォーレ×やまなし』に新たな可能性を～
 「閑散期の山中湖村をヴァンフォーレと盛り上げたい！」
 「全国約25%の街に書店が無い。ヴァンフォーレと読書推進を！」

2つの地域課題をクラブが掛け合わせ、ホームタウン自治体・地域団体・企業をConnect。地域への経済効果、子どもたちへの教育を目的に実施しました。関わる全ての人で生み出した新たな可能性。幸福な地域づくりの実現、そしてフットボールクラブを超えた存在になる為、これからもクラブは活動を続けます。

活動場所 山中湖村交流プラザきらら

協働者 | **協働者名**

行政、企業、住民、民間団体、飲食店、大会に参加した4種チーム

株式会社トーハン、山中湖平野旅館民宿組合、山中湖村、山中湖村教育委員会、山中湖村観光協会、株式会社ミズノスポーツサービス、株式会社デジタルディビジョン、ファイヤーサイド株式会社、大会に参加した4種チーム、当日出店した飲食ブースの飲食業の方々、当日選手が宿泊した宿泊施設の方々

協働者の声 株式会社トーハン／朝岡 功貴 氏



相次ぐ書店の閉店により、街に書店が無いという状況が増えています。本の卸会社である弊社は、そうした地域に「本を届けたい」という想いを抱いているなかで、ヴァンフォーレ甲府様より、当イベントのアイデアをご提案いただき、実現に繋がりました。参加者の方々の喜ぶ顔を見ることができ、「スポーツ×地域×文化」という新たな可能性を実感しました。



活動詳細情報

- [1 公式サイト](#)
- [2 トーハン公式HP](#)
- [3 FIRESIDE公式Youtube](#)
- [4 ヴァンフォーレシャレン+SDGs公式X](#)
- [5 FIRESIDE公式X](#)

SDGs | **カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





ヴァンフォーレ甲府

『ヴァンフォーレ×やまなし』のさらなる可能性 ～サッカー大会に新たな付加価値を～ 2/2

Story

◇閑散期の山中湖村をヴァンフォーレと盛り上げたい

2017年2月、山中湖平野旅館民宿組合の方からクラブに1本で電話が。県内有数の観光地である「山中湖村」。6月が閑散期となり、宿泊業を営む方たちは頭を悩ませているとのことでした。その電話以降、打ち合わせを重ね、クラブと山中湖村、山中湖平野旅館民宿組合を中心に、小学3年生以下を対象とした「Vent+スクールCUP in 山中湖 U-9」を開催。村内施設「交流プラザきらら」のピッチを試合会場とし、県内外から毎年約200名の選手が参加。宿泊先を組合が斡旋し、約150名の選手・スタッフの方々が地域の旅館や民宿に宿泊。



クラブが大会を主催し、地域に微力ではありながら経済効果をもたらす。閑散期に小さな可能性を見出すことが出来ました。

◇全国約25%の街に書店が無い。ヴァンフォーレと読書推進を

2023年2月、株式会社トーハンよりクラブに1通のメールが。株式会社トーハンは出版取次や物流などを行う業界大手。書店の無い地域に本を届ける方法や読書推進の方法を模索している中で、クラブのシャレン活動に着目。山中湖村も書店が無い地域であり、クラブより山中湖村を紹介。3社で打ち合わせを行う中で、クラブが行う「教育」を核とした「Vent+実育山梨」の活動に共感していただき、「Vent+スクールCUP in 山中湖 U-9」に読書やトーハンが持っているアクティビティ要素をプラスした「教育」的観点を盛り込むことに。4回目を迎える大会自体をブラッシュアップすることにしました。

◇サッカー大会に新たな付加価値を

大会当日、ピッチ近くの広場に「LAKE YAMANAKA FESTIVAL」と題し、移動本屋をオープン。読書スペースを確保し、子どものほか、保護者も子どもが試合をしていない時間帯に本屋を



訪問。また、薪割りと焚火を体験出来るスペースも用意。山中湖・富士山を背景に、大人から子どもへ、子どもから大人へ。参加者みんなで取り組む読書・アクティビティに、大会の新たな可能性を見出すことが出来ました。

次年度に向けて会場内の導線や、試合時間とアクティビティの調整、告知方法など課題は山積み。

しかし、今まで少しずつ積み上げてきたものが、また新たな可能性となり、地域に蓄積され、財産になる日が来るまで。

「ヴァンフォーレ甲府は、人々をつなぎ幸福をもたらす存在になりたい」



松本山雅FC

みんなでつくろう「ゼロカーボンチャレンジマッチ」 1/2

松本山雅FCのホームゲームでは、平均約6,500キログラムのCO2が発生しています。1本の木が1年にCO2を取り込める量は約14キログラム。ホームゲームを開催するたびに、約460本の木を植えないとCO2排出量をゼロにすることはできない計算となります。

2023/6/17(土)のホームゲームを、「ゼロカーボンチャレンジマッチ」と題して、1試合のホームゲームにて発生するCO2排出量と、それまでにみんなで取り組んだ様々なエコ活動によるCO2削減量を相殺し、いかに0に近づけるか。地域の皆さん、ファン・サポーターのみなさんと一緒にチャレンジしました。



活動場所 ホームゲーム会場、ホームタウン活動先、ファン・サポーターの皆さまの日々の生活



協働者

企業、住民、NPO、ファン・サポーター、民間団体

協働者名

軽井沢ハルニレ・グリーン・クラブ(NPO法人 織り成す軽井沢)、株式会社DATAFLUCT、地域住民、ファン・サポーター、NPO法人はぐまつ



協働者の声

軽井沢ハルニレ・グリーン・クラブ／大野 和彦 氏
(NPO法人 織り成す軽井沢)



環境の取組みは、一人一人ではアクションを起こしにくいという課題があり、山雅ファンの「チーム愛」と「一体感」で取り組めたら大きなムーブメントが起せるのでは！？と企画しました。ファンや地域の方々の積極的な関わりとスタジアム内外のエコ活動により6/17の試合でゼロカーボンを達成！目頭が熱くなりました！



活動詳細情報

- 1 [shinshu good talk HP①](#)
- 2 [shinshu good talk HP②](#)
- 3 [公式サイト](#)
- 4 [公式Youtube](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





松本山雅FC

みんなでつくろう「ゼロカーボンチャレンジマッチ」 2/2

Story

松本山雅FCでは毎試合、ゴミの排出や燃料の使用などにより、平均で約6,500キログラムのCO2が発生しています。この数字は、1本の木が1年にCO2を取り込める量が約14キログラムと言われているため、ホームゲームを開催するたびに約460本の木を植えないと削減することができない量となります。

サッカークラブとして避けては通れないこうした問題に、松本山雅FCだけではなく、地域の皆さんやファン・サポーターの皆さんにも目を向けていただき、一緒に環境やエコについて考え、取り組み、広めていくために、2022シーズンに「good with YAMAGA」という企画を立ち上げ、取り組みをスタートさせました。

「good with YAMAGA」とは地域の皆さん、ファン・サポーターの皆さんから、環境やエコに優しい活動・アイデアを募集し、投票/採択された活動・アイデアをクラブがサポートして一緒に取り組む企画です。

採択されたのは、「good with YAMAGA マイボトルプロジェクト」「駅近でなくてもシャトルが使える！プロジェクト」「耐水性・耐久性の高い松本山雅グッズ活用プロジェクト」の3つ。この3つを中心として、みんなで取り組んでいる様々なエコ活動によるCO2削減量を1試合のホームゲームにて発生する排出量と相殺し、CO2の排出量を実質ゼロに近づけるチャレンジマッチ達成を目指しました。

行政や企業、市民活動団体等にもご協力いただき迎えた、ゼロカーボンチャレンジマッチ当日。プロジェクト起案者の方々の表彰セレモニーの他、「サッカー×松本×水」トークショー、good with YAMAGAバスの運行、おさがり絵本のおあずかり会など、環境・エコに関するイベントや取り組みを実施しました。

結果、削減できた量は16,192キログラム。一つの大きな目標を地域の皆さんと一緒に達成することができました。



今後さらに「地域を良くする」こと、またこれからも「愛される」「親しまれる」「応援される」クラブになることを目指し、地域の皆さん、ファン・サポーターの皆さんと共に環境やエコに優しい活動を続けていきます。





AC長野パルセイロ

NAGANOを元気に！～パルセイロあいさつ運動～ 1/2

皆さん日頃から元気にあいさつはできていますか？
 「信州あいさつ運動」は、「大人から子どもへあいさつをすることで、子どもたちを元気づけ、地域ぐるみで子どもの育ちを応援する」運動です。
 そんな素敵な活動に、昨年からAC長野パルセイロも参加させていただいています。昨年は計4回、選手が小学校に行き、あいさつ、ハイタッチで子供たちとコミュニケーションを取りました。選手から子どもたちにパワーを送ると、子どもたちからも元気をもらえます。



活動場所 長野市立篠ノ井東小学校、長野市立篠井西小学校、長野市立通明小学校



協働者

学校、民間団体、商工会、選手

協働者名

長野篠ノ井ライオンズクラブ、各小学校



協働者の声 長野篠ノ井ライオンズクラブ 会長／久保田 貴律 氏



私たちの活動地域が、パルセイロのホームスタジアムの近くの地域ということもあり、選手が来ると子どもたちがすごく喜んでくれるので、さすがだなと思っています。
 今後もパルセイロと共に、あいさつを通じて、地域を明るく、元気にしていきたいと思っています。



活動詳細情報

1

[公式X](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





AC長野パルセイロ

NAGANOを元気に！～パルセイロあいさつ運動～ 2/2

Story

「信州あいさつ運動」は、家庭や地域でお互いにあいさつをすることにより、皆がつながり、地域を元気にして、地域ぐるみで子どもの育ちを応援しようと平成26年4月からスタートしました。

少子高齢化、核家族化、情報化の進展等に伴って人と人とのつながりが希薄になったことは、社会の安心・安全が損なわれる要因ともなっています。また、自分に自信が持てず、自己肯定感が低く、元気のない子どもが増えています。

そういった社会背景から、「まずは家庭から、まずは大人から子どもへあいさつをする。無理をせず、できる地域で、できる人で、できるやり方で」を基本方針に、信州あいさつ運動を展開しています。



スポンサー様との雑談の中でこの活動を知り、長野篠ノ井ライオンズクラブ(以下「ライオンズクラブ」と称する)の方をご紹介いただいたことがきっかけで、昨年7月から活動を開始しました。ライオンズクラブのメンバーの方が、クラブの地域活動に対する姿勢を見て、以前からパルセイロと一緒に活動をしたいと言っていたこともあり、すぐに活動を始めることができました。

ライオンズクラブでは毎月11日を「信州あいさつの日」として制定し、篠ノ井地区の3つの小学校を順番に回っています。パルセイロは2023年7月、9月、10月、11月の計4回参加させていただきました。朝7時30分～8時10分まで、各小学校の校門前で活動しました。選手とハイタッチをして笑顔で学校に入っていく子、朝運動の前にボールを持って校門まで選手を誘いに来てくれた子など、子供たちと関わることで、選手たちもさらに元気いっぱい。また別の日には、「この前小学校に来てくれた選手だ！」と声をかけてくれた子どもたちも。そんな姿を見て、地域の皆さんとのコミュニケーションは、とても大事なことだと改めて感じました。



パルセイロの選手が、子どもたちの憧れの存在になるために。パルセイロというクラブが、地域の皆様から愛される存在になるために。AC長野パルセイロは、今後も地域を愛し、地域と共にNAGANOを元気にするために、この活動を続けていきます。



アルビレックス新潟

選手が発案し、クラブが伴走してつくる社会貢献活動“ニイガタガミカタ”プロジェクト 1/2

田上大地選手発案による社会貢献活動“ニイガタガミカタ”プロジェクトは、新潟の子どもたちが夢や目標を持って、情熱を持って自分の道を歩めるよう、ひとり親世帯、児童養護施設を対象にした継続的な支援活動を行うものです。子どもたちが生活している新潟が「味方」という文字通りの意味だけでなく、田上選手の名前(タガミ)を入れて「子どもたちに寄り添いたい」という想いをプロジェクト名で表現しました。田上選手が新潟を離れることがあっても、発案者の温かい想いを残し、活動を続けていくという決意も込めています。



活動場所 デンカビッグスワンススタジアム、道の駅たがみ、新潟県若草寮



協働者

行政、企業、民間団体、選手、農家、一般社団法人、児童養護施設

協働者名

新潟県、田上町、道の駅たがみ、生活協同組合コープデリにいがた、株式会社ドコモCS新潟支店、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、有限会社寺嶋旗幕染工場、新潟県フードバンク連絡協議会、田上大地選手、農家、一般社団法人新潟県母子寡婦福祉連合会、新潟県若草寮



協働者の声

田上町 田上町町長／佐野 恒雄 氏



2022年10月にフードドライブに取り組み始め、時を同じくして田上大地選手に観光大使に就任いただきました。この活動を通じて田上町、アルビレックス新潟、サポーター、コープデリにいがた、そして、活動に賛同する方々と繋がり、支援の輪の広がりを感じます。今後も支援の輪、繋がりの輪が大きく広がることを期待します。



活動詳細情報

活動詳細情報

- 1 [公式Youtube](#)
- 2 [公式サイト①](#)
- 3 [公式サイト②](#)
- 4 [公式サイト③](#)
- 5 [公式サイト④](#)
- 6 [公式サイト⑤](#)
- 7 [公式サイト⑥](#)
- 8 [公式サイト⑦](#)
- 9 [公式サイト⑧](#)
- 10 [公式サイト⑨](#)
- 11 [公式サイト⑩](#)
- 12 [READYFOR](#)
- 13 [公式サイト⑪](#)
- 14 [公式サイト⑫](#)
- 15 [田上町HP](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





アルビレックス新潟

選手が発案し、クラブが伴走してつくる社会貢献活動“ニイガタガミカタ”プロジェクト 2/2

Story

「選手として、新潟の皆さんのために行動したい」と考えていた田上大地選手(2020~2023シーズン在籍、2024シーズンよりファジアーノ岡山に移籍)は、中学1年生のときにお父さまを亡くし、ひとり親家庭で育った経験を持っています。自身と同じ境遇の子どもたちや保護者の皆さんに寄り添いたいという想いと、自身の構想を詰め込んだプレゼンテーション資料を携えて、2022シーズンのチーム始動日当日、クラブに相談してきました。活動内容を検討するために実施したアンケートの回答数は、508件。すべてに目を通し、回答者の方にオンラインでヒアリングを実施して実態に即した情報をいただき、慎重に検討を進めた結果、フードドライブ、児童養護施設訪問、ホームゲーム招待の3つ



の活動を行う“ニイガタガミカタ”プロジェクトを2022年5月に立ち上げました。継続を念頭に、まずはできることから取り組んだ1年目を経て、2年目を迎えるときには、活動の趣旨にご賛同いただく仲間が増えていました。フードドライブでは、年間の寄付総重量5,000kgを目指して、パートナー企業の生活協同組合コープデリにいがた、ホームタウン田上町と一緒に取り組むことに。また、「選手が主体的に取り組む社会貢献活動を後押ししたい」というパートナー企業の株式会社ドコモCS新潟支店、有限会社寺嶋旗幕染工場のご協力で、往復バスでの送迎やゲーフラづくりなどのアクティビティを用意した親子バスツアーを実施。11月11日(土)FC東京戦で実施した4回目となるツアーでは、初めて参加した親子一人ひとりと田上選手が交流の機会を持つことができました。ひとり親家庭の子どもたちに種植え、収穫、自分の育てた野菜を食べるまでの体験を提供したいという構想があった田上選手は、2023年3月から農業にも挑戦。構想を実現するためのステップとして、自分が育てた野菜を販売し、その売上をひとり親家庭等の子どもたちへクリスマスケーキをお届けする「あしながサンタX'masプロジェクト」に全額寄付することに。8月に4回販売した野菜は一度も売れ残ることがなく、総額24,520円を寄付。田上選手、



クラブの発信をきっかけに、ファン・サポーターの皆様からも多くの寄付が寄せられ、5,685,000円のご支援を最終的にいただくことができました。残念ながら、田上選手は2023シーズンを以て新潟を離れることになりました。チーム活動が終了した後、12月10日(日)に田上町を訪問し、プロジェクトでお世話になった関係者の皆様へのご挨拶に加え、野菜販売とフードドライブを実施。田上選手が参加したフードドライブには、約120名の方々からご協力をいただき、この日だけで305kgの食料品・日用品等の寄付をいただきました。“ニイガタガミカタ”に込めた田上選手の想いといただいたご縁を大切に、アルビレックス新潟は、今後も活動を継続していく予定です。



カタレ富山

“GREENプロジェクト”衣類回収で循環型リサイクル！ 1/2

株式会社ゴールドウイン様と地域の人々と一緒になって環境を改善するアクション「GREENプロジェクト」。私たちが暮らす上で欠かせない、衣類。ホームゲーム会場でサポーターの皆さんから不要になった衣類を回収。2シーズン累計で2195kgの衣類を回収しました。傷んだけれどまだ着られる。購入したけれど着る機会がない。大切な衣類の廃棄を減らし資源として循環させることにより、環境負荷の低減、サステナブルな社会作りを目指します。2024シーズン、カタレ富山では環境配慮素材をユニフォームに初めて採用しました。



活動場所 富山県総合運動公園陸上競技場



協働者

企業、ファン・サポーター、スタジアム

協働者名

株式会社ゴールドウイン、河田フェザー株式会社、長谷虎紡績株式会社、株式会社ファーブスト



協働者の声

株式会社ゴールドウインESG経営推進室共生社会推進チーム/背渡 孝文 氏



ゴールドウイン創業の地である富山県で活動しているカタレ富山。08年からはユニフォーム製作も行い、富山におけるスポーツ振興や循環型社会の実現にむけて今後も共に歩んでいきたいパートナーです。



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





カターレ富山

“GREENプロジェクト”衣類回収で循環型リサイクル！ 2/2

Story

世界では毎年9,200万トン、日本でも年間約50万トンもの衣類が廃棄されています。日本ではそのうち約95%が焼却・埋め立て処分になっています。

2022年3月、株式会社ゴールドウイン様と地域の人々と一緒に環境を改善するアクション「GREENプロジェクト」を始動しました。循環型社会構築にむけて、ホームゲーム会場での衣類回収を行ったり、製品の製造工程で発生した端切れや余剰生地を使ったモノづくりワークショップを開催するなどの取り組みをしています。



衣類回収では、ホームゲーム会場で不要になった衣類の回収を呼びかけ、サポーターの皆さんから回収を行っています。回収した服のうち、まだ着られるものは再利用に回し、ポリエステルやナイロン製のものは、高純度の原料に戻すケミカルリサイクルを行い新たな製品の原料にし、ダウンウエアは新たなダウン製品の原料とするなど、持続可能な資源へ転換することで環境負荷の低減を目指します。

初年度2022年は1103.9kgの不要衣類を回収しました。2年目の2023年も1091.1kgと前年並みの衣類回収ができ、活動がサポーターの皆さんへ認知され、定着してきたことを感じました。衣類回収スタッフとサポーターとの会話も増加しています。さらに、2023年は衣類回収に加えて不要になった羽毛布団の回収も2試合で実施、2枚の布団を回収しました。

2024シーズンには、カターレ富山として初めて環境配慮素材をユニフォームに採用し、循環型社会の実現に向けて歩みを進めています。





ツエーゲン金沢

「視覚障害者と共に楽しむ」～新たなスポーツ観戦の価値～ 1/2

視覚障害の方と共に観戦を楽しむ「Future Challenge Project」は2021年からスタートし、昨年で3年目。
 昨年は、本プロジェクトの目的である「障害のあるなしに関わらず共に暮らし続けられる街」の具体化を進めるため、全盲のアーティストのゲスト出演や、パラスポーツ体験イベント、hummelによる「点字シャツ」の販売、そして晴眼者と視覚障害者によるフェアプレーフラッグ掲出を新たに実施。
 「視覚障害の方と共に楽しめる」スタジアムの空間を主催者、視覚障害の方、来場者全体で共創することができた。



活動場所 石川県西部緑地公園陸上競技場



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、NPO、ファン・サポーター、民間団体、社会福祉法人

協働者名

【主催】Future Challenge Project実行委員会(「あうわ」視覚障害者の働くを考える会/金沢市市民活動サポートセンター/金沢星稷大学 スポーツ学科地域スポーツマネジメント研究室・新谷研究室/ツエーゲン金沢サポーター/ツエーゲン金沢BFC / ツエーゲン金沢)
 【後援】石川県/社会福祉法人石川県視覚障害者協会/金沢市/株式会社北國新聞社
 【協力】株式会社アイ・オー・データ機器/NPO法人石川バリアフリーツアアセンター/金城大学/ブラインド・ガイドRUNサークル「あいりす」/北陸放送株式会社



協働者の声

金沢星稷大学
 スポーツ学科地域スポーツマネジメント研究室 教授 /西村 貴之 氏



活動初年度から参画し、今回3回目となりました。「視覚障害者を晴眼者がサポートする」ではなく、「視覚障害者と晴眼者が共に楽しむ」というコンセプトが深く根付いてきています。みんなで一緒に楽しむことが、自然と障害に対する相互理解につながっていく「スポーツならではの」取り組みだと実感しています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [hummel公式HP](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ツエーゲン金沢

「視覚障害者と共に楽しむ」～新たなスポーツ観戦の価値～ 2/2

Story

【「共創」プロジェクト】

「障害のあるなしに関わらず共に暮らし続けられる街づくり」を目的として、2021年からスタートした本プロジェクト。

クラブ単独でなく、サポーター有志や地元の大学、各種企業・団体、視覚障害当事者団体の皆様と実行委員会を組んで「視覚障害の方と共に観戦を楽しむ」ことを合言葉に進めてきました。

【「共に楽しむ」の実現に向けて】

本プロジェクトでは、地元大学生の介添えによる視覚障害の方を対象とした観戦会をはじめ、実況解説の音声配信や視覚障害の体験・啓発ブース、啓発情報を掲載した応援ハリセンの配布など「障がいのあるなしに関わらず共に暮らし続けられる街づくり」の実現に向けて進めてきました。

3年目となる昨年は、より具体化させるための取り組みとして、盲目のシンガーソングライター・栗山龍太さんによるライブ・トークイベントを開催。さらに、サプライヤーのhummelが「点字シャツ」を販売し、トップチーム・BFC選手が着用して登場するなど、視覚障害にふれる機会が増えました。

【Jリーグ初！フェアプレーフラッグ掲出】

さらにJリーグ初の取り組みとして、晴眼者と視覚障害の方によるフェアプレーフラッグ掲出を行いました。

「対戦相手・審判へのリスペクト」の意が込められているフェアプレーフラッグを、晴眼者と視覚障害の方が一緒に掲げて入場することで、本プロジェクトの目的をアピールしました。



【共に楽しむ】

「目が見えない視覚障害の方が観戦を楽しめるのか」悩み考えながらスタートした本プロジェクトですが、主催者・視覚障害の方・来場者の皆さんで趣旨・目的を共有することで、晴眼の人も視覚障害の人も関係なく、思いっきり応援し共に観戦を楽しめるスタジアムの空間を創り出すことができています。このプロジェクトを今後も継続し、共に楽しむことが「当たり前」となる社会を目指していきます。





清水エスパルス

～エスパルスで学ぼう！学びを通して地域の若いチカラをクラブの活かに～ホームタウン高校コラボ企画 1/2

若年層のファン拡大はクラブの長年の課題。招待企画やSNS等の取組みを行っている中、「総合的な探究の時間」について実践的な学びの場を模索する地域の先生方の声を聞きました。新型コロナの影響でその場は更に限定されているとのこと。そこで地域創生という目標を教育現場と共有し、未来の創り手となる学生のためにエスパルスならではの学習機会を創出しました。学習を通じ生徒が『自分ごと』としてクラブに目を向けていくことで、結果的にそれがクラブの活力・ファンづくりにも繋がる…win-winの活動の輪を広げています。



活動場所 静岡市内高等学校、IAIスタジアム日本平、エスパルスドリームフィールド等



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、NPO、ファン・サポーター、スタジアム、飲食店、選手、ボランティア

協働者名

静岡市内高等学校15校(2017～2023)、静岡市、ファンティクス・ジャパン合同会社、株式会社KOU 他



協働者の声 静岡県立静岡商業高等学校／曲田 雄三 氏



一校で始めたコラボ企画が、今は清水エスパルスを軸に市内の多くの学校に広がって地域連携の拠点となりつつあります。連携事業が単なるイベントに終わらず継続的に連携することができ、教育効果の高いものとなっています。この先も、クラブを中心に他学校や企業同士の横の繋がりが更に広がっていくことを期待します。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)
- 5 [公式サイト⑤](#)
- 6 [公式サイト⑥](#)
- 7 [公式サイト⑦](#)
- 8 [公式サイト⑧](#)
- 9 [公式YouTube①](#)
- 10 [公式YouTube②](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





清水エスパルス

～エスパルスで学ぼう！ 学びを通して地域の若いチカラをクラブの活力に～ホームタウン高校コラボ企画 2/2

Story

本企画は2017年に静岡市立清水桜が丘高校との連携から始まり、2021年に2校を加え実施したところ、他校からの反響も大きく、2022年より市内全校へ募集案内し年間を通じて企画を行っています。

2023年には11校延べ約500名が参加。試合ボランティア体験、部活パフォーマンス披露、イベント取材、ウェルカムボード製作をはじめ、数回の授業を重ね生徒のアイデアを商品化するコラボグッズ/弁当企画等の実施、生徒のアイデアを選手が実演しTikTok Cupへエントリー、スクールコーチの監修で学生主体の運動教室を開催、クラブの環境事業に参画するなど、学校の要望を聞きながら全社横断



で取り組み、行政、企業、団体等の協働もあり、事後アンケートでは83%(2023)の参加校に満足いただきました。

実践的な学びの実現のみならず、その先にある生徒の学びの深まりについても近年成果を上げてきたと感じます。

参加校より「いつもとは違う形で生徒の思いを伝えることができた」「本校の授業方針と一致していた点良かった」「地域に貢献できる貴重な体験となった」という評価をいただき、また「本校生徒の多くは静岡に残ります。高校時代に地元チームと共に取り組んだ経験は、地元を愛し、クラブに興味を持ち、やがて家族と共にスタジアムを訪れることに繋がると思う」というお話も伺いました。これは本活動により、学校とクラブ間で同じ方向性をもって活動を進められていることによると考えられます。

若年層のファン拡大を図るクラブにとってもメリットは大きく、授業を通じてクラブに興味を持ちスタジアムに足を運びきっかけに繋がります。



実際、「企画を通してファンになり友人を誘い初観戦した。」「国立競技場にも観戦に行った。」との報告も受けました。

また、クラブの“困りごと”やシャレン活動を気軽に地域の学校へ相談できる関係が築けたことも本活動の大きな成果と感じています。企業も学校と繋がるきっかけとなり、クラブをハブに地域の輪が広がってきました。今後は双方の理解がより深まった目線で、未来の創り手を共に育てる連携を深めていきたいです。



ジュビロ磐田

茶産業と防災意識を育てたい！遠州お茶ぱんプロジェクト 1/2

日本一の緑茶生産量・消費量を誇る「茶の都しずおか」でも、緑茶生産量・消費量は近年減少傾向にあります。そんな県内茶産業を盛り上げるべく、昨年ジュビロ磐田のホームタウンとなった静岡県西部(=遠州)地域すべての緑茶を使用した、『遠州お茶ぱん』プロジェクトが立ち上がりました。緑茶にはテアニンと呼ばれる旨み成分が豊富に含まれています。このテアニンには気分を落ち着かせる効果があり、災害時の非常食としても役立つことが期待されます。気分が不安定な状況で、緑茶を摂取することでリラックスでき、同時に旨みも楽しむことができるでしょう。自然災害への備えに『遠州お茶ぱん』はいかがでしょう。

活動場所 静岡県西部地域

協働者 | **協働者名**

行政、企業、農家、農業団体

ChaOIフォーラム、静岡県経済産業部農業局お茶振興課、エスエスフード株式会社、御前崎市役所、菊川市役所、掛川市役所、袋井市役所、森町役場、磐田市役所、浜松市役所、湖西市役所、各市町茶生産農家・製造業者

Voice | **協働者の声** ChaOIフォーラム／福島 寛孝 氏



私は29年前に阪神・淡路大震災で被災しました。乾燥した非常食が多く、トイレの心配もあり水分は満足に取れませんでした。そんな避難所での経験が、この企画に携わるうえでの支えです。遠州お茶ぱんは、しっとりとして水分を取らずに食べることができます。美味しく、被災者の心にも寄り添い、防災とお茶の地域課題を解決することができる素晴らしい商品が誕生しました。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [菊川市公式HP](#)
- 3 [中日新聞](#)
- 4 [世界緑茶協会Facebook](#)
- 5 [ChaOIフォーラム公式HP](#)

SDGs | **カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





ジュビロ磐田

茶産業と防災意識を育てたい！遠州お茶ぱんプロジェクト 2/2

Story

■『遠州お茶ぱん』開発まで

「茶の都しずおか」と呼ばれる静岡県の緑茶生産量は、全国の4割を占めています。茶葉は癒し効果のあるテアニンを含んでおり、今回はこの効能に着目しました。

静岡県は、南海トラフ巨大地震等の巨大地震が来ると想定されています。被災時には食料をはじめ、多くの我慢を強いられます。非常食を食べる際に、お茶の癒し効果を用いて気分をやわらげていただくことを目的のひとつとしています。

そして、緑茶の生産は近年減少傾向にあり、担い手不足という問題にも直面しています。緑茶の消費量を高め、生産量も増やすため、ChaOIフォーラムが企画を考案。さまざまなリソースを持つ組織が手を

取り合い、『遠州お茶ぱん』を開発しました。

■ホームタウン全市町の緑茶を使用

ジュビロ磐田は、2023年5月にホームタウンを磐田市から静岡県西部地域の7市1町（御前崎市、菊川市、掛川市、袋井市、磐田市、浜松市、湖西市、森町）へ拡大しました。これを記念し、今回使用する緑茶も静岡県西部（＝遠州）地域の緑茶を使用することにこだわりました。

各市町に得意な緑茶の種類がある中で、今回使用する緑茶は統一する必要があることから、各市町茶担当課には、緑茶生産者の推薦をお願いし、商品開発に尽力いただきました。（湖西市は茶園がないため、市内事業所で製造された緑茶を使用）

【写真：開発メンバー+各市町茶担当課】

これまで静岡県西部地域は、多数ある有名な茶産地がそれぞれ単独でPRしていました。力を合わせてひとつの商品を作ることは珍しく、ジュビロと茶産地・静岡県が連携して地域課題の解決のために一体となったこの取り組みは、注目を集め、課題解決以上の効果が期待できると考えています。

■ジュビロ磐田の地産地消応援プロジェクト

ジュビロ磐田は2022年10月、地元の特産物を利用していることを表現し遠州地域の魅力を県内外



に発信するとともに、認知向上と利用拡大を図ることを目的とし、ロゴマークを作成しました。今回の『遠州お茶ぱん』の缶にもそのロゴマークを記載し、「遠州産」であることをアピールしています。

■今後の展望

今回は、2024シーズンユニフォーム3次予約までにご予約いただいた方全員にプレゼントグッズショップでも販売するなど、クラブのファン・サポーターやホームタウン地域をメインターゲットに、防災意識の向上に取り組みました。

今後は自治体や企業等の防災備蓄品として使用いただけるよう、保存年数にこだわり成長を続けてまいります。





藤枝MYFC

MYFC ふっとさる かつぱ 1/2

外国人の地域生活は、とても大きな課題です。
 藤枝MYFCとして、2022年より本大会をスタートしました。
 今年で2年目を迎え、昨年から新たに6チーム増え計12チームで大会を実施しました。年々参加企業、参加人数、対象エリアを拡大し様々な人に「MYFC ふっとさる かつぱ」を知ってもらい多文化共生社会を作り上げていきたいと考えております。



活動場所 焼津市、吉田町



協働者

行政、企業

協働者名

山福水産株式会社、焼津冷蔵株式会社、FPKナカタケ株式会社、株式会社南食品、株式会社南伸商、協同組合焼津水産加工センター、株式会社ヤマザキ、株式会社ユニデリ、タイセーサッシ工業株式会社、焼津市、焼津市国際友好協会、吉田町、吉田町国際交流協会



協働者の声 株式会社ヤマザキ 代表取締役会長／山崎 寛治 氏



わが社では、実習生の皆さんに仲間になって活躍いただいています。外国から日本に来て下さり、慣れない国での生活で、ストレスのたまりやすい皆さんの心を和ませるために参加した「MYFC ふっとさる かつぱ」はいかにも楽しい雰囲気を感しました。スポーツは彼らにとって「こころを安定させる」とてもいいきっかけになりました。社内の国境を低くするためにも、これからとても役に立つと期待しています。

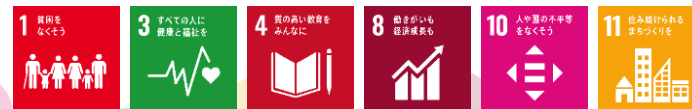


活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式YouTube](#)
- 3 [公式X](#)
- 4 [スポーツ報知](#)
- 5 [あなたの静岡新聞](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





藤枝MYFC

MYFC ふっとさる かつぷ 2/2

Story

2022年に焼津市の企業様と協働で、「やいづ ふっとさる かつぷ」を実施しました。2023年には焼津市からエリアを広げ吉田町の企業様にも参加いただき12チームが出場するまでになりました。

2023年は、順位の表彰だけではなく「コーレン賞」※応援が良かったチームに与えられる賞(ベトナム語で応援を意味します)

「シーマオ賞」※ユニフォームのデザインが良かったチームへ与えられる賞(中国語でおしゃれを意味します)

「サプライズ賞」※焼津市、吉田町、藤枝MYFCより与えられる賞、の3つの賞も新たに新設し、川根本町の企業様から本大会の趣旨に賛同いただき川根茶の贈呈もありました。



年々本大会の趣旨にご賛同いただける企業様、自治体が増えていることにクラブとしても大変うれしく思います。

今大会はAリーグ・Bリーグ(各6チーム)の総当たり戦を行った後、各リーグ1位から3位(計6チーム)4位から6位(計6チーム)にわかれ順位決定トーナメントを実施しました。

昨年より参加チームが増えたことは大変喜ばしいことですが、それ以上に自チーム応援する人が増えたことはうれしく思いました。

参加チームにアンケートを実施したところ、ご意見の中に

「初めて参加させていただきました。一日とても楽しくて、来年も開催を希望しています。

私は普段あまり外国人のかたと関わることはないのですが、今回のフットサルの試合を通じて、言葉をつかった会話以外のコミュニケーションを取ることができました。」や

「一生懸命プレーし、応援し、生き生きとした姿や笑顔がとても素敵で印象に残っています。」などコメントをいただくことができました。

自チームの選手が得点すれば、国籍、性別関係なく喜び合い応援している姿を見ると言語や文化、風習など違えどサッカーを通じて感情を共有できることは大変素晴らしい光景であったと思います。



少子高齢化が進み、人口が減っていく中で多文化共生は非常に重要なファクターになると思います。

「MYFC ふっとさる かつぷ」は、様々な人の協力がなければできません。

クラブが本大会の意義や地域に根差すことの重要性をしっかりと理解し、日本人と外国人が共に理解しあい、尊重でき地域価値を向上できるようチャレンジ！活動を実施していきます。



アスルクラロ沼津

皆様からの優しさをお届け！全力応援BOX 1/2

アスルクラロ沼津では指定のホームゲームにてサポーターや来場者からご自宅にある食品や日用品を募り、社会福祉法人沼津市社会福祉協議会を通してそれを必要な方々に届ける「全力応援BOX」を設置しています。
年間複数回設置しており、沼津市に住んでいるひとり親家庭や、災害等で困っている方々に届けられてきました。
食品が中心のフードドライブと異なり、日用品やおもちゃ、時には寝具など幅広いジャンルの物品を募っております。

活動場所 ホームゲーム会場

協働者 | **協働者名**

行政、企業、住民、協議会、ファン・サポーター

社会福祉法人沼津市社会福祉協議会

協働者の声 | **社会福祉法人沼津市社会福祉協議会／米山 世紀 氏**



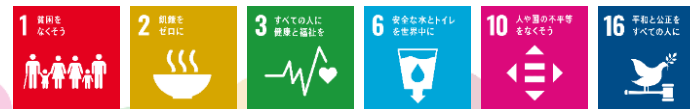
全力応援BOXの活動で集めていただいた食品や日用品は毎回本会を通じて生活に困っている方にお届けしています。
この活動は単にモノだけでなく「困った時はお互い様だから頑張ろうね！」という沼津のサポーター一人ひとりの思いも届けられていると思います。これからも長く続けていただきたい活動です。



活動詳細情報

1 [公式サイト](#)

SDGs | **カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ**





アスルクラロ沼津

皆様からの優しさをお届け！全力応援BOX 2/2

Story

「全力」という言葉はアスルクラロ沼津が長年大切にしてきた言葉であり、どんなことにも全力で取り組みたい、というクラブとしてのスローガンです。その「全力」を冠した全力応援BOX。ホームゲームにお越しいただく際に、ご自宅にある食品や日用品などをお持ちいただき、ブースに設置された箱に入れていただいたものをクラブが社会福祉法人沼津市社会福祉協議会を通して、必要な方に届ける活動です。

フードドライブ活動を行う団体が多い中、この全力応援BOXは食品に限らず、洗剤やトイレトーパーなどをはじめとした日用品だけでなく、タオルやおもちゃ、時に布団や毛布などの寝具など、幅広い



いジャンルのもを受け付けています。

また、この活動はサポーターの皆様だけでなく、パートナー企業様にも認知されており、企業様での出張設置や、設置日に観戦に行けないがどうしても寄贈したいとのことで、営業担当が受け取りに伺ったりと、クラブに関わるたくさんの方々によって支えられている活動です。

更に、選手からの協力も厚く、2023シーズンの最終節で集まった物品は徳永晃太郎選手によって社会福祉法人沼津市社会福祉協議会へと手渡されました。この日手渡した物品は、沼津市ひとり親会が開催したクリスマスパーティーにて、その日参加した71世帯へと届けられました。当日参加したお子様方も非常に喜んだようで、間違いなくこの活動に参加した皆様の「優しさ」が伝わりました。

また、2022年9月に発生した台風15号の際には、浸水や断水、土砂崩れなど甚大な被害が出た静岡県中部の為、全力応援BOXで集まった飲料水をはじめとした物品を届けるなど、地域の垣根を越えた活動となっております。



全力応援BOXは年間複数回、ホームゲームのブースにて設置を行なっています。この活動を通して、たくさんの方々が笑顔になるよう、更には地域全体で困っている方が一人でも少なくなるよう、引き続き取り組んでいきます。



名古屋グランパス

名古屋グランパスSDGsアカデミー2023『地産地消カレープロジェクト』 1/2

キャリア構築真ただ中の育成年代から、アスリートとして日ごろ支えていただいている地域の社会課題に向き合うマインドを醸成する企画「名古屋グランパスSDGsアカデミー」。企業やメディア、自治体等の様々なステークホルダーに参画いただき、多様な立場や世代を超えた共創を軸に取り組みました。今年には野菜の産出量が全国8位にもかかわらず、摂取量はほぼ最下位という愛知の課題に向けて農業体験から商品企画・販売までのすべてを実践。U-18選手が本気で作る地産地消のレトルトカレーが完成しました！その名も「野菜と俺ら。」

活動場所 名古屋グランパス クラブハウス、豊田スタジアム、なごのキャンパス等

協働者 **協働者名**

行政、企業、選手、農家、農業団体

【共催】テレビ愛知株式会社【共創パートナー】AZAPA株式会社、JAあいち経済連、株式会社 折兼【協力】愛知県、エース株式会社

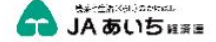
協働者の声 テレビ愛知株式会社／中西 諒平 氏



グランパスSDGsアカデミーに参画させて頂き、選手と様々な企業とで0から作りあげたカレーが、多くのサポーターの方々の共感を呼び、試合会場で完売となった瞬間の感動は忘れられません。放送局とプロスポーツチームがハブとなり地域の社会課題に取り組むことで、大きな推進力が生まれることを実感できました。



名古屋グランパス
SDGsアカデミー



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)
- 5 [公式サイト⑤](#)
- 6 [公式サイト⑥](#)
- 7 [公式サイト⑦](#)
- 8 [公式YouTube](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





名古屋グランパス

名古屋グランパスSDGsアカデミー2023『地産地消カレープロジェクト』 2/2

Story

◆U-18選手のキャリア感の醸成

キャリア構築真ただ中の育成年代にとって、アスリートとしてのピーク、その先まで見据えた一貫したキャリア感を養うことが大切です。一方で地域社会には様々な課題があります。U-18選手が、参画いただいた企業やメディア、自治体等の立場や世代の異なる多様な方々との共創を通して地域課題に向けた企画・実践する場が「名古屋グランパスSDGsアカデミー」です。

◆2023年のテーマは『地産地消』

愛知県は野菜の産出量が全国8位にもかかわらず、野菜の摂取量はほぼ最下位。採れた野菜の多くを県外へ輸送しており、フードマイレージの高い商品を生み出す構造になっています。CO2排出を抑え



るためにも地産地消が大切です。

そんな課題に向けて老若男女問わず人気のあるカレーに着目し、愛知県産の食材を使った地産地消レトルトカレーを作るプロジェクトがスタートしました。

◆多様な協働者とU-18選手の共創

プロジェクトの協働者は多様なメンバーが集まりました。共創パートナーとしてAZAPA株式会社(共創セッションの企画運営)、JAあいち経済連(農業体験・課題提供)、株式会社折兼(環境配慮食器提供)の3社、共催としてテレビ愛知(企画運営・番組製作)、協力として株式会社エース(カレー監修、店舗販売企画)、愛知県(農業講座運営)など、多くの方との共創を通して作り上げました。

◆課題認識～商品企画～販売計画～販売を完結

初回は愛知県のお米、野菜の美味しさの体験と愛知県産野菜のカレーランチを協働者の皆様と交流を通して体感し、農業課題を学びました。その後、カレーに使用する「美トマト」の収穫体験や、デザイナーを講師にパッケージデザインや商品名について協働者の皆さんとセッションを重ねて、地産地消カレー「野菜と俺ら。」が完成しました。

スタジアムではU-18選手が店頭立つ中でキッチンカー販売とレトルトを販売し、約1,000食を完売。北野エース店舗での試食・販売会でもU-18選手が商品の紹介をしながら約180個を販売しました。



購入した方からは「地元の食材のことを知って買ってみようと思いました。」や「選手が頑張っているので応援したくて買いました。」などの声をいただき、U-18の選手からは「これからは親や周りの人にも愛知県の食材を勧めていきたい。」や「プロになってもっと地元の活動のサポートをできる選手になりたいと思った。」などのコメントが聞かれました。

◆地域課題施策を持続可能な取り組みへ

本プロジェクトではカレー販売やパートナー協賛により500万円を超える収入を得ており、継続に向けた一助になっています。名古屋グランパスは地域の皆様とともに地域課題に取り組みながら若者のキャリア形成の場を継続的に創出してまいります。



FC岐阜

不毛な処分はもう不要！羽毛回収プロジェクト 1/2

FC岐阜は、オフィシャルパートナーである長谷虎グループ様とSDGs活動の一環として羽毛製品の回収、リサイクルを行っております。ダウンジャケットや羽毛布団などの不要になった羽毛製品を回収し、最新の技術で洗浄、再度羽毛を使用できる状態にします。

地域課題を解決することを目的とした本プロジェクトでは、ホームゲームの羽毛回収や近隣中学校でのSDGs講話、羽毛・古着回収×サッカー教室など様々な活動まで広がっており、リサイクル羽毛の存在やSDGs活動を知っていただく機会を創出することができました。



活動場所 岐阜メモリアルセンター長良川競技場、岐阜市立長良中学校、羽島市運動公園多目的広場



協働者

企業、学校、ファン・サポーター、スタジアム、選手

協働者名

長谷虎紡績株式会社、株式会社ファーベスト、河田フェザー株式会社



協働者の声

長谷虎紡績株式会社 代表取締役社長／長谷 享治 氏



私たちは、環境に負荷をかけない新たな繊維素材開発を進めています。また製品回収にも力を入れています。その中で、地域をどう巻き込むかに大きな課題を抱えていました。昨年初めてFC岐阜と協働しスタジアムで回収活動するなどを行いました。多くの子供達がブースに立ち寄り、目を輝かせている姿に明るい未来を感じました。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [長谷虎紡績株式会社HP](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





FC岐阜

不毛な処分はもう不要！羽毛回収プロジェクト 2/2

Story

岐阜は繊維の街として栄え、地域の基幹産業でもありました。しかし、今はその拠点の多くは海外に移り、たくさんの企業が淘汰されました。また、ファッション・アパレル産業は、世界で2番目に環境へ負荷をかけている産業で、多くの課題を抱えています。この課題を解決するために、羽毛回収は環境に優しい取り組みとして注目されています。

例えば、羽毛ふとんをリサイクルすれば、焼却するときに排出する二酸化炭素を抑制し、羽毛1kgに対し、約1.8kgの二酸化炭素の削減につながります。さらに、羽毛は大切に使うと100年間使うことができる素材であり、リサイクル羽毛が広がればゴミの削減になり、水鳥の命を奪うことなく羽毛を活用できます。



この取り組みを多くの方に広めるため、下記活動に取り組みました。

【活動①】

ホームゲームにて、クラブとして初めて羽毛製品回収を実施いたしました。約30点の羽毛製品を回収することができ、ファン・サポーターの皆さまに周知することができました。

【活動②】

近隣中学校にて、SDGs講話を実施いたしました。当日は、長谷虎紡績株式会社 代表取締役社長 長谷さまをお招きし、SDGsへの取り組み方やなぜSDGsに取り組むのかという思いについて熱くお話ししていただきました。生徒の皆さんも熱心に聞いており、とても有意義な時間となりました。

【活動③】

「羽毛・古着回収×サッカー教室」を開催いたしました。イベントに参加される方が羽毛や古着を持ち寄り、SDGsの大切さを学びながら、サッカーの楽しさも学ぶ内容となりました。多くの羽毛や古着を回収することができ、スポーツの影響力を強く感じるイベントとなりました。



これらの取り組みをさらに地域に根付いたものに、より多くの皆さまにこうした取り組みについて知って頂き、実際に参画してもらうことで、地域からサーキュラー(循環型)な社会を築いて行き、これからの持続可能な社会の実現に寄与したいと考えています。



京都サンガF.C.

『サンガバス』に子ども達の夢を乗せて 1/2

京都サンガF.C.では全ての子ども達に夢や感動を届けたいという想いで、これまでから京都府内の児童養護施設と交流を続けております。

2023シーズンは、TEAM京都コンソーシアム(会長:京都府知事、京都府他34団体で構成)の協力の下、府内全ての児童養護施設を対象に、ホームゲームへの招待や、選手が児童養護施設を訪問しサッカー教室を行うなどの事業を実施しました。

また、今回初めて、サンガカラーにラッピングした『サンガバス』でスタジアムまでの送迎を行いました。



活動場所 サンガスタジアム by KYOCERA、児童養護施設(京都大和の家、桃山学園 他)



協働者

行政、企業、選手、社会福祉法人

協働者名

京都府内の児童養護施設運営法人、TEAM京都コンソーシアム(ホームタウンを中心とした行政や各種団体等が一体となってサンガを応援し、地域コミュニティの活性化等に寄与するために設立された組織)



協働者の声 京都大和の家/小石原 広樹 氏



選手とコーチから指導してもらい、とても良い経験になりました。足だけでなく頭や背中も使ってボールの中心を捉えるプログラムでは、コーチのアドバイスだけで出来るようになった子ども達が続出して驚きました。コーチの子ども達を惹きつけるお話も印象的で、普段、ケンカもする子ども達ですが笑顔あふれるイベントでした！



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





京都サンガF.C.

『サンガバス』に子ども達の夢を乗せて 2/2

Story

京都府内には、様々な家庭の事情により保護者と一緒に暮らすことのできない子ども達が生活している児童養護施設が13施設あります。

京都サンガF.C.では、子ども達に夢や希望を持つことの大切さを伝えるなど、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした各種活動に取り組んでいます。

その活動の一環として、児童養護施設に入所する子ども達をホームゲームへ招待したり、選手が施設を訪問するなどの事業を、これまでから継続して実施しています。

なお、2023シーズンの事業については、TEAM 京都コンソーシアムと協働で実施しました。



【ホームゲーム招待事業】

ホームゲームの招待では、8施設の子も達など計73名を招待しました。

また、今回初めて、サンガのユースチームが遠征等で使用するサンガカラーにラッピングした『サンガバス』で施設からスタジアムまでの送迎を一部の施設で行いました。『サンガバス』に乗車しスタジアムへ応援に駆けつけることで高揚感も高まるなど、乗車した子ども達からは、大好評でした。

さらに、初めてプロスポーツを観戦する子ども達にサポーターとの一体感などスタジアムの雰囲気や迫力を思う存分に楽しんでもらうため、試合観戦用にTシャツやタオルマフラーなどの応援グッズをプレゼントしました。

子ども達には、スタジアムで“プロの迫力”を体感し、選手の最後まで諦めない姿などの“感動”を共有する機会となりました。

観戦した子ども達からは、「選手の全力で頑張る姿を見て、私もこれからの学校生活を頑張りたいです。」などの感想をいただきました。



【施設訪問事業】

選手やスクールコーチが訪問し、サッカーを通じて子ども達と交流しました。

選手の訪問に、最初は緊張してぎこちなかった子ども達も次第に打ち解けて、最後は一緒になって一生懸命にボールを追いかけている姿が印象的でした。

交流事業の終了時には、子ども達から「もっとやりたい。」などの言葉をいただくなど、楽しい時間を過ごすことができました。



ガンバ大阪

～人々の”つながり”を～ 西山田 de GAMBAフェスティバル 1/2

コロナ禍によって人々の交流が少なくなった状況から、行政や団体と協力し、多世代の方々が社会とのつながりを築くコミュニティ創りを目指し、フードドライブの実施と、パブリックビューイング・ミニ縁日を開催しました。ガンバ大阪を通じて人々が“つながり”、多くの子どもたちや地域の方々に笑顔になっていただくことで、皆が生きやすい社会の創生に取り組んでいます。吹田市様、吹田市社会福祉協議会様、こどもふらっと様と、2021年4月に開講したガンバ大阪サッカービジネスアカデミー(GBA)の受講生との協働により実施が実現しました。



活動場所 パナソニックスタジアム吹田、西山田ふらっとサロン、山田コミュニティスペース



協働者

行政、住民、学校、NPO、協議会、ファン・サポーター、スタジアム、ボランティア

協働者名

吹田市、吹田市社会福祉協議会、こどもふらっと、GBA



協働者の声

吹田市社会福祉協議会／坂上 真依子 氏 佐本 一真 氏



社協は日頃からさまざまな機関や団体と連携し、地域の課題と向き合っています。フードドライブやパブリックビューイングは、社協が持つネットワーク、ガンバさんの強みを最大限に活かした取り組みになりました。今回の取り組みをきっかけに、より連携を深めていけたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



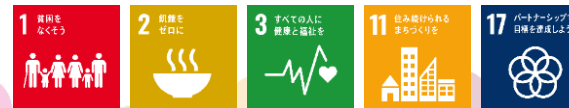
活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ガンバ大阪

～人々の”つながり”を～ 西山田 de GAMBAフェスティバル 2/2

Story

現代は、人々がつながりを持ちづらく、人に頼れず、または人に手を差し伸べられず「孤独・孤立」に感じ、ひきこもり、独居老人、不登校等が増加し、全国調査でも「孤独」を感じたことのある人は4割ほどおり、年々数値は大きくなっており、孤独と感じているときは、脳には大きなストレスがかかり、脳卒中や心臓病、認知症の発症に影響を与えるとも言われています。吹田市は、大阪府内で人口増加数の上位におり、生活環境やスタイルが変わることで社会とのつながりが失われ、「孤独・孤立」を感じてしまう可能性が高い状況で、さらに子どもたちは頼りどころが少なく、生きづらさをより感じてしまっている現実があります。

「サードプレイス」とは、自宅や職場、学校とは別に



存在する「居心地のいい場所」。ガンバ大阪を起点に様々なつながりが生まれ、孤独・孤立の解消に貢献し、ガンバ大阪が居心地のいい場所“サードプレイス”を提供できる存在になると感じ、本企画に至りました。

GBAメンバーとともに吹田市・西山田地区の子どもたちのサードプレイスで、子どもの居場所の提供や、子ども食堂を運営されている「こどもふらっと」様に子どもたちの実情や抱えている問題を伺い、吹田市社会福祉協議会様と連携し、子ども食堂でたくさんの食事をしてほしいという願いからアビスパ福岡戦でフードドライブの開催と、子どもたちの“居たい”“行きたい”“やってみたい”という好奇心を促すため、ミニ縁日とガンバ大阪の試合のパブリックビューイングを実施するなど、楽しめる居場所作りを共創しました。

フードドライブでは多くの方々にご協力いただき、試合前の短い時間ではありましたが段ボール3箱以上の食材が集まりました。ミニ縁日では、プラ板作りに夢中になり完成品を友達と見せ合う子、サッカーボウリングではストライクを出してガッツポーズをする子、ガンバ大阪オリジナルカードを使ったカードゲームで大人と対戦をして悔しがる子、様々な場面でコミュニティが生まれていました。パブ



リックビューイングでは会場が一体となって声援を送りガンバ大阪を応援しました。3歳から87歳までの約70名の方に足を運んでいただき、参加した子は「ここで3人友達ができただけからまた一緒に来てみたい」や「今度はスタジアムでガンバ大阪を応援したい」とお声をいただきました。

ガンバ大阪のホームタウン7市だけでも110を超える子ども食堂があり、多くのサードプレイスがあります。今後は、吹田市内だけではなくホームタウン7市で、ひとつでも多くの施設との連携、一人でも多くの方たちに笑顔を届ける活動が継続・拡大できるよう行政や地域の様々な団体と連携していきます。



セレッソ大阪

セレッソ大阪×障がい者ファッション 1/2

「障がい者だっておしゃれがしたい」。この思いを具現化した「第1回アダプティブファッションショー」が開催されました。私たちは、協働者と連携して開催に協力しました。重い障害を持つ人々も地域で普通に暮らせる街づくりを目指す取り組みの一環として、不用になったユニフォームなどをリメイクし、ランウェイを桜色に染め上げました。その後のホームゲームでは、これらの衣装を身に纏った障がい者が観戦に訪れました。応援歌やフラッグを振ることは難しい彼らですが、ファッションを通じて、選手たちへの応援とアピールを行いました。

活動場所 マイドームおおさか

協働者

行政、企業、学校、学生、NPO、社会福祉法人

協働者名

社会福祉法人大阪重症心身障害児者を支える会、東洋シール株式会社、株式会社パル、CO-FUKU、清原株式会社、大阪市など

協働者の声 社会福祉法人大阪重症心身障害児者を支える会／三田 深愛 氏



身体障害だけでなく知的障害も持っている方達は、表情の変化が少なく感情の汲み取りが難しいです。衣装をリメイクした学生が慣れないなか、障がい者のニーズや意思を理解することは難しかったと思います。機能性だけでなく外に着ていける「おしゃれ」な服を身に纏った彼らがいつもと違う輝いた表情でランウェイを進む姿に感動しました。



活動詳細情報

- 1 [大阪重症心身障害児者を支える会HP](#)
- 2 [大阪重症心身障害児者を支える会 Instagram](#)
- 3 [NHK](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





セレッソ大阪

セレッソ大阪×障がい者ファッション 2/2

Story

障がい者にもファッションを楽しむ権利がある。そんな願いを込めて、社会福祉法人「大阪重症心身障害者を支える会」が中心となりセレッソ大阪などと連携し、2023年11月23日、マイドームおおさかで「THE 1st KANSAI ADAPTIVE FASHION SHOW 2023 with inclusive design」を開催しました。

このイベントは、関西で初の障がい者向けファッションショーで、重症心身障害を持つ人々が主役でした。

彼らは、服に関連する企業や学校、行政、NPOなど、多くの団体の協力を得て、ランウェイを彩りました。



私たちセレッソ大阪は、地域社会への貢献を目的とするクラブとして、このイベントに賛同し、協働しました。

クラブで、不用になったユニフォームやタオルマフラーを活用し、障がい者のニーズに合わせて応援ウェアにリメイクしました。

これらのウェアは、セレッソピンクで桜満開のデザインが施され、機能性とデザイン性の両面で高い評価を得ました。

障がい者たちは、これらのウェアを身に纏い、自信に満ちた表情でランウェイを歩きました。

彼らの姿は、観客の視線を釘付けにしました。

セレッソランウェイでは、重度心身障害者のサポーターがモデルとなり、リメイクされた応援ウェアを身に纏い、力強く歩きました。

会場からは大きな拍手と歓声が沸き起こり、選手や監督からの激励メッセージ動画も上映され、一層の盛り上がりを見せました。



このイベントは、障がい者ファッションの新たな可能性を示し、障がい者支援の重要性を広く伝えるきっかけとなりました。そして、後日、セレッソ大阪のホームゲームでは、ランウェイで披露されたファッションを身に纏った障がい者たちが観戦に訪れました。彼らは、応援歌やフラッグを振ることは難しいですが、ファッションを通じて選手たちへの応援とアピールを行いました。これは、サッカー観戦における障がい者のニーズを反映し、彼らが表現の一形態としてファッションを用いることの意義を示した瞬間でした。



FC大阪

子どもの夢を応援する『夢授業』 1/2

FC大阪では子どもの夢を応援する『夢授業』を実施しています。FC大阪の現役選手、OB、チームスタッフなどを「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことや、その夢に向かって努力することの大切さ」を伝える『夢教室』や「仲間と協力することの大切さ、サッカーの楽しさ」を伝える『サッカー教室』を行います。また『夢教室』では、夢先生の授業を聞くだけでなく「夢シート」を使って、子ども達の「いま好きなことや得意なこと」「将来の夢」「そのためにできること、やってみようと思うこと」を記入し、発表してもらったあと夢先生が回収し、後日一人一人にメッセージを記入して返送し、子ども達の夢を応援、後押しします。



活動場所 東大阪市内の小学校



協働者

行政、学校、学生、選手、プロスポーツクラブ

協働者名

東大阪市役所、東大阪市内小学校



協働者の声 東大阪市都市魅力産業スポーツ部花園・スポーツビジネス戦略課／伊藤 達也 氏



FC大阪さんの「夢授業」は生涯スポーツを推進する本市としても「生涯学習出前講座」として位置づけられており、当課においてPRや学校紹介の支援などを行っています。こういったスポーツを活用した、学校をはじめとする行政課題解決を目的にクラブと行政部門とで協働していき、地域活性化を目指していきます。



活動詳細情報

- 1 [東大阪市公式HP](#)
- 2 [東大阪市立高井田東小学校HP](#)
- 3 [公式Instagram①](#)
- 4 [公式Instagram②](#)
- 5 [公式Instagram③](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





FC大阪

子どもの夢を応援する『夢授業』 2/2

Story

FC大阪では、2023年度より東大阪市協力のもと、子ども達の夢を応援する「夢授業」を実施しています。

現代の子ども達を取り巻く環境としては、少子化やデジタル化が進み、子ども達が社会性を育む場である外遊びが減少し、子ども達の体力低下や運動不足を懸念する声が増えています。その中で、プロサッカーチームとして何ができるだろうと考えた時に、夢を叶えた「サッカー選手」だからこそ、今の子ども達に伝えられることがあるのではないかと思い、子どもの夢を応援する「夢授業」を実施しました。

東大阪市の小学校を対象に市内の「全51校・全学年・全クラス」の子ども達へ「夢を持つことの素晴らしさ」「夢に向かって努力することの大切さ」「失敗

や挫折に負けない心の強さ」を伝え、学校教育の現場と力を合わせて子どもの心の教育に貢献することを目指しています。

[夢授業プログラム]

①夢教室

FC大阪の現役選手・OB・チームスタッフから、自身の経験から困難を乗り越えて夢に挑戦した体験を伝えプロジェクターを使って質問形式で授業を実施。

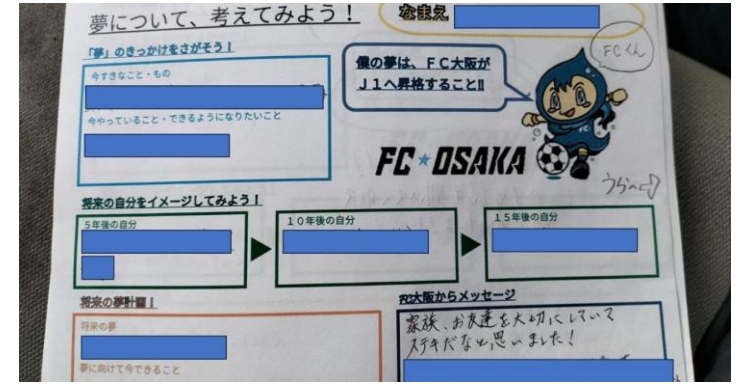
(内容)

- ・小学生の時何をしてきたのか
- ・夢はもっていたのか、いつ夢をもち始めたのか
- ・夢に向かってどのようなことをしてきたか
- ・夢に挑戦することで辛かったこと
- ・夢に挑戦することで起きる良いこと

②夢シート

夢教室のあとにオリジナルで作成した「夢シート」を使って、子ども達の「いま好きなことや得意なこと」「将来の夢」「その為にできること・やってみようと思うこと」などをその場で記入し、発表する時間を設けます。

自分の夢を文字で書くこと、言葉にすることで夢に向かう子ども達を後押しします。夢シートは夢教室終了後に回収し、FC大阪選手やスタッフから一人



ひとりへ思いを込めて「夢シート」にメッセージを書き、学校側へ返却します。

③サッカー教室

プロサッカー選手と子ども達が協力して様々なゲームを実施。

サッカーを通してみんなで体を動かすことにより、緊張をほぐしながら、クラス全体に「協力すること」「思いやりの心」「全力で取り組むこと」「ルールを守ること」などの大切さを伝えます。

プロサッカーチームとして子ども達の為に今できることを行い、目標の東大阪市全51校・全学年・全クラスの子ども達の夢を応援する「夢授業」を今後も実施し、子どもの夢を後押ししていきます。





ヴィッセル神戸

ふるさと納税を活用した公園およびスタジアムのアップグレード 1/2

神戸市が建設したノエビアスタジアム神戸と御崎公園の施設を改修するにあたり、神戸市がふるさと納税を活用して寄付の募集を行いました。このプロジェクトは、設備の改修により来場者数の増加を図ることで、地域の活性化も目的としています。ヴィッセル神戸も地域の一員として、オリジナル返礼品の作成や、選手による告知活動などで協力しました。その結果、多くの方に賛同を頂き、施設の改修という行政の課題を、行政・クラブ・市民の三者が力を合わせて解決する好例となりました。



活動場所 ノエビアスタジアム神戸



協働者

行政、企業、住民、ファン・サポーター、スタジアム、民間団体、選手

協働者名

神戸市役所



協働者の声

神戸市建設局公園部整備課 課長／野田 泰史 氏



当スタジアムは築20年を超えており、老朽化対策と新たな利用者ニーズに 대응していくことが求められていました。そこで、ふるさと納税で寄付を募ったところ、ヴィッセル神戸の強力な応援もあり、予想以上の寄付を頂きました。現在行っているトイレのアップグレードは利用者からも好評で、地域の活性化にも寄与しています。



地域のプロジェクトをみんなで応援！ 楽々ふるさと納税クラウドファンディング

神戸市の球技スポーツ拠点「ノエビアスタジアム神戸」と「御崎公園」をアップグレードし、満足度向上と地域活性化につなげたい！

教育・文化・スポーツの振興 兵庫県神戸市

現在の寄付額 **155,670,000円** 達成!

目標金額 100,000,000円 X155%

寄付者 **4,439人** 受付終了

募集期間: 2022/11/04(金)10:00 ~ 2023/01/31(火)09:59

このプロジェクトは受付を終了しました



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [神戸市HP](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ヴィッセル神戸

ふるさと納税を活用した公園およびスタジアムのアップグレード 2/2

Story

ヴィッセル神戸のホームスタジアムであるノエビアスタジアム神戸は、2002年のFIFAワールドカップ日韓大会の開催の際に建て替えたスタジアムです。完成から20年以上が経過していることから、神戸市では可動屋根や空調施設など毎年様々な改修を進めてきました。一方で、新たな利用者ニーズへの対応も同時に求められていることから、利用者が魅力的になったと実感できる施設については、神戸市がふるさと納税で寄付金を集め改修を加速化していくことにより、早期に利用満足度を高めることができると考え本プロジェクトを始めました。本プロジェクトは施設のアップグレードによる利用者増を通じて改修を通じて地域活性化を目指しており、ヴィッセル神戸も地域の一員として、オリジナル



返礼品の作成や選手によるPR活動、ヴィッセル神戸ホームゲーム時のブースでの案内など、全面的に広報活動の協力を行いました。趣旨に賛同し神戸市に貢献したいと思った人が中心となって、目標金額1億円を上回る約1.5億円のご寄付が集まりました。

資金面での目途がついたことから、かねてより多くの改修要望があったトイレについて、2023年9月よりアップグレード工事に着手しました。工事は、スタジアムを運営管理しているヴィッセル神戸が担当しました。工期がイベント日と重なる時もありましたが、利用団体等のご理解をいただき、イベントを開催しながら工事を進めました。

新しいトイレのコンセプトを、「神戸市にとっての自然豊かな六甲山のような、スタジアムの喧騒から離れた憩いの場」と定め、木質感のある落ち着いたデザインとしました。設備面でも最新式の温水便座や、女性用パウダールームの新設等、快適性を第一に考えました。また、節水型便器や間伐材を導入するなど、環境にも配慮したトイレとしました。その結果、来場者のみならず地域の方にも誇れるスタジアムへと生まれ変わりつつあります。



2024年以降も、トイレ工事に加えて公園遊具の新設などを進め、地域住民の誇りとなり、地域活性化につながるようなスタジアムのアップグレードに貢献していきます。



奈良クラブ

新拠点ナラディーアにて「MATSURI」を開催！ 1/2

奈良クラブの練習拠点「ナラディーア」にて、バルサアカデミーのアジアを中心とした環太平洋地域6カ国が参戦する「BARCA ACADEMY APAC CUP 23 Japan」の開催を機に、海外のサッカー少年たちに日本の夏を楽しんでもらうと同時に、地域住民とのリレーションシップや賑わいを創出を目的に、大会初日のウェルカムイベント「MATSURI」を実施。桜の記念植樹や和楽器演舞、また縁日や打上げ花火などの夏祭りを催し、日本文化の体験を通じた国際的な文化親交が図られ、盛大で有意義なオープニングを飾ることができました。



活動場所 ナラディーア



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、ファン・サポーター、民間団体、商工会、飲食店、選手、病院

協働者名

BARCA Academy、SAKURA PROJECT(大和ハウス工業株式会社)、葛城煙火株式会社、真武館真勝流刀道、ハートランドしぎさん看護専門学校、三郷町、三郷町教育委員会、生駒市、三郷町商工会、勢野北イーストヒルズ自治会、株式会社Amazing Sports Lab Japan、奈良女子大学等



協働者の声 三郷町教育委員会事務局 生涯学習課課長／ウェゼル 雅子 氏



三郷町のナラディーアで開催された「MATSURI」は、さながら外国のフェスティバル。各国の子ども達とその保護者や関係者、そして地域住民が交流し、異国情緒満載の中、みんなで楽しみました。奈良クラブは、今や三郷町のシティプロモーションに欠かせない存在です。これからもシッカリ連携し、町を挙げて応援します。



活動詳細情報

- 1 [FCバルセロナ公式HP](#)
- 2 [大和ハウス桜プロジェクト公式HP](#)
- 3 [濱田満氏公式X](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





奈良クラブ

新拠点ナラディーアにて「MATSURI」を開催！ 2/2

Story

2023年1月に奈良クラブの練習施設「ナラディーア」がオープンし、新たに三郷町がホームタウンになりました。そのナラディーアが、スペインの名門クラブFCバルセロナ有するバルサアカデミーのアジアおよび環太平洋地域の6カ国の選手(U14, U11, U9)が一同に参戦する「バルサアカデミー アジアパシフィックカップ2023」(APAC)のメイン会場となり、またとない地元での国際大会の機会に、おもてなしのオープニングイベント「MATSURI」を企画。海外のサッカー少年たちに日本の祭り体験を通じて文化交流を深め国際親善の場を創出し、三郷町周辺の地域団体や住民との交流、賑わい創出の機会と捉え、地元住民を招待しリレーションシップの構築、エンゲージメントに繋がりました。



■概要

大会は、アメリカ、インド、オーストラリア、トルコ、日本(葛飾、横浜、奈良、広島、福岡)と、スペインの6カ国、500名程の選手、スタッフ保護者が参加。また近隣の自治体(三郷町、生駒市、自治会、商工会)やパートナーの大和ハウス工業様が推進する桜プロジェクトと連携し、縁日の櫓や露店、打上げ花火などを実施。周辺住民の方々を招待し、総勢1,000名程がMATSURIに参加しました。オープニングの各国選手が入場する様子は、奈良に居ながら国際大会を肌で感じることができ、子どもたちにとって貴重で素晴らしい機会となっていました。

■「MATSURI」で文化振興、国際親善、地域住民との交流、賑わい創出が実現

桜プロジェクトにて敷地内に選手で吉野のシロヤマザクラを植樹し、選手に桜を用いた記念品を贈呈。和楽器ユニット奏者「AUN」の演奏で、日本の伝統文化芸能を披露。海外の選手らは和太鼓を体験したり、立ち上がって拍手で盛り上がり、居合いと抜刀を融合した真武館真勝流の魂のこもった演武には、息を呑み日本の選手達も興味津々感動した様子でした。縁日では、商工会の方々が櫓を組んでくださったたり、地元飲食店など24台のキッチンカーがピッチ内に並び、日本食や的矢やヨーヨー釣りなど祭りを堪能。その横で自然にサッカーをする子ども



たちが見受けられ、国際交流の場となっていました。また、ナラディーアの活動支援等で募ったクラウドファンディングで、地域と奈良クラブが親和性を図り奈良を盛り上げる「39市町村応援プロジェクト」の提案実現として、約70発の打上げ花火でフィナーレを飾りました。

■今後のシティープロモーションに手応え
来日した選手や保護者は、大会の合間に東大寺をはじめ近隣の寺社仏閣など観光にも意欲的で、歴史的な場所にバルサのウェアで訪れる様子は、あらためてシティープロモーションやサッカーツーリズムによる経済効果への手応えと可能性を実感し、自治体と連携した観光と観戦のコンテンツ創出につなげていきたいと考えています。



ガイナーレ鳥取

地域で作るおやこの遊び場「おやこスポーツBASE」 1/2

公園はあるが、遊具ではまだ遊べない。広場はあってもいつも同じ遊び。そんな悩みを持つ「おやこ」が一緒に遊べる場所を考えました。ボール遊びでは、手取足取りおやこ一緒にゴールを目指す。子ども達が一人で挑戦した後には「上手だったね」と我が子を抱きしめる。運動後はレジャーシートにお弁当を広げ参加者同士で団欒。まるで参加者全員が家族のような温かい光景。「育児の大変さを少しでも和らげたい」「遊びやスポーツを好きになってほしい」そんな想いの団体、企業、行政が協力し合いこの活動を進めています。



活動場所

Axisバードスタジアム、ガイナーレYAHATAコート、OOE VALLEY STAY〈オオエバレーステイ 鳥取〉、チュウブ鳥取砂丘こどもの国、皆生プレイパーク



協働者

行政、企業、民間団体

協働者名

Tottori Mama's、イッポラボ合同会社、大江ノ郷自然牧場、鳥取県トライアスロン協会、鳥取県、米子市



協働者の声

Tottori Mama's / 中井 みずほ 氏



「おやこスポーツBASE」のお話を伺ったときに『育児による女性の孤立化を防ぐ』という私たちの活動と同じ想いで取り組みという点に大共感し一緒にさせていただいております。参加するどの親子様も笑顔で楽しそうなのはもちろん、スタッフや参加者同士の繋がりが生まれ、ここから交流が広がっていると感じています。



活動詳細情報

- 1 [日本海新聞YouTube](#)
- 2 [イッポラボYouTube](#)
- 3 [日本海新聞HP](#)
- 4 [公式X](#)
- 5 [公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ





ガイナーレ鳥取

地域で作るおやこの遊び場「おやこスポーツBASE」 2/2

Story

参加対象は1歳から。

2013年「子ども達や保護者の憩いの場を創出し、新しい地域のコミュニティとして育てていくことができるか」という想いで未就学園児を持つおやこを対象にした「おやこdeサッカー」がスタート。

そしてこれまでクラブのみで行っていた活動に、2021年、育児による女性の孤立化と向き合う「Tottori Mama's」、子ども達の教育に向き合う「イッポラボ合同会社」、30代の運動不足に課題を感じていた「鳥取県」が加わり、「おやこスポーツBASE」として運営しています。



おやこスポーツBASEの様子

活動では、おやこで鬼ごっこやボール遊び、おやこで絵の具を使って線を書いたり、全身絵の具まみれになりながら旗を制作。おやこで木製のトラック・積み木で一つの街を作る。おやこでひらがなカードを使って宝探し。と、毎回担当スタッフがそれぞれの強みを活かしたメニューを実施しています。

時には言葉がほとんどが通じない子ども達にスタッフが試行錯誤して作ったアトラクションを一瞬で破壊されてしまうこともありましたが、「子ども達と一緒に走り、考え、楽しむことでしばらく忘れていた純粋な喜びと、少しの心の余裕が戻ってきた」という参加者の声や笑顔に毎回力を頂いています。

2021年74名、2022年102名、2023年193名と参加者も増え、活動内容の満足度も上がってきていると実感しています。また協働者が増えたことにより鳥取市のみで開催していた活動を米子市でも行う事ができるようになり活動のエリアも広がっています。



こどもたちのみらい ふるさとのみらい

人口減少という大きな流れの中で、故郷を大切にできるように「こどもたちのみらい ふるさとのみらい」というSC鳥取百年構想を大切にしています。

これからも地域の宝である子ども達をみんなで見守る、子どもも大人もみんながスポーツっていいよね。子育てって楽しいよね。鳥取に生まれて良かった。そう思える地域になれるよう活動の輪を広げていきたいと考えています。



ファジアーノ岡山

子どもの「自分で決める」を促す出前授業プログラム『にじいろキャラバン』 1/2

ファジアーノ岡山では、岡山県下の小学校を対象とした新たな出前授業プログラム『にじいろキャラバン』を開始しました。サッカーはあくまで題材。サッカーというツールを使いながら、これからの社会を生きていく上でより大切となる「子どもが自分自身で考え、決めること」を促し、気づきやきっかけを得られるように工夫したプログラムです。

活動場所 岡山県内全域

協働者
行政、学校

協働者名
県内教育委員会、県内小学校

協働者の声 岡山市立豊小学校教員／増原 誠 氏

児童を育てるプログラムになっており、にじいろキャラバン実施後の学校教育活動にも非常につながりやすい。また普段の学校活動では関わらないコーチ・指導者に関わってもらうことは、児童の成長や気づきに非常に効果があると感じる。学校現場に広く知ってもらえるようになればいいなと思います。来年度もぜひ実施したいです。



活動詳細情報

1 [公式サイト](#)

2 [山陽新聞](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





ファジアーノ岡山

子どもの「自分で決める」を促す出前授業プログラム『にじいろキャラバン』 2/2

Story

<背景>

2020年度に小学校の学習指導要領が改訂され新しい要領がスタートしました。これまで大切にされてきた「子どもたちの生きる力を育む」ことは変わらず、より主体的・対話的な深い学びが重視されるようになってきています。その一方で、学校現場では小学校教員が業務量や時間といった様々な制約の中で、『子どもたちが主体性をもって行動するための指導』に戸惑いや課題を感じながらご指導にあたられていることがわかりました。



これは、日ごろからサッカースクール等で子どもたちと向き合う弊クラブのコーチ自身も、自ら考えることなく、すぐに答え(正解)を求めがちになる子どもたちの様子からも実感しています。

<目的>

社会が大きく、そして早く変化している今、このプログラムを通じ、次世代を担う子どもたちが考える力、決める力、周囲とつながる力を養うきっかけを作りたいと考えています。そして、教員の皆さまの課題の解決の一助、また地域・教職員の皆さまとこれからの子どもたちの育みについて、一緒に考えていくきっかけにもしたいと考えております。

<内容>

このプログラムで派遣するコーチは、例えばペアを作るアクティビティでも、『隣の人』とペアを作ろうなどの具体的な指示はせず「ペアを作ってみよう」と問いかけます。どのようにペアを作るのか、考えるのは子ども自身です。仮にペアが作れなかった子どもがいたときも、「あの子と組んで」「あのペアに交じって」などの指示をコーチはしません。どのようにすれば解決できるか、子どもたちに問いかけ、その解決方法を決めるのも子どもたち自身です。



サッカーを題材にはしますが、ボールの蹴り方などの指導はしません。主体的に考えて行動することやコミュニケーション能力の向上を促し、仲間とスポーツをする楽しさを体感できることを目指します。

ファジアーノ岡山では、今後できるだけ多くの小学校を巡り、自発的にスポーツを楽しめる子どもを増やしたいと考えています。



サンフレッチェ広島

30市町周遊企画「ぶらサンチェ」 1/2

クラブ創設30周年を記念して2022シーズンより始まった広島県内全域30市区町(広島市内8区、広島県内の13市(広島市を除く)、9町)の魅力を紹介する「ぶらサンチェ」
 クラブ公式youtubeチャンネルで選手、スタッフが各地域のお勧めスポットに訪れ、実際に体験し紹介する動画を配信することで地域の魅力を再発見してもらう企画です。

活動場所 広島県全域

協働者

行政、企業、民間団体、飲食店、選手、公益財団法人

協働者名

神楽門前湯治村、恐羅漢エコロジーキャンプ場、安佐動物公園、矢野温泉公園四季の里、揚倉山健康運動公園、神勝寺 禅と庭のミュージアム、広島市森林公園、とよまつ紙ヒコキタワー、織田幹雄記念館、筆の里工房、豊平どんぐり村、三原だるま工房、三次もののけミュージアム、似島臨海少年自然の家、海と島の歴史資料館、おたけ手すき和紙の里、海上自衛隊第1術科学校、トムミルクファーム、バイサイドビーチ坂、国営備北丘陵公園、今高野山、雪月風花 福智院、23市町役場 他

協働者の声 世羅町長／奥田 正和 氏



この度のぶらサンチェを通して、世羅町の魅力を再発見していただきありがとうございました。選手による福智院での白熱したお茶入れ対戦が大変印象に残っています。また、配信後はサポーターの方が選手の訪れたところをたどる、聖地巡礼をされる方もいらっしゃいました。今後もサンフレッチェ広島を応援しています。



活動詳細情報

1 [公式サイト](#)

2 [公式YouTube](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





サンフレッチェ広島

30市町周遊企画「ぶらサンチェ」 2/2

Story

サンフレッチェ広島では、創立以来「サッカー事業を通じて、夢と感動を共有し、地域に貢献します。」の理念のもと、また、地域の皆さまに「サンフレッチェ広島があって良かった。」と思っていただけるよう、「親しまれ・愛されるクラブ」を目指し、創立当初からのテーマである地域貢献活動を、様々な機会を通じて展開してまいりました。

その活動の一環として、クラブ創立30周年の節目である2022年シーズンに、広島県の区市町（広島市内8区、広島県内の13市（広島市を除く）、9町）を合わせた『30』の地域で、各地域の魅力を発信するシティプロモーション動画『ぶらサンチェ』を作成しました。



サンフレッチェ広島、サンフレッチェ広島レジーナの選手が広島県内の30の区市町の魅力を発信するべく周遊する企画で、2022シーズンから2年間に渡り、全地域を訪問。

（計30本の動画で総再生回数が30万回以上）

クラブ側が各地域の観光スポットを選定し訪問するのではなく、行政に企業、地方団体と相談したうえで地域として打ち出したい魅力を提案してもらい、要望に沿った形で動画を制作したことで、地域の魅力を最大限発信することができました。

また、クラブ公式YouTubeチャンネルにて配信することで、日ごろからサンフレッチェ広島を支えている方々に各地域を改めてPRことができ、地域の魅力を再発見するきっかけづくりになりました。

実際にご参加いただいた行政や企業からは、自社の媒体でPRするよりも視聴回数も多く、興味関心を持ってもらう機会が多いので、今後も継続して地域の紹介をしてもらいたいというお言葉もいただいております。



今後も継続して地域の魅力を発信し続け、連携強化に努めてまいります。



レノファ山口FC

阿武町でレノファキャンプ 1/2

夏休みも残り10日となった頃、海あり山あり景観抜群の阿武町ABU CAMPFIELDと連携し、「レノファキャンプ」を開催しました。選手とのサッカー交流、地物食材を使ったお料理教室やBBQ、焚き火とナイター試合観戦「阿武リックビューイング」等、地元の皆様にも遠方からのサポーター様にも最高の思い出となり、結果、新たな阿武町ファンとレノファファンがここに誕生しました。レノファ山口FCは、プロスポーツクラブが持つ「発信する力・繋げる力」を活かし、地域の課題解決や地域活性化にチャレンジしています。



活動場所 ABUキャンプフィールド



協働者

行政、企業、住民、学生、ファン・サポーター、選手

協働者名

阿武町役場、あぶクリエイション、ABUキャンプフィールド、ABC style、奈古スポーツ少年団、一般社団法人あぶナビ



協働者の声

阿武町役場まちづくり推進課／桂 大郎 氏



キャンプがその土地の景色、食事、文化を伝え、サッカーはその場の人々の気持ちをつなぐ、サッカーと地域のファンを産み出す、まさにゴールデンコンビの誕生です！地域の魅力を内外に伝えるどこでも可能なこの様なコラボが広がることで、様々な地域の魅力が発信され、日本のファンをさらに増やし、熱狂させると考えます。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [スポーツフィールドやまぐち推進協議会HP](#)
- 4 [ABU CAMPFIELD HP](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





レノファ山口FC

阿武町でレノファキャンプ 2/2

Story

■背景

山口県の北部、日本海に面する阿武町は自然豊かな美しい町です。同じ県内の県央や瀬戸内海側ともまた違った魅力が満載です。「地域とともに、新たな価値を創る」というレノファ山口FCのクラブビジョンと、阿武町に来てほしい、知ってほしい、ファンになってほしい、地域の特徴を活かした魅力を発信したいという阿武町担当者様の想いがマッチし、スポーツクラブの魅力と町の魅力を掛け合わせた新企画「レノファキャンプ」が誕生しました。



■実施内容

当イベントでは、ABCクッキングお料理教室コラボや、阿武町の食材振る舞いBBQ、更にはレノファ山口FCの阿武町ご当地シャレン選手参加によるスポーツ体験コーナーなどを通じて、町内・町外から参加された多くの方々が交流を図りました。レノファキャンプの締めは、満天の星空の下、パブリックビューイングを開催！キャンプ場らしくタープを活用したスクリーンや焚き火を囲みながらの応援で、唯一無二の企画となり大変盛り上がりました。（阿武でパブリックビューイングだから「阿武リックビューイング」という素敵な名前も誕生！！）今回参加した方から阿武町にまた来たいと思うファンを作り出し、関係人口を増やし、結果として阿武町に人が集まってくれることを期待するとともに、サッカー及びキャンプという垣根を飛び越えて地域を丸ごと楽しむ新しいスタイルの地方創生企画の形として次年度以降も取り組みます。



またこの日を境に、阿武町産キウイフルーツのトップチームへのご提供や道の駅阿武町への応援のぼり旗の設置、キャンプで選手と触れ合った町内の子どもたちがレノファの試合に団体ツアーで応援に駆けつけ目の前で戦う選手たちの姿に声援を送ってくださるなど、双方で応援し合える関係性が構築されました。今後とも、素晴らしい地域資源とレノファ山口FCの強みである「つなぐ力」と「情報発信力」とを掛け合わせることで多世代が交流できるコミュニティの創出や魅力の再発見など、地域課題の解決に取り組んでまいります。



カマタマーレ讃岐

地元の子供たちと共にプロスポーツをとおして交流を… 鶴尾フェス 1/2

カマタマーレ讃岐は、高松市の協力のもと高松市鶴尾地区にある廃校になった旧鶴尾中学に2022年2月にオフィスを移転しました。その旧鶴尾中学の体育館はプロバスケットボールチームの香川ファイブアローズの練習拠点にもなっており、同じく鶴尾地区に本社を設けている株式会社ヤマウチ様の協力のもと2チームで共同使用となるトレーニングルームも完備されています。そのような環境の中、地域住民の皆様への恩返しはもとよりプロスポーツの素晴らしさを身近に感じていただくことを目的とし、3社協議して「鶴尾フェス」を開催しました。

活動場所 スポーツスクエアつるお

協働者 | **協働者名**

行政、企業、住民、飲食店、選手、プロスポーツクラブ

株式会社ヤマウチ、香川ファイブアローズ

協働者の声 株式会社ヤマウチ / 吉中 智子 氏



同じ地域に事務所を構える企業として協力してスポーツを通じて香川の子ども達を元気に、HAPPYにしようという目的のもと開催いたしました。遊びに来ていただいた子どもたちが選手と楽しそうに触れ合う姿を見て、開催した意味を感じました。香川県を盛り上げるイベントとして毎年恒例のイベントとして行きたいです。



活動詳細情報

1 [高松経済新聞](#)

SDGs | **カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ**





カマタマーレ讃岐

地元の子供たちと共にプロスポーツをとおして交流を… 鶴尾フェス 2/2

Story

2022年2月高松市の協力により高松市の鶴尾地区にある現在廃校になりました旧鶴尾中学校の校舎にカマタマーレ讃岐の事務所を構えることになりました。同時期に香川県を拠点とするプロバスケットチームの香川ファイブアローズも体育館を練習拠点に活用することになりプロスポーツチームの2チームがこの高松市鶴尾地区に少なからず色々とお世話になる事となりました。元々2チームとも香川県全域をホームタウンとしているため種目は違いますが「香川県民を元気にしていこう、香川県のために…」という想いのもと活動していましたが、同地区に本社を構える株式会社ヤマウチ様にご協力いただき「香川県民を元気にする」という想いを共有し、まずは日頃お世話になっている地域住民の



方々への感謝及び恩返しをということで、3社でこのようなイベントを開催することとなりました。昨年までは地域の夏祭りに加わった形でのスポット的な参加はしていましたが、3社が主催し自主興行的に開催したのは2023年が初めてとなりました。当日、会場となった旧鶴尾中学校、現「ふれあいスポーツスクエアつるお」にはたくさんの地域住民の方がご来場くださり、グラウンドではキッチンカー、縁日の屋台など大人から小さな子どもまで盛り上がり、野外ステージではダンスショーや香川県で活躍しているアーティストのライブもありました。体育館では、地元のカットサロンの協力のもと子ども限定の無料カットやスポーツダーツ、フレスコボール等、サッカー、バスケットボール以外のスポーツを子ども達に楽しんでもらいました。

イベント後半では2チームの選手が出場しドリブル&フリースローなどお互いの競技で競い合い、またプロスポーツ選手としての心得や私生活などの面白トークを織り交ぜながら地域住民の方々と楽しい時間を過ごしました。地域住民の方々からも各チームに期待する声や要望など数多くの声援などが寄せられ実施した意味合いを再度、深く認識いたしました。「日本を元気に、香川県を元気に」が元ですが…



身近な人々を元気にすることこそそれらの根本ではないかと再確認させられるイベントとなり、それらのことは単発ではなく常に考え、続けていくことに意味があるものと考えています。



徳島ヴォルティス

ヴォルティス元気っずプログラム 1/2

幼児期に必要なとされる多様な動きの獲得や体力・運動能力の向上を目的とした「運動遊び」と体の成長に不可欠な「栄養素の学習」を通じて、活動的で健康的な生活習慣を習得し、生涯にわたり豊かな人生を送るための基盤づくりに繋げる。令和2年度プレ実施。令和3年度よりPFSにて成果連動型を活用。美馬市内の認定こども園及び幼稚園に通う5歳児を対象に年間12回、普及コーチが日本スポーツ協会のアクティブ・チャイルド・プログラムとボールを使った運動遊びを実施し、ワークブックやSNSを活用して保護者にも情報発信を行っている。

 **活動場所** 美馬市

 **協働者**

行政、企業、住民、認定こども園 未就学児

協働者名


美馬市保健福祉部子どもすこやか課、公益財団法人日本スポーツ協会、大塚製薬株式会社、株式会社モルテン、丸忠笠井海産有限会社

 **協働者の声** 美馬市保健福祉部子どもすこやか課／藤原 由美子 氏



プログラムを通じて「運動遊び」が好きな子どもが増え、体力や運動能力の向上につながっています。また、友達と一緒に取り組むとともに、コーチの指導を聞く姿勢をつけることで、社交性が高まり決まりやルールを守るようになるなどの傾向も見られ、子どもの心と体の健やかな成長の基盤づくりの一助となっていると感じます。



 **活動詳細情報**

1 [公式note](#)

 **カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





徳島ヴォルティス

ヴォルティス元気っずプログラム 2/2

Story

子どもを取り巻く環境として、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹や地域での集団遊びが少なく、また、外遊びができる空きスペースや公園なども限られているため集団遊びや外遊びが乏しい状況になっている。さらに美馬市は公共交通機関が乏しいため、また保育所・幼稚園の統廃合により登園距離が増加したことなどから、こども園への登園は保護者の自家用車による場合がほとんどであり、日常生活での運動量は限定的となっている。



最近の子どもの傾向として、「じっとしてられない」「集団での遊びが苦手」など個別での支援が必要な子どもの割合も増加している。運動面においても「両足跳びができない」「姿勢を正して椅子に座ることができない」「一段ごとに足を揃えなければ階段を降りられない」などの子どもが増えてきており、かつては、幼児期に身につけていた動きができず、怪我につながっていることもある。特に美馬市は面積の8割が山で、かつては子どもたちが山々を駆け上がり、それが体幹強化に繋がり、オリンピックの選手達を輩出していた。

そこでヴォルティス元気っずプログラムは、運動が苦手、あるいは、あまり運動をしていない子どもたちに対して、なぜ運動をしていないのか、その理由(障壁)を解決することで運動をする子どもを増やしていく、運動を好きになっていく子どもを増やしていくことを目指している。



園児数193名。KPIは①プログラム開始時に運動遊びが好きでなかった園児のうち、プログラム終了後に改善した園児の割合が70%以上、②プログラム開始時に運動遊びが好きでなかった園児を除く園児のうち、プログラム終了後に維持又は改善した園児の割合が70%以上。結果はまだ継続中のため未定。健康の三原則「運動(ここでは遊び)」「栄養」「休養(ここでは睡眠)」を上手く取り入れ、実施前後でアンケートを活用することにより保護者も巻き込み、結果を見える化にしている。



愛媛FC

タオルで繋がる、紡いでいく。愛媛FC SDGs プロジェクト 1/2

愛媛FCは、タオルサプライヤーの株式会社伊織の製品の中で、品質は問題ないがほつれや刺繍ミス等で販売のできないタオルをご提供いただき、協賛のアトムグループが運営する高齢者施設利用者の方々に、タオルにチーム名や選手名などの刺繍や縫い直しを依頼、完成したタオルを愛媛FCが公式戦や練習等で使用するというプロジェクトを3社合同で立ち上げました。
 タオルロス問題の解消と、高齢者の手作業による認知症予防効果、愛媛FCを通じてスポーツや地元プロクラブを応援することでのコミュニケーションのきっかけを作ることを狙いとしています。

活動場所 ニンジニアスタジアム、南海放送サンパーク、アトムグループ



協働者

企業、高齢者福祉施設

協働者名

株式会社伊織、アトムグループ



協働者の声

株式会社伊織 / 村上 雄二 氏



タオルをつくる過程でどうしても出てしまう難あり商品等の本質上は問題なく、快適に使用できるタオルのその後課題になっていました。国内最大級の産地である愛媛県愛媛市には、タオルの廃棄問題の解消や高齢者作業による認知症予防ながら社会貢献もでき、今後もチャレンジしていきたいですね。

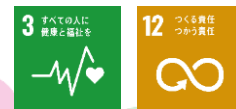


活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [サンシティ北条HP](#)
- 3 [株式会社伊織HP](#)
- 4 [あいテレビ公式Youtube](#)



カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ





愛媛FC

タオルで繋がる、紡いでいく。愛媛FC SDGs プロジェクト 2/2

Story

愛媛FCでは、クラブの資金力の関係から、選手が毎日使用するタオルは選手が入れ替わろうと、毎年使いまわしとなっていました。

衛生的にも問題があり、なにより激しいトレーニングや試合を日々繰り返し、見ている人に夢や希望を与えるJリーガーにとって、誇れる環境ではありませんでした。

そんな時に、地元タオルメーカーの株式会社伊織より、生産の段階で糸のほつれや、刺繍ミスによるタオルが余っているうえに、良い活用方法はないか模索している、というお話をいただきました。

今治タオルを含む、上質なタオルが誰の手にも渡ることがなく、ミスとして扱われている現状に驚きました。



そのタオルをそのまま、選手がトレーニングや試合で使用するタオルとして提供いただくこともできたのですが、愛媛FCはJリーグクラブとして老若男女に愛され応援されるクラブであり続けたいという思いから、地域の高齢者施設を利用される方々に、クラブ名やマスコット、背番号や選手名の刺繍をお願いすることにしました。

この取り組みは通年で実施しましたが、思いのほか、高齢者施設利用者の方々にも好評で、年代的にも手縫い経験の多い方々が多く、手先を扱う事で、脳の活性化にも繋がり、地元チームを応援するという事で、愛媛FCに興味を持ってもらえたり、利用者同士の会話も増えたとのことでした。

中には「息子や旦那と同じ名前の選手で応援したくなった」、「出身地が同じ選手がいて興味を持った」などの声もありました。

また、手縫いを施していただいたタオルを選手たちが実際に使用したことで、選手たち自身もスタジアムで声をあげて応援してくれる方々だけでなく、地域の様々な方に応援してもらっているということを感じることができたと話してくれました。



これまでとは違い、良いトレーニングや試合をして夢や感動を、応援、支援してくれる方々にお見せした選手たちが、その汗をシャワーで流し、地元の製品、地元の企業、地元の方々に支えられたタオルで身体を拭いて、応援や支援を感じながら、毎日過ごすことができている。

特別ななにかではなく、日常の中に入れ込めたことで、今後も引き続き実施していきたい取り組みとなりました。



FC今治

スタジアムに複合福祉施設を創り、インクルーシブ社会を体現するプロジェクト 1/2

障がいの有無に関わらず、誰もが分け隔てなく集い、心の拠りどころとなる場所を創りたい。2023年1月に竣工した今治里山スタジアムの敷地内には、サッカー専用スタジアムとして日本で初めてとなる複合福祉施設「コミュニティビレッジとなる」が社会福祉法人来島会により運営されています。施設を利用する障がい者の方々とクラブスタッフ、ボランティア、サポーター、パートナー企業、地域の皆さんと、豊かな里山スタジアムを守るための活動やホームゲーム時には施設を開放して賑わいを創出するなど、心の豊かさを感じられる場所を共に育てています。

活動場所 今治里山スタジアム、コミュニティビレッジとなる、ありがとうサービス、夢スタジアム

協働者 **協働者名**

行政、企業、住民、ファン・サポーター、スタジアム、飲食店、選手、ボランティア、社会福祉法人、芝生管理会社

社会福祉法人来島会、今治市、株式会社今治、夢ビレッジ株式会社グリーンマスターズ清水、Voyage(ボランティア団体)、ファン・サポーター、選手

協働者の声 **社会福祉法人来島会 業務執行理事／越智 人史 氏**



当時、障がい福祉サービスを利用される方と地域の方が触れ合う機会はあまりありませんでした。FC今治中島様と「多様な方々が支えあい、自分らしさを表現できる場づくりをしたい」と挑戦を始めました。これにより障がいの有無に関わらず自然と交流できる場が生まれてきました。私たちはこれをさらに地域に広げていきます。



活動詳細情報

- 1 [サッカースタジアムに障害者施設 FC今治と来島会がコラボ](#)
- 2 [今治里山スタジアムに障害のある子供達の開かれた学びの場をつくりたい](#)
- 3 [サッカースタジアムと複合福祉施設をくっつける。](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





FC今治

スタジアムに複合福祉施設を創り、インクルーシブ社会を体現するプロジェクト 2/2

Story

【スタジアム×福祉で新しい社会作りを目指す】

地域の心の拠りどころになることを目指した今治里山スタジアムがまだ構想段階だった2019年。FC今治のパートナーであり、地域貢献活動での協業やレディース選手の就労先でもある社会福祉法人来島会業務執行理事の越智人史様に「これからの福祉が目指すのは、壁を作るのではなく、皆が同じ空間を共有できる場所を創ること」と共感いただき、障がい者の方々や家族、FC今治との交流がスタートしました。



【一歩ずつ社会連携を開始し、3年間で1015名もの関わりを創出】

当時は、FC今治やサッカー自体遠い存在だった方も多く、ピッチでの散歩会の開催や、ホームゲームのボランティアやブース運営、来場者に喜んでもらえるようチームカラーの花壇を作るなど、様々な活動と一緒に取り組み、3年で約70回、延べ1015名が参加しました。

こうして障がい者の方々と地域との交流が徐々に生まれ、ホームゲームはもちろん、アウェーにも家族と一緒に応援に来てくれる人も増えていきました。また、当初はボランティア活動が中心でしたが、施設外就労としてホパイロ(サッカーの用具整備)の業務をお願いしたことがきっかけで、FC今治への就職を希望するメンバーを実際に社員としてお迎えすることもできました。

こうした活動の集大成として完成した「きとなる」には、主に「就労移行支援」「自立訓練(生活訓練)」「放課後等デイサービス」の3つの福祉機能があります。里山スタジアムを豊かに育てていくために、子どもたちが裸足で走り回れる芝生エリアを作ったり、FC今治が運営するカフェの店舗運営サポート等も担当してもらっています。



【ついに竣工。社会連携の拠点としての更なる発展を目指す】

毎日放課後にはランドセルを背負う子どもたちがスタジアムに集い、試合日には訪れる地域の皆様に施設を開放して一緒に賑わいを創り、また、地域の夏祭りも開催しました。

今後はきとなるがハブとなり、他の社会福祉法人にも関わっていただくなど、地域に開かれた心の豊かさを実現する場所として、共に活動を推進していきます。



アビスパ福岡

”社会を想い、一歩踏み出す人を1人でも多く増やしていく”社会連携プロジェクト『FUKUOKA TAKE ACTION!』 1/2

2023年2月より、企業、自治体、学校、NPO団体などと連携して社会課題解決に向けたアクションを推進する「シャレンパートナー」を発足いたしました。プロジェクトを『FUKUOKA TAKE ACTION!』と命名し、クラブ理念を体現する【共育】【社会】【街づくり】の3つのテーマに沿った社会連携アクションを毎月持続的に実施しています。初年度は19回のACTIONを実施、のべ1,297名に“社会の為に自身ができる一歩”となる「行動変容の機会」を創出いたしました。活動資金を捻出するため参加企業各社とパートナー契約を締結、19社で約2千万円の活動財源を確保し、シャレンの自立自走型循環モデルを構築いたしました。



活動場所 ベスト電器スタジアム、fabbitGGアクロス天神、海の中道青少年海の家、天神周辺市街地、福岡大学など



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、NPO、ファン・サポーター、スタジアム、商工会、選手、一般社団法人、ボランティア

協働者名

【企業】(株)OSGコーポレーション、新日本製薬(株)、KDDIまとめてオフィス西日本(株)、大和リース(株)、ユニタビ、neuet(株)、BATジャパン、(株)バンダー、(株)マーキュリー、(株)ユニゾシステムズ、(株)アルペン、(株)ショージ、(株)創建設計事務所、東京海上日動火災保険(株)、(株)バイオマスレジマーケティング、(株)阪急阪神百貨店 博多阪急、(株)福岡地行、(株)フロンティアソリューション、エンドライン(株)【自治体】福岡市役所【大学】日本経済大学、福岡大学【団体】一般社団法人YOU MAKE IT、NPO法人 福岡てらこやあそび、NPO法人ハッピーマンマ



協働者の声 株式会社OSGコーポレーション／毛洲 雅博 氏



OSGは「ステハジ」プロジェクト“使い捨てから生まれる社会課題”の啓発を企業・自治体・学校と共創しています。アビスパ福岡様とは「ステハジ」でシャレンパートナーと「まち(福岡)のサステナブル育成」を目的に「海洋プラごみアート」「プラ干狩り」などのサステナブル体験を提供し、新たな共創を生み出しています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [福岡商工会議所HP](#)
- 3 [こども家庭庁HP](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





アビスパ福岡

”社会を想い、一歩踏み出す人を1人でも多く増やしていく”社会連携プロジェクト『FUKUOKA TAKE ACTION!』 2/2

Story

ホームタウン福岡市は政令市人口増加率1位であり、10代20代の若者の割合も政令市1位と成長著しい都市です。この躍動感あふれる町で、次世代を担う子どもたちや未来のために、アビスパ福岡では独自の社会連携の仕組みとして「シャレンパートナー」を新設し、社会連携プロジェクト『FUKUOKA TAKE ACTION!』を2023年2月にスタートしました。シャレンパートナーは、SDGsなどの社会課題の啓発を実装できている企業だけでなく、地域貢献には興味はあるが何から始めて良いのか分からない、一部のサステナビリティ部門だけの推進で従業員やステークホルダーに浸透できない、など様々な課題をもつ企業・自治体・団体・学生も一緒に参加しています。そして、それぞれの強みを活かし「共創」し



ながら取り組んでいます。『FUKUOKA TAKE ACTION!』のプロジェクト名には、「社会課題が自然とクラブに集まってくる、福岡から社会連携の輪を拡げ、社会を想い一歩踏み出す人を1人でも多く増やし、社会課題に興味関心を持ち、誰もが一歩を踏み出せる“キッカケ”を創っていく」という思いを込めています。また、福岡市が掲げる「人が育ち、新たなビジネスが生まれ、街中に活力の溢れるアジアのリーダー都市の実現」に貢献できると信じています。

実施するプロジェクトは、クラブ理念を体現する【共育】【社会】【街づくり】の3つをテーマに掲げ、月1,2回の頻度で様々な取り組みを実施しています。【共育】学びは子どもだけじゃない、大人も一緒に学ぶプログラミング実践/不登校の子どもを企業・団体・学生が共創して職業体験の場をスタジアムブースに創出。今後もミライプロジェクトとして子どもたちの社会とのつながりを拡げます。【社会】ブラインドサッカー体験、ボッチャ大会を通して「誰も取り残さない社会」をリアル体験。【街づくり】「ステハジ」プロジェクト“使い捨てから生まれる社会課題”をシャレンパートナーが共創して子どもも大人も一緒に楽しく体験できるイベントを企画し「街(福岡)のサステナブル育成」に貢献。アビスパ福岡が目指し



ているのは、「コミュニティ・エンゲージメントパートナーシップ」であり、クラブとパートナー企業が共同で経済活動において自立自走の循環を行い、参加する団体が社会課題解決の為に“アビスパを”プラットフォーム“として活用し自らの強みを活かす「プロジェクトオーナー」になる取り組みです。これからもJリーグのシャレンと連携して、自発的かつ継続的に、コミュニティメンバーと共創していく社会課題解決のプロジェクトを継続していきます。そして毎年新たにいくつかのプロジェクトを発足し、企業・自治体・市民・学生・各種団体の垣根を越えて、時代の潮流に合った社会連携活動を進化させながら推進する「固定のリーダーを持たない」まったく新しいコミュニティの運営に挑戦していきます。

ギラヴァンツ北九州 行橋市×ランニング(ゆくはしる!)～スポーツを通じた新たなまちづくりにチャレンジ～ 1/2

ギラヴァンツ北九州は、フレンドリータウン行橋市で開催される日本陸連公認大会「ゆくはしシーサイドハーフマラソン2024」に向けて、このチャレンジ活動を通じた地域社会の健康増進・世代間交流・まちづくり・教育をテーマとした、ランニングクリニックを開催しました。

「持続可能性の確保」・「関係性の構築と学びの獲得」はSDGsの貢献に寄与するものと考えています。

活動場所 行橋研修センターゆくとぴあ、コスメイト行橋

協働者 **協働者名**

行政、住民、学生、一般社団法人、企業

①行橋市②株式会社ハローデイ③株式会社annonce④明治安田保険相互会社④Health&Beauty Studioミコフィット⑤学校法人戸早学園北九州リハビリテーション学院

協働者の声 行橋市 スポーツ振興課 係長／柴田 優作 氏



「プロサッカーチームがランニング教室!?!」という声も全く聞こえないほど、我が地域の「クラブ」ギラヴァンツ北九州を中心に、講師、参加ランナー、スポンサー様、地域の学生、そして行政も、皆が目標を共有し、「仲間」として一つになった取り組みとなりました。このような一体感が生まれたのも、日頃から地域に根差した様々なプロジェクトを行っていただいているからこそだと感じています！



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [行橋市HP](#)
- 3 [ゆくはしシーサイドハーフマラソンHP①](#)
- 4 [ゆくはしシーサイドハーフマラソンHP②](#)
- 5 [ゆくはしシーサイドハーフマラソンHP③](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





ギラヴァンツ北九州

行橋市×ランニング(ゆくはしる!)～スポーツを通じた新たなまちづくりにチャレンジ～ 2/2

Story

フレンドリータウン行橋市で開催される「ゆくはしシーサイドハーフマラソン2023」に昨年クラブのPRブースを出展しました。その際、今年が市制70周年の節目であること、Jリーグの理念や活動方針に沿い、スポーツに気軽に参加できる機会を創ることなどを踏まえて、ランニングや健康増進をキーワードに行政に企画を提案したことからスタートしました。企画の具体的な検討にあたっては、行政だけでなく、健康の領域で様々な活動を展開しているパートナー企業、学生の学びの場となるように学校法人とも協働する形で、日本陸連公認大会である『ゆくはしシーサイドハーフマラソン2024』に向けたランニングクリニックを開催することが決定しました。



自然豊かな行橋の街をランニングしながら、市のPRと地域住民の健康づくりに寄与し、それぞれが設定した目標タイムの達成に向けて、様々なプログラムを組み、継続的に参加していただくことを目指しました。

ランニングクリニックは全3回実施し、目標設定の講師にTOTO株式会社女子陸上部OG江口氏、ストレッチやけが予防などのウォーミングアップは北九州リハビリテーション学院、実走講座はミコフィット様に担当していただきました。第1回目は本番に向けた目標設定等のコーチング講義のほか、アップやクールダウンに効果的なストレッチ講座や、屋外に出てより良いフォームづくりやスピードアップを目指すドリルを実践。2回目は約1か月後に迫った本番に向け、改めてそれぞれの目標や、やるべき練習方法などを確認、「ランナーに起こりやすい怪我の予防」と題し、予防法やストレッチ講座を行っていただきました。大会5キロの部にゲストランナーとして出場する、ギラヴァンツ北九州OB(元サッカー日本代表)本山雅志氏も飛び入り参加し、参加者と一緒に走っていただきました。3回目は大会当日までの準備や意識づけ、コンディショニングに関するコーチング、「もしものアクシデントに備えて」と題し、レース当日での怪我の予防や対処法を、実演を交え



ながら講義をしていただき、最後は屋外での実走講座としてアップドリルの後、本番のレースをイメージしながらランニングしました。明治安田様にもこの活動に賛同いただき、参加者の健康に関するブースを設けていただきました。

ギラヴァンツ北九州は地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することができる街づくりを目指し、今後もサッカーだけでなく他のスポーツにも気軽に参加できるような機会を多く作り、スポーツの普及および振興に努めて参ります。



サガン鳥栖

Sagan World Cup 1/2

JICA九州と佐賀県国際交流協会と共催し、ホームスタジアムである駅前不動産スタジアムで、31か国約180名の佐賀県在住の企業に勤務する外国人技能実習生や留学生、日本人学生等によるフットサル大会「Sagan World Cup」を開催。インドネシア、ミャンマー他の技能実習生チーム、セネガル、アンゴラ人等含む留学生チーム、中古車会社のアフガニスタン人社員チーム、ウクライナ避難民を含む混合国チームなどが参加した。「Sagan World Cup」の開催は2022年から開催して今回で2回目。企業や学校、地域と外国人や外国人同士のつながりを深めていく目的として開催している。

活動場所 駅前不動産スタジアム

協働者 | **協働者名**

行政、NPO、スタジアム、飲食店、公益財団法人

公益財団法人佐賀県国際交流協会、独立行政法人国際協力機構(JICA)、佐賀県地域交流部国際課、鳥栖市スポーツ振興課、鳥栖市市民協働推進課、佐賀県庁サッカー部、鳥栖高校書道部

協働者の声 公益財団法人佐賀県国際交流協会／黒岩 春地 氏



佐賀県にも多くの外国人が住んでいます。一生懸命働いて、給料が支給されるとすぐ母国にいる家族へ仕送りする人もいます。そんな彼らに、佐賀にいた楽しい思い出を作ってあげたい、そう思ってJICAやサガン鳥栖の皆さんと一緒にやってつくったSagan World Cup。技能実習生や留学生たちの歓声に、本当にやってよかったと思いました。



活動詳細情報

- 1 [佐賀新聞①](#)
- 2 [サガテレビ①](#)
- 3 [サガテレビ②](#)
- 4 [佐賀新聞②](#)

SDGs | **カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





サガン鳥栖

Sagan World Cup 2/2

Story

2022年春、佐賀県国際交流協会及びJICA佐賀デスクとの情報交換の場で、佐賀の企業で活躍する技能実習生など佐賀県に住む外国人に、佐賀で働いてよかった、学んでよかった、住んでよかったと感じてもらおう機会を作っていきたいという声が上がった。併せて、地域や企業の日本人も巻き込み、国籍を超えて誰もが住みやすい地域づくりを目指していくには、世界中多くの人に愛されているサッカー（フットボール、フットサル）こそ、交流の場に最適だという意見が一致した。

外国人も住みやすい地域づくりという点では、外国人が水害で逃げ遅れて亡くなる事故も発生しており、顔が見える地域づくりが一つの課題だった。その一助として、サッカーを通じた交流が、



多文化共生社会における課題解決のきっかけにもなるとの希望を持ち、大会開催に向け動き始めた。当初は実績もなく、会場確保や参加チームの募集にも苦労したが、多方面からの協力が得られたこともあり、2022年12月3日にサガン鳥栖のホームスタジアムで「Sagan World Cup2022」の開催が実現した。第1回大会では、ウクライナ避難民を含む混合国籍チームも参加し、24か国105名の選手が熱戦を繰り広げた。参加者はスタジアムでのサッカーを心から楽しみながら、普段交流の無い外国人同士の絆も芽生えていた。本大会開催にあたり、技能実習生が所属する企業各社のサポート、県内の高校・大学生のボランティア参加、佐賀県庁サッカー部の審判参加など、各界からの趣旨への賛同と協力をいただき、まさに多文化共生・協働の姿を見ることができた。本大会は参加した選手からも好評であっただけでなく、JICAをはじめとする各所からの熱い要望と後押しもあり、第2回大会を2023年12月10日に開催することを直ちに決定した。第2回大会のSagan World Cup2023は、チーム集めに苦労する予想に反し、好評であった。同企業や同学校からのエントリーを1チームにしてもらうなどの調整を行い、最終的には16チーム、31か国180名の参加となった。



また、より交流を広げるため、国際色豊かな飲食ブースを設置したり、フィンランドからの参加に合わせてモルック体験コーナーを設置したり、大会参加者以外でも国際交流を楽しめるような企画にチャレンジ。飲食やモルックで協力いただいた方にも楽しんで外国の方と交流する光景が見られた。Sagan World Cupはまさにスポーツを通じた国際交流の場であり、男女も年齢も立場も関係なく純粹に交流を楽しむ姿がみられ、2024年も継続して開催を予定している。いずれは九州や全国規模でサッカーを通じた国際交流が生まれ、更には地域の方々とも協働し、地域づくり、誰もが住みやすい地域づくりにつながることを夢見ている。



V・ファーレン長崎

長崎のまちの魅力を歩いて、見つけて、磨いて、伝える 1/2

長崎県は今、長崎新幹線開業や長崎スタジアムシティ建設など、大きな変革期を迎えている。V・ファーレン長崎は21市町のホームタウンに足を運び、魅力発信や観光まちづくり、防災対策など様々な地域課題解決に取り組んできた。今後は同じ長崎県のプロスポーツクラブである「株式会社長崎ヴェルカ」と、“新たな仲間”として共に地域に根差し、長崎の魅力を伝えるパートナーとして歩む「株式会社ゼンリン (STLOCAL)」とタッグを組み、スポーツの垣根を超え、両クラブマスコットのヴィイクン・LUCAが長崎のまちの魅力を歩いて、見つけて、磨いて、伝える活動を始めた。



活動場所 長崎県内



協働者

行政、企業、プロスポーツクラブ

協働者名

株式会社ゼンリン、株式会社十八親和銀行、株式会社長崎ヴェルカ、五島市



協働者の声

株式会社ゼンリン ビジネス企画室 MaaS担当部長／藤尾 秀樹 氏



STLOCALの発展には地域の方々との連携は欠かせません。そんな中、V・ファーレン長崎様や長崎ヴェルカ様と出会うことができ、マスコットのお靴のスポンサーということで気づいてくれるか心配でしたが、「靴みたよ！」と声をかけてくれたりと予想以上の反響があり我々の本気が長崎の方々にご理解いただけたと感じております。



活動詳細情報

- 1 [クラブ公式サイト①](#)
- 2 [クラブ公式サイト②](#)
- 3 [STLOCAL](#)



カテゴリ (SDGs) / 取り組みテーマ





V・ファーレン長崎

長崎のまちの魅力を歩いて、見つけて、磨いて、伝える 2/2

Story

■「ながさきのまち魅力発信連携協定」の締結

クラブマスコットであるヴィヴィくんは、Jリーグマスコット総選挙でも1位になったことがあり、長崎県内に留まらず全国にファンが存在する。ホームタウン活動でヴィヴィくんが訪れた場所には、ファン・サポーターも写真を撮りに来てくれることも。クラブを通して長崎県の魅力を新しい視点でもっと広く発信ができないかと考える中で、観光情報Webサイト&スマートフォンアプリ「STLOCAL(ストローカル)」を運営する「株式会社ゼンリン」と、「株式会社十八親和銀行」、「株式会社V・ファーレン長崎」「株式会社長崎ヴェルカ」の4者で、民間主導の地域活性化モデルの確立に向けた「ながさきのまち魅力発

信連携協定」を締結し、シャレン活動を開始した。

■魅力を歩いて、見つけて、磨いて、伝える

離島である五島市は、株式会社ゼンリンと「五島市における観光DX推進に関する連携協定」を締結。その活動の一環として、ヴィヴィくんとLUCAが、市の良いものを歩いて見つける旅に出た。そしてSTLOCALのアプリにヴィヴィくんが紹介記事を執筆。その記事を広く発信することで、多くの方に魅力が伝わり、五島市へ行きたくなる仕掛けづくりを行った。

■さらに広げるための取り組み

①コラボ商品販売

ゼンリンが持つ長崎市の3D地図の上にヴィヴィくんが分身の術で登場している、「ヴィヴィくんクリアファイル」を販売した。



②ホームゲームでの訴求

サッカーと長崎観光を楽しんでもらいたくホームゲームでSTLOCAL Dayを開催。アプリダウンロード者にはオリジナルステッカーをプレゼントしたり、入場ゲートでSTLOCAL音声を採用したりと、試合前のおもてなしから訴求することができた。今後は、ビジターサポーターにも長崎の魅力を知って訪れてもらえる仕掛けづくりを考えていきたい。





ロアッソ熊本

新たな官民連携の仕組み、そして高齢者介護予防のイメージを変える「ロアッソ・ウェルネス・プログラム」 1/2

熊本市とロアッソ熊本、株式会社J.H.Wellness、熊本日日新聞社、熊本銀行がそれぞれの特徴を活かし、ともに社会課題の解決を目指した新たな官民連携の仕組みである成果連動型民間委託契約方式並びにソーシャルインパクトボンド(以下SIB)を活用しながら、人生100年時代、運動機能向上、健康づくりへの意識向上、運動習慣形成、仲間づくりを目的に、これまでの介護予防のイメージを変え、前期高齢者や健康への関心が低い方へのアプローチを行う、新しい健康プログラムとして「ロアッソ・ウェルネス・プログラム」を開始しました。

活動場所 熊本市

協働者

行政、企業、住民、選手

協働者名

熊本市役所、株式会社J.H.Wellness、熊本日日新聞社、熊本銀行

協働者の声 株式会社J.H.Wellness 代表取締役/野々下 直子 氏



地域密着健康運動プログラム「ロアッソ・ウェルネス・プログラム」では、スポーツの楽しさ、一体感により、生きる楽しみが出来たなどの声が聞こえます。クラブを応援し、ワクワクしながら運動習慣継続による健康寿命延伸が地域の活力となるため、メディアや金融機関と連携したSIB事業として、広く展開していきたいと思えます。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式Facebook](#)
- 3 [公式X](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)/取り組みテーマ





ロアッソ熊本

新たな官民連携の仕組み、そして高齢者介護予防のイメージを変える「ロアッソ・ウェルネス・プログラム」 2/2

Story

少子・超高齢社会における社会保障関連費用の増大、特に医療・介護費が急増していることによる日本の財政状況の悪化は、ここ熊本市においても同様で、今後も継続して増大していくことが想定されています。そこで熊本市では、介護・医療費の抑制、健康寿命の延伸を目指し、地域のスポーツチームとの連携や民間の知見や資金の活用など、より効果的で持続的な取組をめざし、ロアッソ熊本、J.H.Wellness、熊本日日新聞社、熊本銀行がそれぞれの特徴を活かし、ともにこの課題を解決するための新たな官民連携の仕組みである成果連動型民間委託契約方式並びにソーシャルインパクトボンドを活用しながら、運動機能向上、健康づくりへの意識向上、運動習慣形成、仲間づくりを目的に、



これまでの介護予防のイメージを変え、前期高齢者や健康への関心が低い方へのアプローチを行う、新しい健康プログラムとして「ロアッソ・ウェルネス・プログラム」を開始しました。

地域のスポーツチーム・ロアッソ熊本がもつ「チカラ」である情報発信や、またプロスポーツが持つイメージによる、これまでの介護予防のイメージを変えたことにより、健康への関心が低い方へのアプローチも可能となり、熊本市内17会場(1コース全12回)で500人以上の方々に参加いただきました。通常このようなプログラムへの参加者はほとんどが女性の場合が多いのですが、「ロアッソ・ウェルネス・プログラム」では多くの男性にも参加いただきました。また参加者全員でクラブカラーの赤に、ロアッソのエンブレムの入ったTシャツを着ることで、一体感が増し、参加者同士のコミュニケーションも活発に行われ、新しい友達できたという話を聞くこともできました。「普段、赤い服なんか着ないから気持ちも高ぶるよね!」と、私たちが想像していた以外の効果も表れたようです。



ロアッソの応援に、いつまでも自分たちの足でスタジアムへ向かう、そのような未来の地域の姿のために、これからも多くの仲間とともに活動の継続と多くの地域への展開を目指します。



大分トリニータ

『大分トリニータ』農業体験交流 1/2

ホームタウンである宇佐市の小学生と大分トリニータが、一年を通じて一緒に米作りから販売までを体験した企画です。2023年に締結した宇佐市・大分トリニータ協力協定に基づき、佐田地区まちづくり協議会とのコラボ事業として農業体験交流を実施しました。子どもたちに地元の農業の楽しさや喜びを、そして同じく地元で活躍する大分トリニータをより身近に感じてもらい、夢・希望・元気を与えたいという想いで実施しましたが、この事業を支えた大人たちや選手たちこそが逆に活力や希望を与えられるような、たいへん幸せな取組みとなりました。



活動場所 宇佐市役所、宇佐市安心院町、宇佐市立佐田小学校、レゾナックドーム大分



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、協議会、スタジアム、選手、農家

協働者名

宇佐市、宇佐市佐田地区まちづくり協議会、宇佐市立佐田小学校、株式会社杵や



協働者の声 宇佐市佐田地区まちづくり協議会 事務局長／河野 好昭 氏



宇佐市と大分トリニータとの協定締結をきっかけに始まった安心院町佐田地区での交流事業。何よりも子どもたちの溢れる笑顔に充実感を覚えました。また子どもたちの健全育成とともに、多くの方に協力いただきながら取り組み、地域の活性化にも繋がりました。佐田地区の未来は明るい！そう確信できる1年の活動でした。感謝！



活動詳細情報

- 1 [佐田地区まちづくり協議会HP](#)
- 2 [宇佐市役所HP①](#)
- 3 [宇佐市役所HP②](#)
- 4 [公式サイト①](#)
- 5 [公式サイト②](#)
- 6 [公式サイト③](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





大分トリニータ

『大分トリニータ』農業体験交流 2/2

Story

小学生と大分トリニータが、田んぼとスタジアムを舞台に、年間を通じて農業体験交流事業を行いました。

宇佐市との連携協力協定に基づき、佐田地区まちづくり協議会と佐田小学校、大分トリニータが結びつき、四者協働して地元を盛り上げようと始まったこの企画は、「地域の宝である子どもたちにかけてあげない思い出を、夢・希望・元気を与えたい」との想いを込め、大分トリニータ選手等と一緒に田植えや稲刈りの農業体験、スタジアムでの交流と試合観戦など様々な体験を共有することができました。



6月初旬に行われた田植えは雨天のため子どもたちとの交流会のみでしたが、前年までトップチーム選手として活躍した松本怜CROと親睦を深め、そして稲穂も首を垂れた9月下旬には、トップチーム所属の高橋・佐藤両選手も参加して稲刈りや掛け干しに挑戦。畦道に座ってお話したり、種もみをじっくり観察したりといった微笑ましい光景が印象的でした。

10月のホームゲームでは、まちづくり協議会女性部の協力による収穫したお米を使った加工品販売・つき餅の振る舞いを実施。子どもたちもブースに立ち、地元で人気のお餅屋さんまでもが販売に協力してくれ行列もなす大盛況。稲刈りに参加の2選手も餅つき・振る舞いを手伝いました。

シーズンオフの12月には近隣2校も交えたサッカー交流会を実施。地域の皆様ともすっかり仲良くなった2選手、松本CRO、ニータンも、子どもたちの元気に終始押され気味なほどの楽しい会となりました。

選手はこの活動を通じて「こちらが元気を貰った」「応援されていると実感。きっと活躍してみせる」と、それぞれ力に変えたようです。



このように、子どもたちが全力で楽しみながら取り組んでくれた様子に、大人こそが夢・希望・元気を貰ったような気がします。

トリニータが参加し、子どもたちだけでなく保護者の皆様など、活動を支えた地域のあらゆる世代の大人も一体となれたこのまちづくり活動。こういった活動が持続可能な地域社会の形成の一助となり、広がっていくきっかけになること、この幸せな繋がりの中にいられることこそが、ホームタウン活動の醍醐味といえるのではないのでしょうか。



テゲバジャーロ宮崎

こどもたちに楽しい時間を届けるぞ！プロジェクト(サッカーボール編) 1/2

全ての公式戦で勝利した場合、協賛企業の皆様から頂いたボールを県内の小中学校等にお届けするプロジェクトです。「サッカーをしているこどもたちに、思う存分、サッカーを楽しんでほしい」、「まだサッカーをしていないこどもたちに、新しい楽しみを見つけてほしい」という願いのもと、この活動をしています。

2023シーズンはホームタウンである宮崎市・新富町・西都市の小中学校、計22校に届けることができました。

選手、協賛企業様、サポーターの皆様と一緒に楽しい時間を、引き続き多くのこどもたちに届けられるよう、この活動を大きくして参ります。



活動場所 宮崎県内の小中学校



協働者

行政、企業

協働者名

宮崎県教育庁 中部教育事務所、江夏商事ホールディングス株式会社、大淀開発株式会社、南宮崎ヤマモト腎泌尿器科、吉川工業アールエフセミコン株式会社、宮崎日機装株式会社



協働者の声

宮崎県教育庁 中部教育事務所／山崎 努 氏



憧れの選手から手渡しされたボールは授業での活用はもちろん、夢を追うこどもたちにとって大きな存在になっているようです。「ボールを蹴る選手の姿はかっこよかった」、「身体を動かすのがもっと楽しくなった」等たくさんの声が学校から届いています。

こどもたちの歓喜の音がより広がるよう、これからも支援していきます！



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





テゲバジャーロ宮崎

こどもたちに楽しい時間を届けるぞ！プロジェクト(サッカーボール編) 2/2

Story

サッカーをしているこどもたちにもっとサッカーを楽しんでほしい、まだサッカーをしていないこどもたちに新しい楽しみを見つけてほしいといった願いのもと始まったプロジェクトです。テゲバジャーロ宮崎が公式戦で勝利した場合、宮崎県内の小中学校に協賛企業様より頂いたサッカーボールを1勝利あたり2校にお届けさせていただくというものです。

2022シーズンに始めたこのプロジェクトは、2年目を迎えました。

2023シーズンはホームタウンである宮崎市・新富町・西都市の小中学校計22校にボールをお届けすることができました。



サッカーボールは、選手が直接小中学校へお伺いし、こどもたちにプレゼントします。ボールをプレゼントするだけでなく、こどもたちと交流をすることもあり、最初はクラブのことや選手のことを知らない子も多くいますが、交流をする中でサッカーやクラブに興味をもってくれます。実際に、交流の後に行われた試合をスタジアムまでこどもたちが観に来てくれることもあり、ボールを届けたこどもたちから元気をもらうこともできました。

ある学校では、休み時間にいつもサッカーをして遊ぶこどもたちがいるとのことでしたが、そのボールが非常に使い込まれているものだったとのことで、新しいボールをお届けしたことをとても喜んでもらえました。

その他にも、プレゼントしたボールを学校の運動会で使用して頂いたとお話や、こどもたちからは、「休み時間にみんなで使っているよ！」などといった話を直接お伺いすることもありました。



この活動を通して、こどもたちに楽しい時間をお届けするだけでなく、こどもたちからたくさんの元気なパワーをもらうこともできました。

今後も、スポンサーの皆様や応援頂くファン・サポーターの皆様と共に、たくさんの学校や少年団にサッカーボールをお届けしてサッカーを楽しんでもらうことができますよう、この活動を継続して参ります。



鹿児島ユナイテッドFC

旅するアカウミガメを見守るプロジェクト 1/2

クラブの練習場「ユニータ」が所在する鹿児島市喜入には、毎年初夏になるとアカウミガメが産卵に訪れます。しかし、昔はもっと頻繁に各海岸で見られたアカウミガメの産卵は、今では環境の変化などで減っています。

そんな状況に対して私たちにできることとして、トップチームの監督や選手、アカデミーの選手やクラブ職員みんなで、海岸に流れ着いた流木やプラスチックごみを集める清掃活動を、節目節目で行っています。そして地域の方々と連携して産卵状況の確認、卵が孵化して子ガメが海へ旅立つまでの見守り、そして記録として残して「鹿児島の海の豊かさ」を知ってもらっています。



活動場所 鹿児島市喜入



協働者

行政、住民

協働者名

喜入在住有志、いおワールドかごしま水族館、鹿児島市役所喜入支所



協働者の声

いおワールドかごしま水族館／柏木 由香利 氏



今年は、ウミガメの卵が台風接近でピンチの時に、鹿児島ユナイテッドFCの練習場の一角に、卵を移した砂槽を置かせてもらい、子ガメが海に旅立つまでお手伝いいただきました。皆さんのおかげで喜入の町やウミガメの事を知ってもらえる機会が増えました。これからも一緒に鹿児島の海の豊かさを伝えられたらうれしいです。



活動詳細情報

1

[公式YouTube①](#)

2

[公式YouTube②](#)

3

[公式サイト①](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





鹿児島ユナイテッドFC

旅するアカウミガメを見守るプロジェクト 2/2

Story

練習場の近くから旅立つアカウミガメの子どもたち

選手たちの手を離れ砂浜に降り立った子ガメたち。卵から孵化してまだ1週間も経たない子ガメたち。砂浜でしばし立ち尽くす子ガメもいますが、やがて誰に教えられるでもなく海岸の方向を理解して進み始めます。

手足をパタパタと一生懸命に動かしながら。そして波に浸かるとそのまま大海原へと旅立っていきます。

その場で見ている選手たちだけでなく、SNSでその様子を見たファンサポーターにとっても、生命の神秘と尊さを感じる貴重な機会です。



地域の方々の努力への小さなお手伝い

何百年何千年と続いてきた壮大な命のリレー。しかし、環境の変化で数自体も減り、海岸に上陸してもゴミにさえぎられて産卵を諦めてしまったり…喜入で産卵するアカウミガメは…減ってきています。その状況に対して小さい頃からアカウミガメに親んできた地域の方々や、かごしま水族館の方々は産卵状況の調査、孵化して旅立つまでの見守り活動を行ってきました。

喜入に練習拠点を置く鹿児島ユナイテッドFCは監督や選手、アカデミー、クラブぐるみで海岸に漂着した流木やプラスチックごみを収集して、台風や高潮の影響で全滅の危機にある卵をお預かりして、孵化して海に旅立つまでを見守ることに取り組んでいます。

今年は練習場「ユニータ」でお預かりした100個の卵から90匹以上の子ガメが孵化して、大海原へと旅立っていきました。



自分たちの活動を通じて「知ってもらう」

私たちがしていることはささやかなことで、地域の方々のご尽力にちょっとだけお手伝いをしているだけかもしれません。

けれど私たちの活動とSNSやYouTubeでの発信を通じて、ファンサポーターをはじめ多くの方々に、あるいはJリーグでプレーする選手やアカデミーの子どもたちにも環境問題について、そして生まれてくる命の尊さについて考えてもらうきっかけとなっています。

命を受け継ぐために、できることから私たちは取り組んでいます。



FC琉球

FC琉球ハダシバ！～ハダシで芝で遊ぼう！～ 1/2

多くのJクラブがキャンプを実施し日本サッカー界も恩恵を受けている沖縄の良質な天然芝グラウンド。市町村が維持管理するそのグラウンドを地元沖縄の社会課題解決のためにも活用するべくスタートした「FC琉球ハダシバ！」プロジェクト。子供たちがFC琉球の選手たちと裸足で芝生の上で遊び、スポーツや外遊びの楽しさを実感し、健康増進、運動習慣定着を図った。大きな太陽の下、芝の上で裸足ではしゃぐ子供たちのたくさんの笑顔が、県民の健康問題、母子世帯の多さなどによる沖縄特有の社会課題解決へのアシ掛かりになることを願って！



活動場所 タピック県総ひやごんスタジアム、黄金森公園陸上競技場、豊見城総合公園陸上競技場、瀬長島サンセットパーク(サンセット広場)



協働者

行政、企業、ファン・サポーター、選手

協働者名

南風原町教育委員会、豊見城市教育委員会、東洋グリーン株式会社、リゾート琉球株式会社、上間菓子店株式会社



協働者の声 東洋グリーン株式会社／石井 洋介 氏



今回の活動は、裸足になって芝生で遊ぶことで、外で身体を動かす事の楽しさや、裸足で遊ぶ爽快感を子供たちに味わってもらうことが目的のひとつでした。普段スポーツをやっていないと触れる機会が少ない、競技場の整備された芝生の上で遊ぶ事で、体を動かして遊ぶ事の魅力を感じてもらう良い機会になったと感じています。



活動詳細情報

- [1 公式サイト①](#)
- [2 公式サイト②](#)
- [3 公式サイト③](#)
- [4 リゾート琉球HP](#)
- [5 南風原町「広報はえばる」](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC琉球

FC琉球ハダシバ！～ハダシで芝で遊ぼう！～ 2/2

Story

スポーツ庁の2022年度全国体力テストで沖縄県内の肥満傾向にある児童生徒の割合は全国平均を大きく上回っており、特に体育の授業を除く1週間の総運動時間0分の公立学校児童生徒が全4カテゴリー(小5男・女、中2男・女)中、3カテゴリーで全国ワースト、残るカテゴリーもワースト2と突出しており、県教育委員会では体育の授業以外でも運動に親しむ機会の創出、日常的な運動習慣づくりの推進を急務としている。

また、沖縄県ではJクラブ等のキャンプ誘致のために県が実施した「芝人(しばんちゅ)養成事業」により県内多くの市町村が良質な天然芝グラウンドを保有し、サッカー界も大きな恩恵を受けているが、



行政課題として税金でこれを維持していくためには住民にもこれをさらに有効活用してもらう必要があった。

「FC琉球ハダシバ！」プロジェクトは、これら2つの課題を解決するため、FC琉球と「芝人養成事業」により県内の多くのグラウンドの芝生を管理している東洋グリーン株式会社が共同で企画し、複数の市町村との連携によりスタートした。「ハダシバ！」とは「ハダシで芝で遊ぼう！」の略称であり、その名の通り沖縄の整備された芝生で、子供たちにFC琉球の選手やスタッフと一緒に裸足になって鬼ごっこやだるまさんが転んだなどの公園遊びをすることでスポーツや外遊びの楽しさを実感してもらい、子供の健康増進、将来に渡る運動習慣の定着を図る取り組みである。なお、一般的には芝の育成のために利用頻度が制限されることが天然芝施設有効活用の課題となるが、子供が裸足で遊ぶ分には芝のダメージが少ないこともこの活動の大きな利点である。

さらに、行政からのニーズとして、別の社会課題への取り組みとしても「ハダシバ！」を活用することになった。沖縄県は母子家庭比率が全国平均の2倍と突出していることもあり学童クラブなどの子供の



居場所を利用する子供が多く利用時間も長いため、子供たちに体を動かしたり様々な体験を提供し続けることが難しかったが、それにも「ハダシバ！」が役に立ったのである。

開催初年度の昨年は5回開催、計178人の子供たちが「ハダシバ！」に参加し、そのたくさんの笑顔がメディアや広報誌で広がったことで、他の市町村や学童クラブからも「ハダシバ！」を実施してほしいという要望を多く聞くようになった。また、イベントへの物品やサービスの提供など協力企業も増えつつある。FC琉球の名物シャレン活動として、今後もより多くの行政や企業と連携しながら活動を広げていきたい。